

あま市地域福祉に関する
アンケート等調査報告書（案）

令和5年 月

あま市

目次

第1章 一般市民アンケート調査	1
1 調査の概要.....	1
調査目的	1
調査設計	1
回収結果	1
報告書の見方	1
2 回答者の属性について.....	2
3 地域との関わりについて.....	9
4 地域の支えあいについて.....	25
5 ボランティア活動について.....	40
6 災害時における活動等について.....	49
7 再犯防止について.....	59
8 成年後見制度について.....	62
9 市の福祉施策等について.....	68
10 社会福祉協議会の活動について.....	89
11 市民アンケート調査結果からみるあま市の地域福祉の課題と今後の方策.....	100
第2章 団体アンケート調査	106
1 調査の概要.....	108
2 アンケート結果.....	109
3 対面ヒアリング結果.....	135
4 団体アンケート調査結果からみるあま市の地域福祉の課題と今後の方策.....	149
資料編	151
1 市民向けアンケート調査票.....	153
2 団体向けアンケート調査票.....	169

第1章 一般市民アンケート調査

1 調査の概要

調査目的

平成 31（2019）年 3 月に策定した「第 2 次あま市地域福祉計画及び第 2 次あま市社会福祉協議会地域福祉活動計画」の見直しを行うにあたり、地域における様々な課題の解決に向けて、市民と行政がともに地域福祉を推進していく上での指針となるこの計画を、現在の多様化・複合化するニーズに応じていけるようにするため実施しました。

調査設計

調査対象	18 歳以上の市民
対象者数	3,000 人
抽出方法	無作為抽出
調査時期	令和 4 年 10 月 6 日（木）～10 月 28 日（金）
調査方法	郵送による送付・回収

回収結果

配布数	3,000 件	
回収数	1,118 件	
	有効	1,118 件
	無効	0 件
有効回収率	37.3%	

報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しました。そのため、パーセントの合計が 100%にならないこともあります。
- (2) 回答率（%）は、その質問の回答者数を母数として算出しました。
- (3) 基数となるべき実数（n）は、設問ごとの回答者数として掲載しました。比率は、この回答者数を 100%として算出しています。
- (4) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数とし、その項目を選び、○印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をしました。そのため、各項目の比率の合計は 100%を超える場合もあります。
- (5) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合があります。

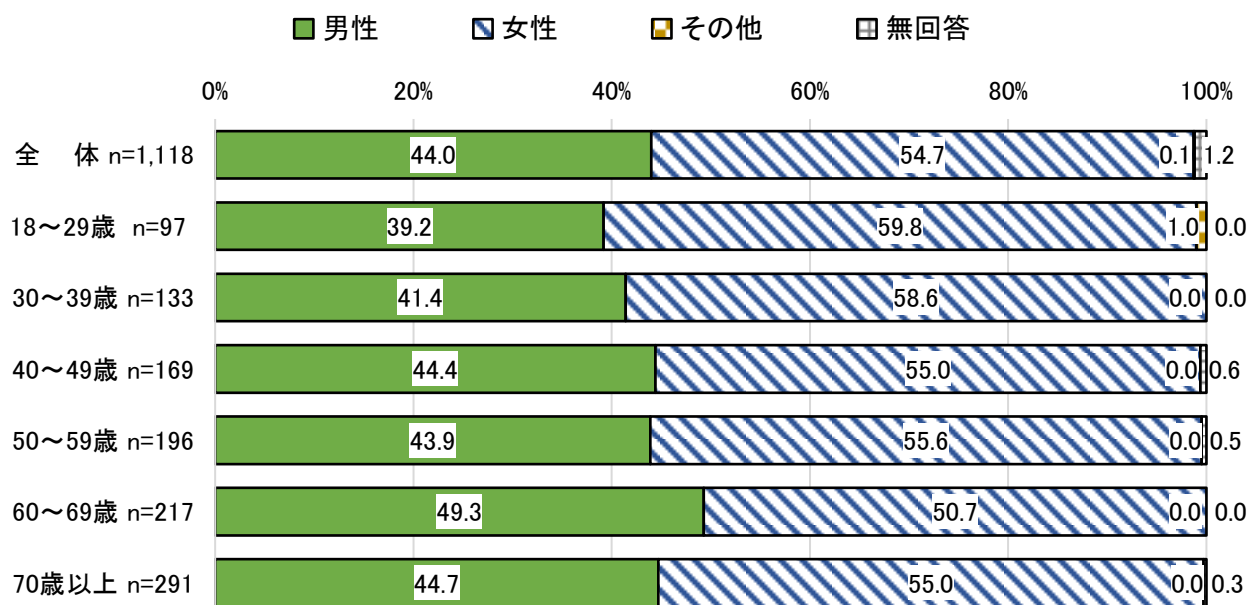
2 回答者の属性について

問1 性別をお答えください。(〇は1つだけ)

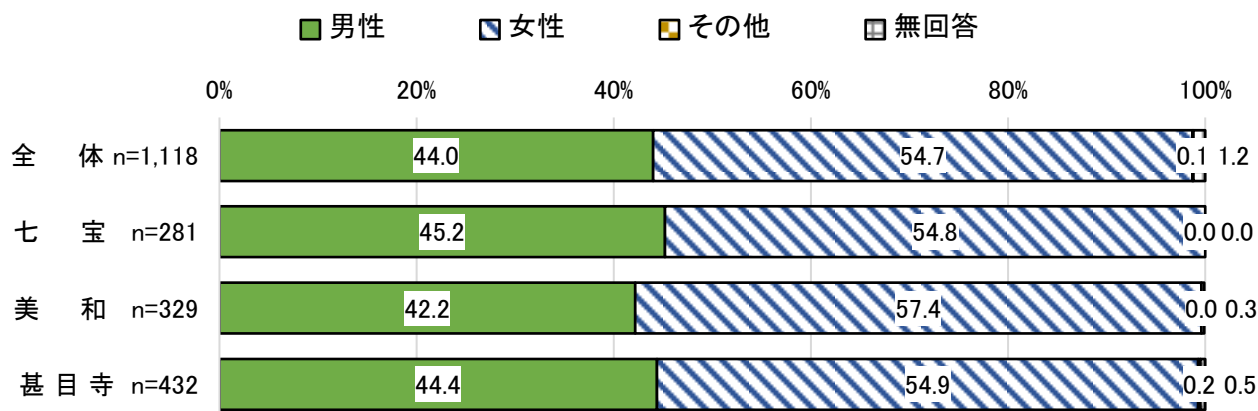
性別は、「男性」が44.0%、「女性」が54.7%となっています。

年齢別・地区別にみると、いずれの年齢・地区においても女性の方が男性よりやや高くなっています。

【年齢別】



【地区別】

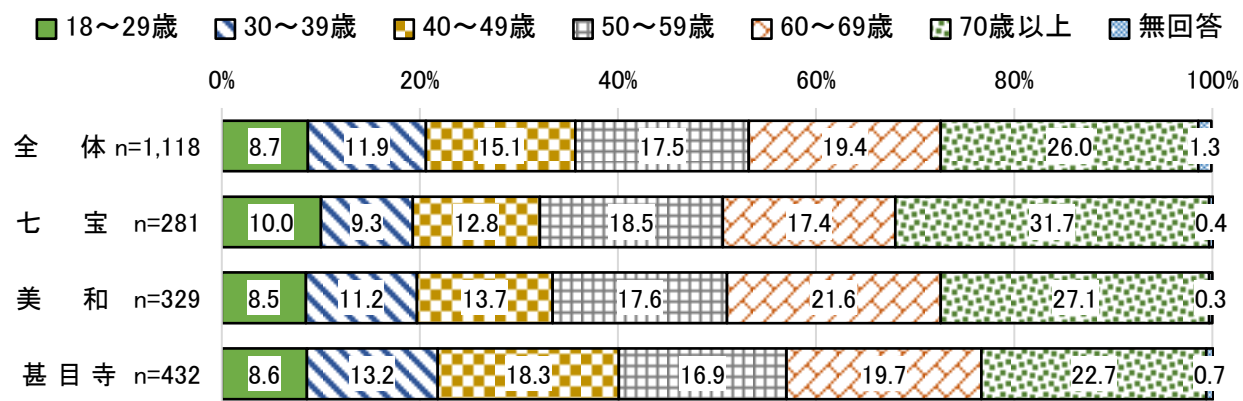


問2 年齢をお答えください。(〇は1つだけ)

年齢は、「70歳以上」が26.0%と最も高く、次いで「60～69歳」が19.4%、「50～59歳」が17.5%となっています。

地区別にみると、いずれの地区においても「70歳以上」が高くなっています。

【地区別】



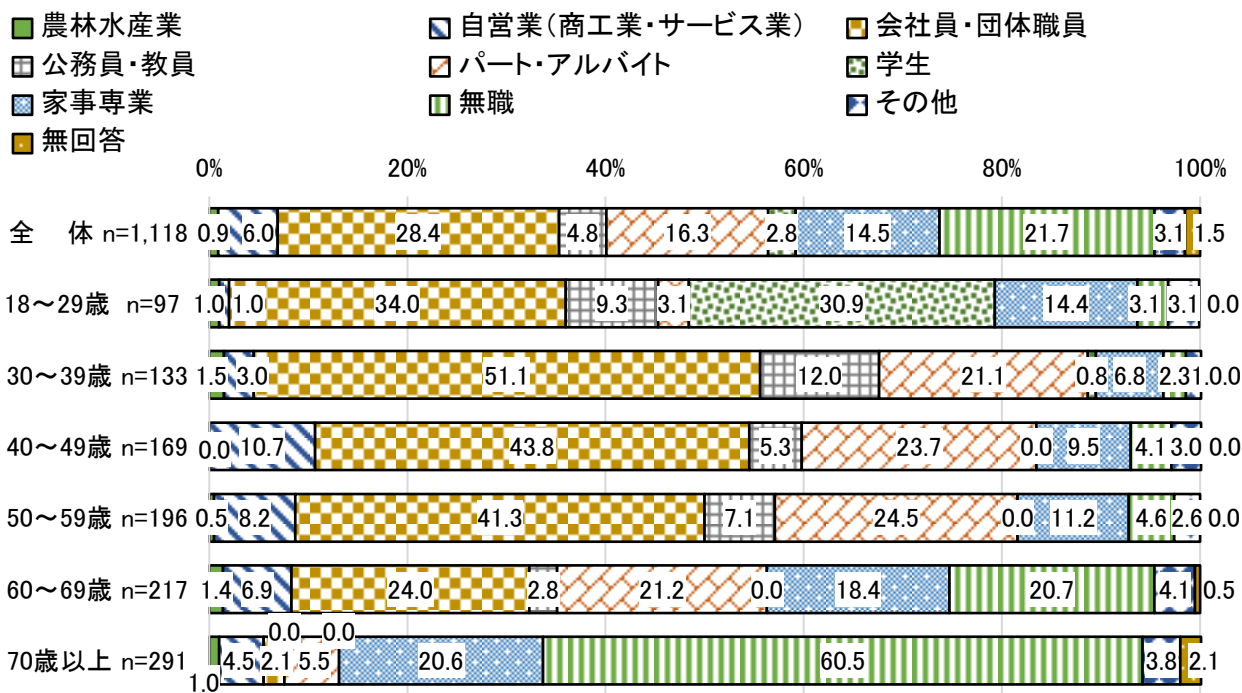
問3 主な職業についてお答えください。(〇は1つだけ)

主な職業について、「会社員・団体職員」が28.4%と最も高く、次いで「無職」が21.7%、「パート・アルバイト」が16.3%、「家事専業」が14.5%となっています。

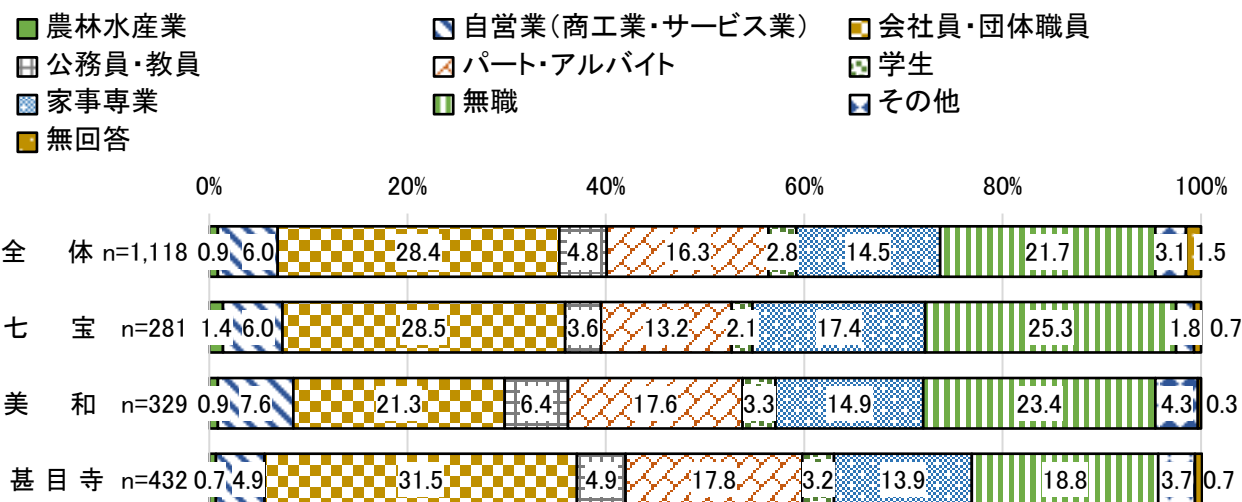
年齢別にみると、18～69歳では「会社員・団体職員」が、70歳以上では「無職」が、それぞれ最も高くなっています。

地区別にみると、甚目寺地区では「会社員・団体職員」が他の地区に比べてやや高くなっています。

【年齢別】



【地区別】



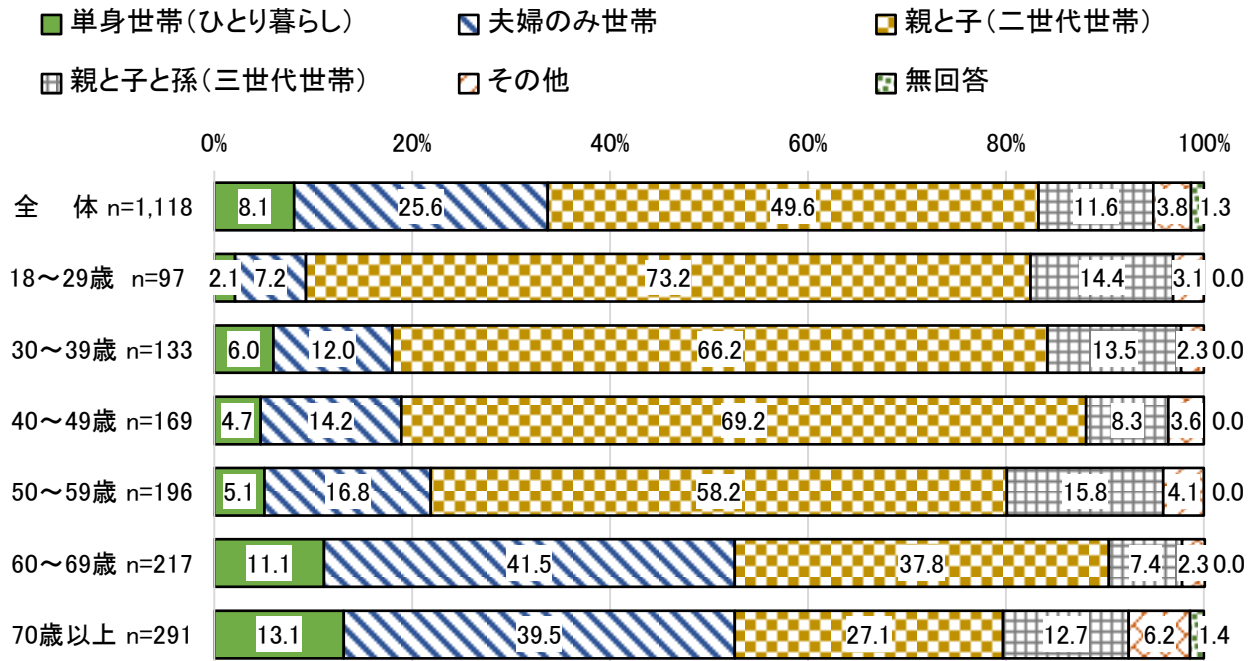
問4 家族構成をお答えください。(○は1つだけ)

家族構成は、「親と子(二世帯世帯)」が49.6%と最も高く、約半数を占めています。次いで「夫婦のみ」が25.6%、「親と子と孫(三世帯世帯)」が11.6%となっています。

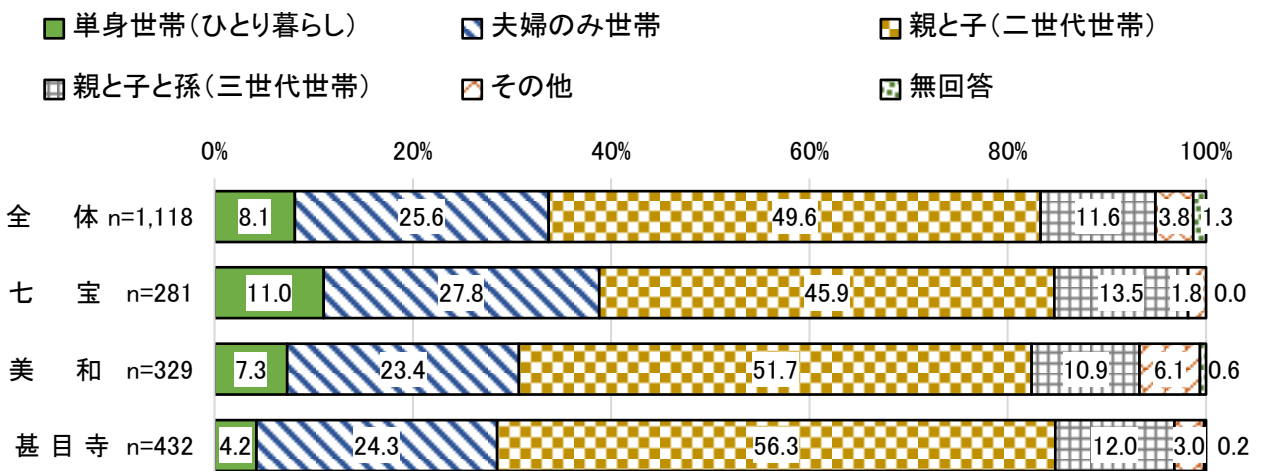
年齢別にみると、18歳～59歳では「親と子(二世帯世帯)」が最も高くなっています。また、60歳以上では「夫婦のみ世帯」が最も高くなっています。

地区別にみると、七宝地区で「単身世帯(ひとり暮らし)」が他の地区に比べてやや高くなっています。

【年齢別】



【地区別】



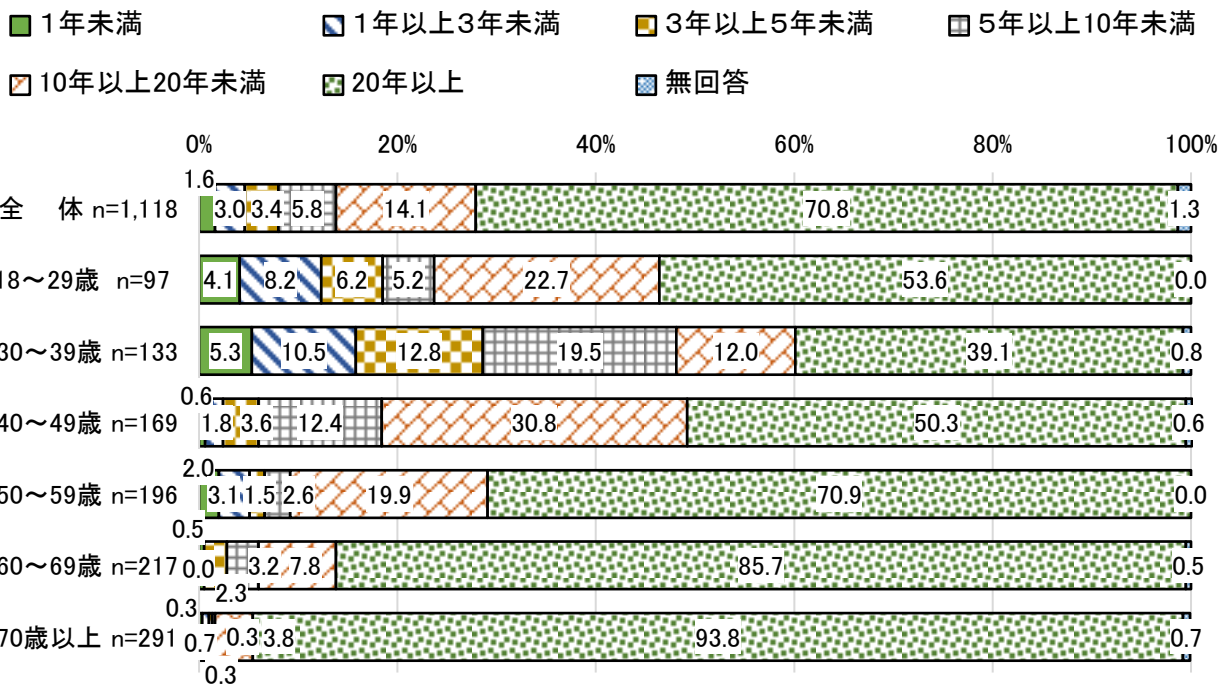
問5 あま市での居住年数をお答えください。(〇は1つだけ)

あま市での居住年数は、「20年以上」が70.8%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が14.1%、「5年以上10年未満」が5.8%となっており、居住年数10年以上の人が8割以上を占めています。

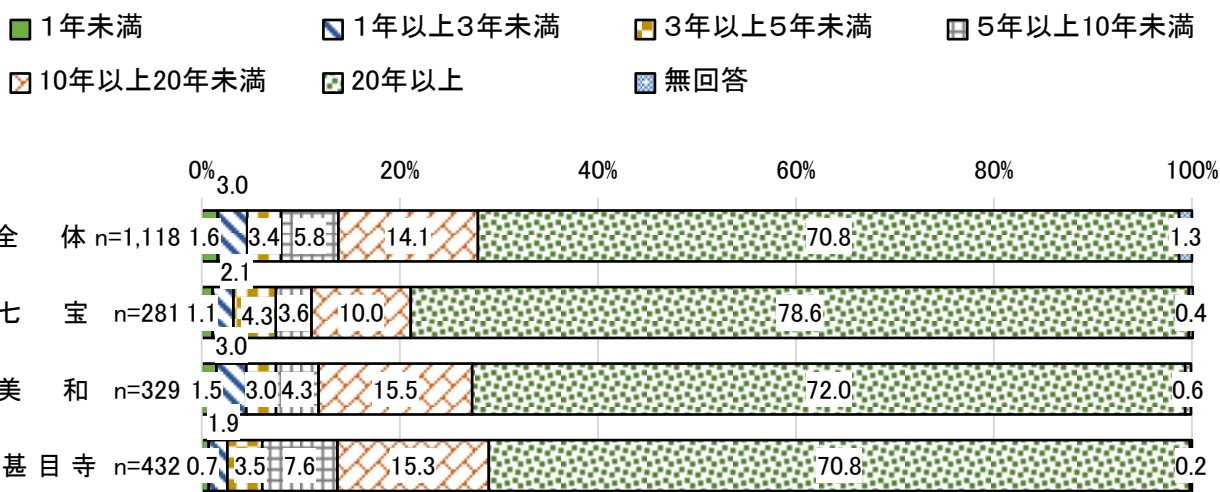
年齢別にみると、いずれの年齢でも「20年以上」が最も高くなっていますが、30～39歳では10年未満が約半数を占めています。

地区別にみると、七宝地区で「20年以上」が他の地区に比べてやや高くなっています。

【年齢別】

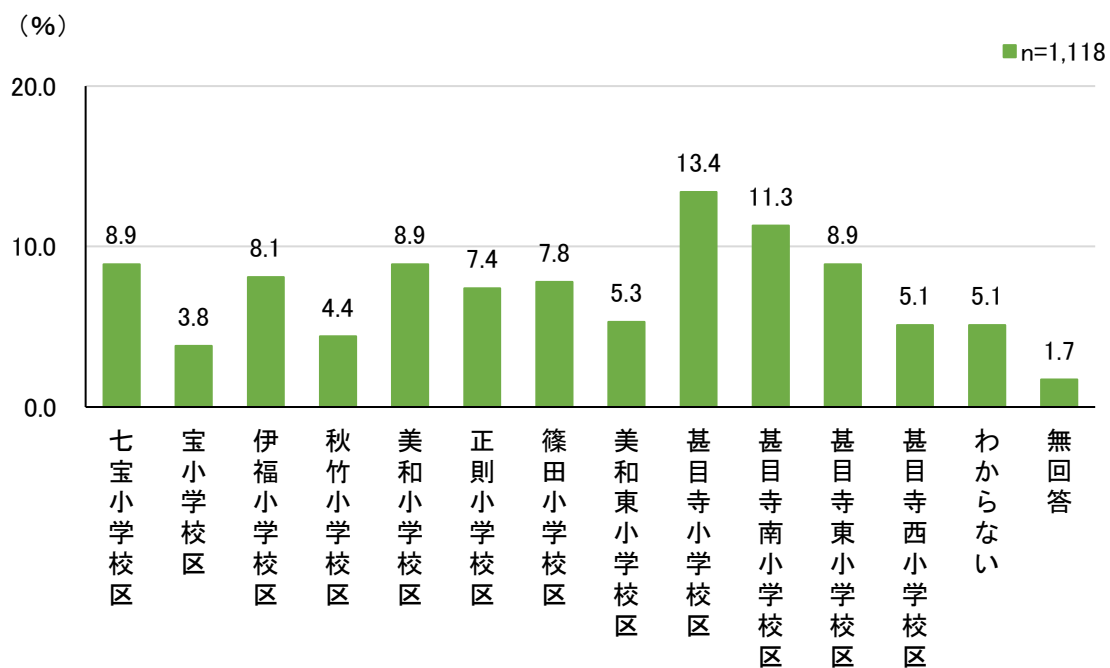


【地区別】



問6 お住まいの小学校区についてお答えください。(〇は1つだけ)

お住まいの小学校区について、「甚目寺小学校区」が13.4%と最も高く、次いで「甚目寺南小学校区」が11.3%、「七宝小学校区」、「美和小学校区」、「甚目寺東小学校区」がいずれも8.9%となっています。



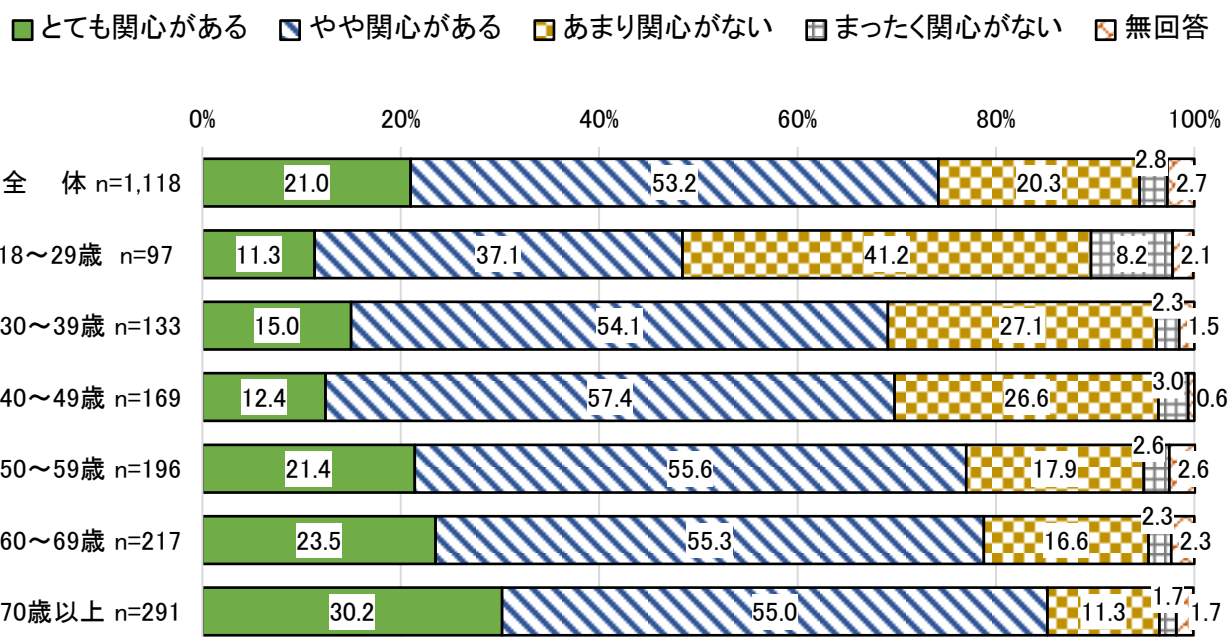
問7 あなたは、「福祉」に関心をお持ちですか。(〇は1つだけ)

「福祉」に関心をもっているかについて、「とても関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある』が74.2%、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」を合わせた『関心がない』が23.1%となっています。

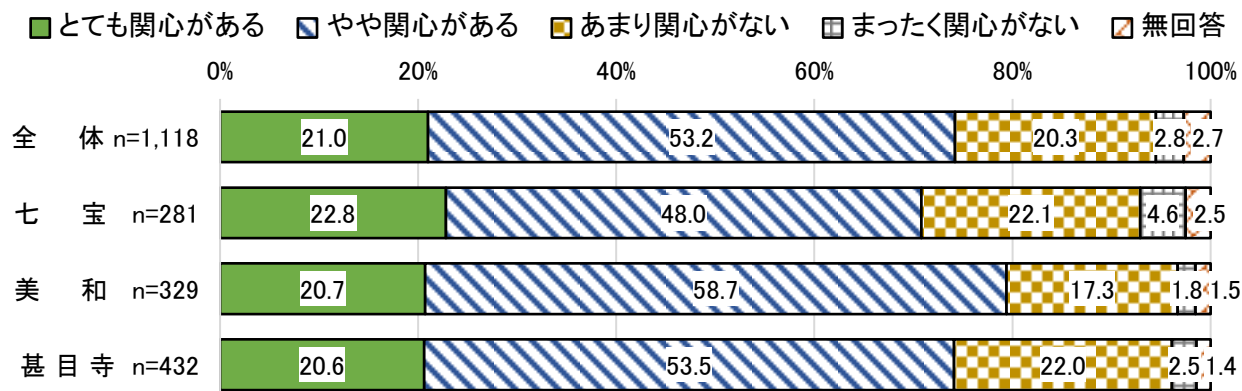
年齢別にみると、18～29歳では『関心がない』が他の年齢に比べて高くなっています。

地区別にみると、美和地区で『関心がある』が他の地区に比べて高くなっています。

【年齢別】



【地区別】



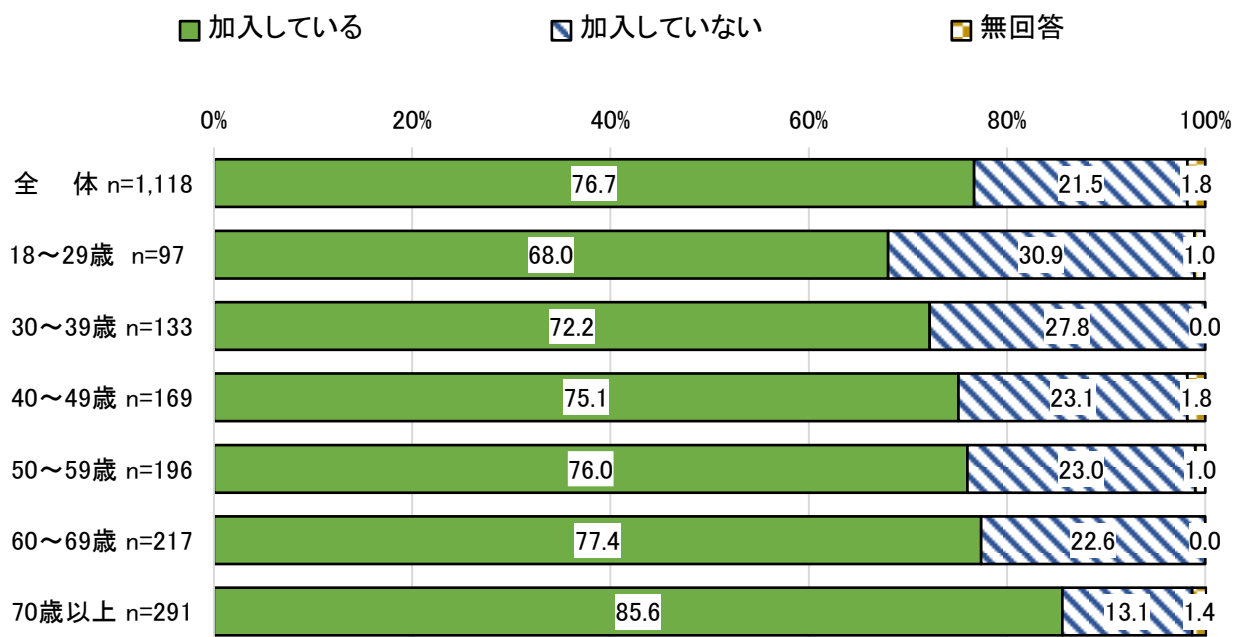
3 地域との関わりについて

問8 あなた（もしくは、あなたの家族）は自治会・町内会に加入していますか。
（○は1つだけ）

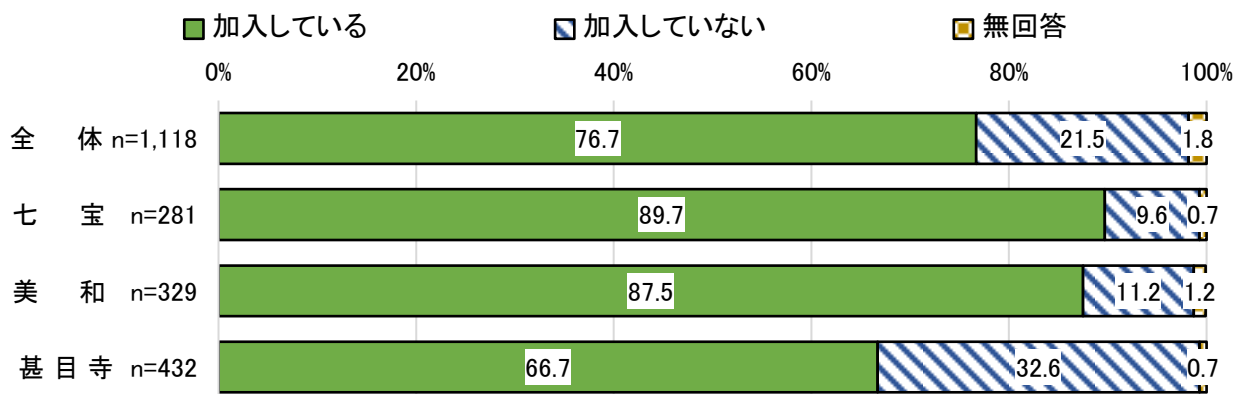
自治会・町内会に加入しているかについて、「加入している」が76.7%、「加入していない」が21.5%となっています。

年齢別にみると、70歳以上では「加入している」が他の年齢に比べて最も高くなっています。
地区別にみると、七宝地区では「加入している」が他の地区に比べて最も高くなっています。

【年齢別】



【地区別】



問9 普段、近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(〇は1つだけ)

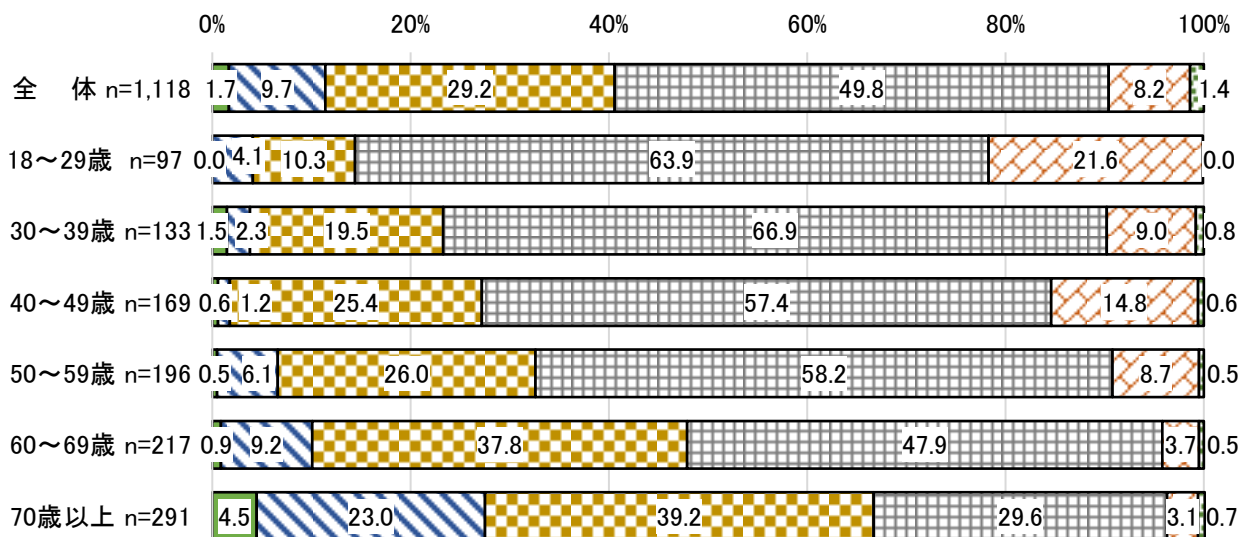
近所の人との付き合いについて、「顔をあわせれば挨拶する程度」が49.8%と最も高く、次いで「顔をあわせれば立ち話をする程度」が29.2%、「良く行き来はするが、家庭の中までは立ち入らない」が9.7%となっています。また「ほとんど付き合いがない」は8.2%となっています。

年齢別にみると、70歳以上では「顔をあわせれば立ち話をする程度」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「顔をあわせれば挨拶する程度」が最も高くなっています。

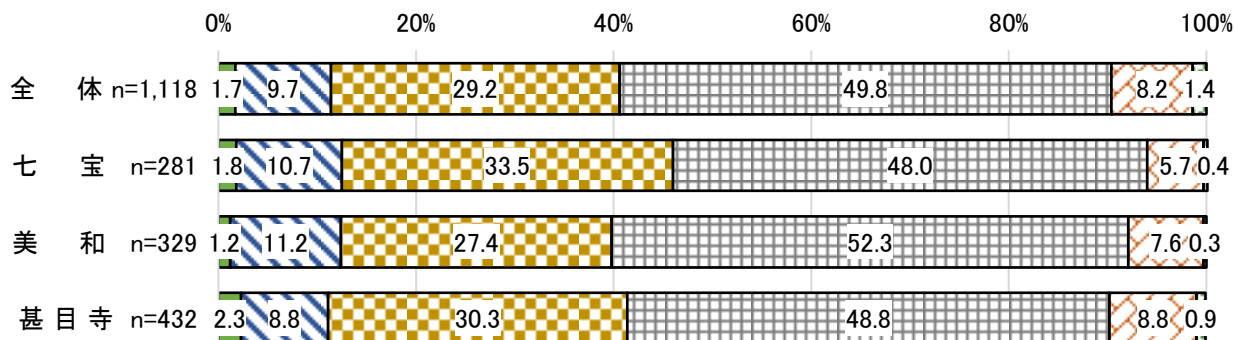
【年齢別】

- 特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様の付き合い
- 良く行き来はするが、家庭の中までは立ち入らない
- 顔をあわせれば立ち話をする程度
- 顔をあわせれば挨拶する程度
- ほとんど付き合いがない
- 無回答



【地区別】

- 特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様の付き合い
- 良く行き来はするが、家庭の中までは立ち入らない
- 顔をあわせれば立ち話をする程度
- 顔をあわせれば挨拶する程度
- ほとんど付き合いがない
- 無回答



問10 あなたは、自分と地域の人たちとのつながりが強いと感じますか。(〇は1つだけ)

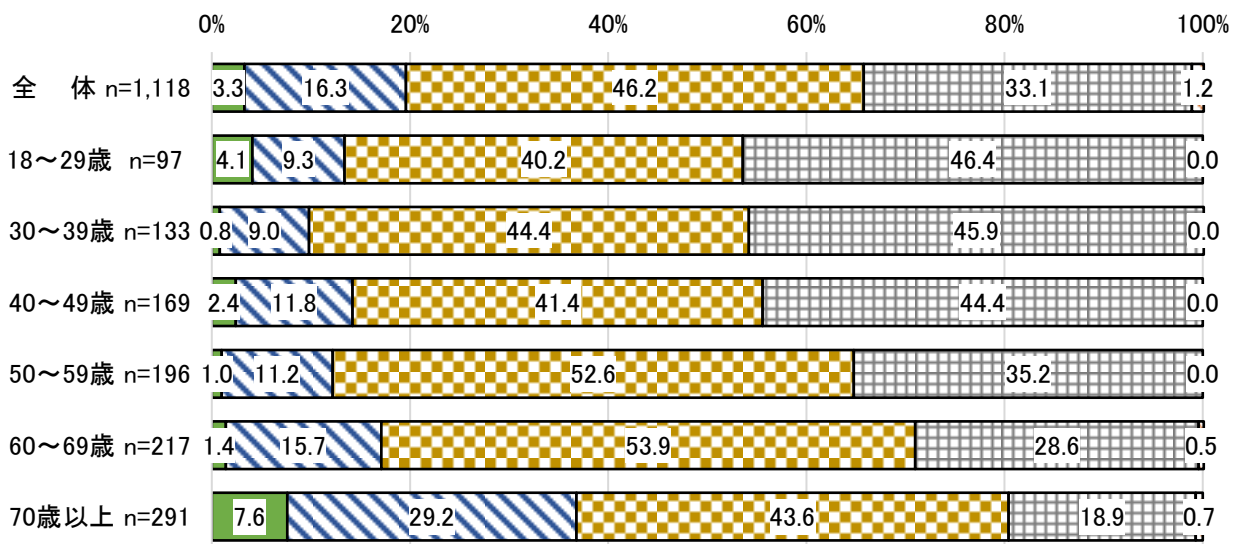
自分と地域の人たちとのつながりが強いかについて、「強いと思う」と「どちらかといえば強いと思う」を合わせた『つながりが強いと思う』が19.6%、「どちらかといえば弱いと思う」と「弱いと思う」を合わせた『つながりが弱いと思う』が79.3%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で『つながりが強いと思う』が他の年齢に比べて高くなっています。

地区別にみると、美和地区で『つながりが強いと思う』が他の地区に比べて高くなっています。

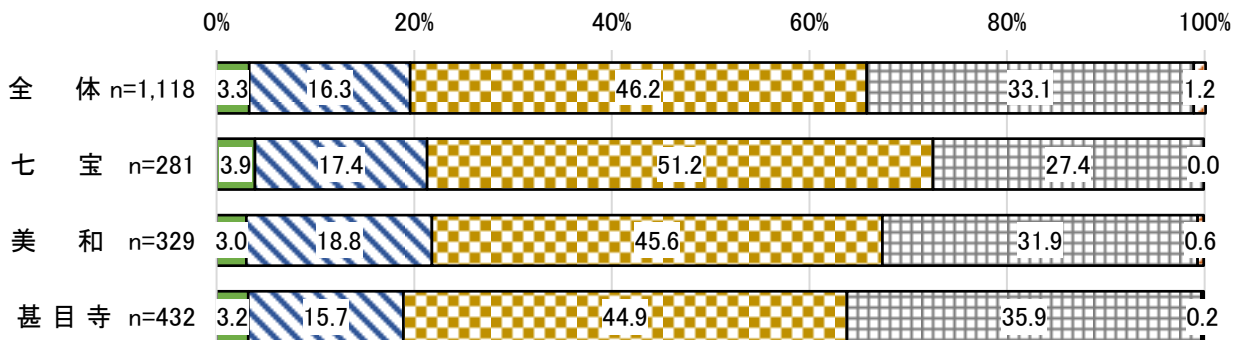
【年齢別】

■ 強いと思う ■ どちらかといえば強いと思う ■ どちらかといえば弱いと思う ■ 弱いと思う ■ 無回答



【地区別】

■ 強いと思う ■ どちらかといえば強いと思う ■ どちらかといえば弱いと思う ■ 弱いと思う ■ 無回答



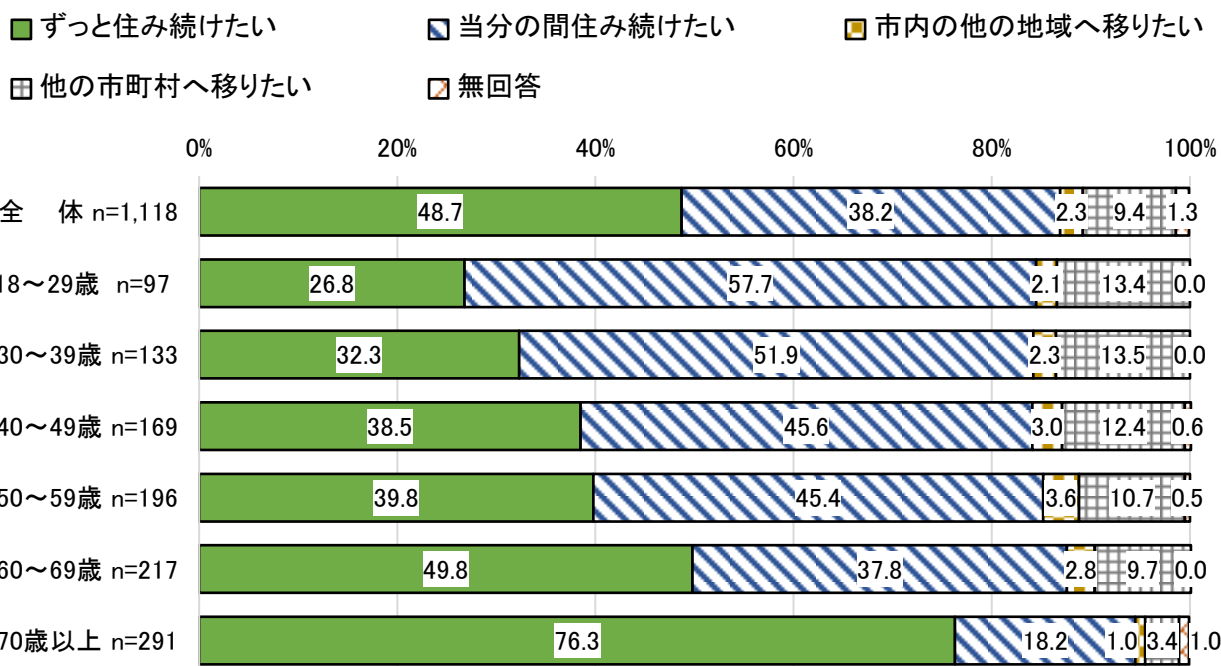
問 11 今後も現在の地域で暮らしていきたいと思えますか。(○は1つだけ)

今後も現在の地域で暮らしていきたいかについて、「ずっと住み続けたい」が48.7%と最も高く、次いで「当分の間住み続けたい」が38.2%となっており、『住み続けたい』と回答した人が86.9%を占めています。一方、「他の市町村へ移りたい」は9.4%にとどまっています。

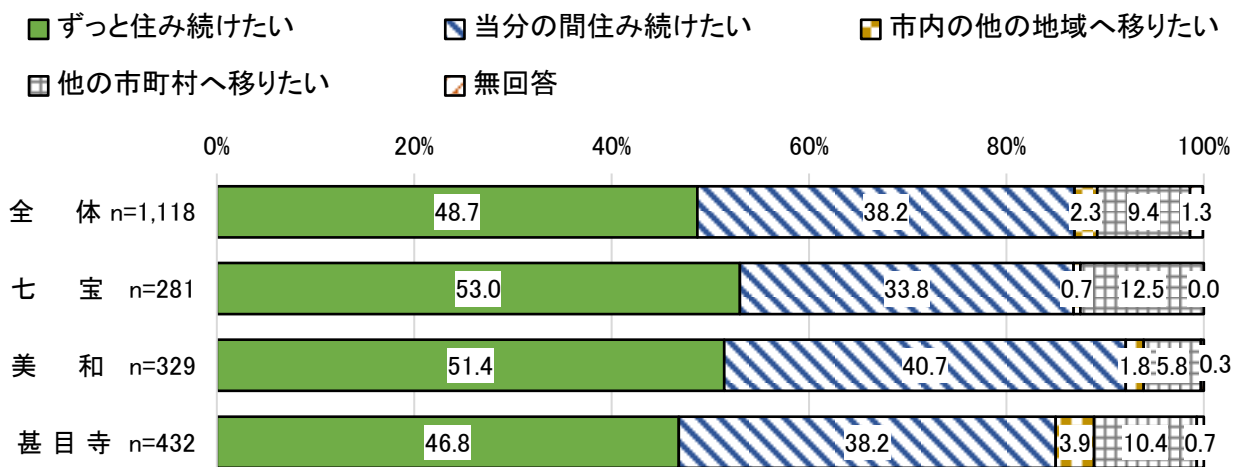
年齢別にみると、70歳以上では「ずっと住み続けたい」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、七宝地区で「ずっと住み続けたい」が他の地区に比べて最も高くなっています。

【年齢別】



【地区別】



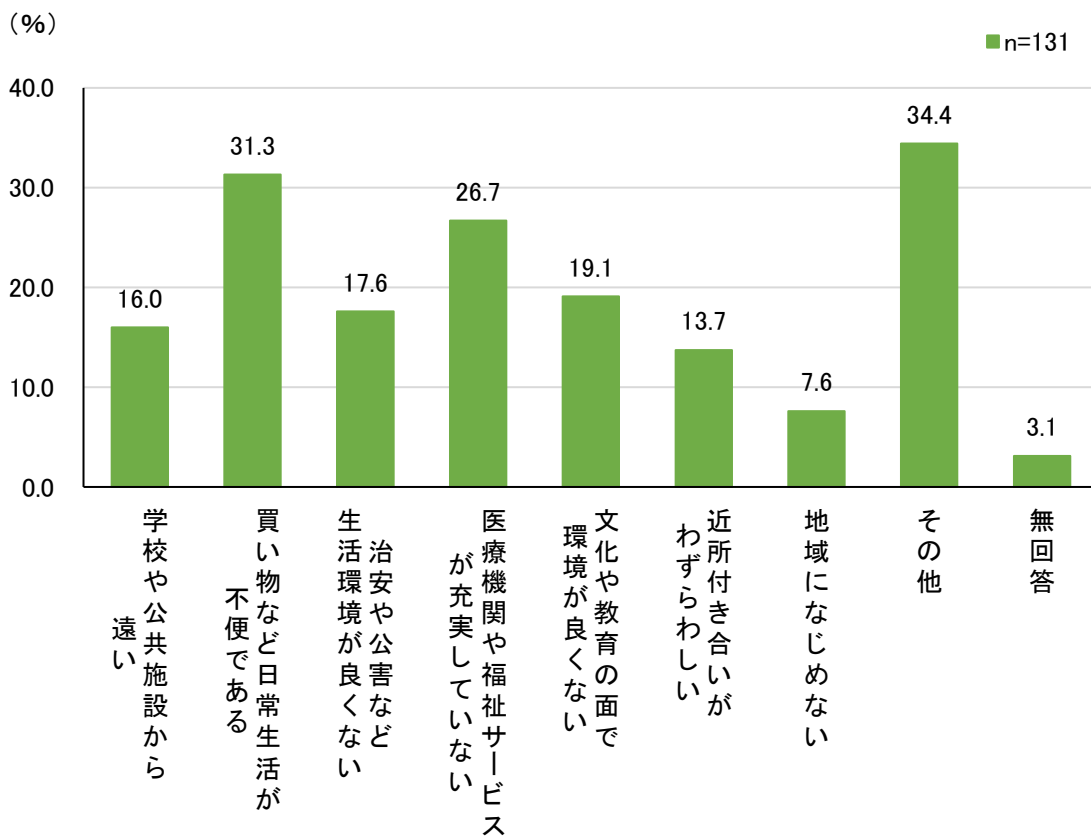
【問 11 で「3 市内の他の地域へ移りたい」「4 他の市町村へ移りたい」に回答された方のみ】

問 11-1 移りたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

移りたい理由については、「その他」を除いて、「買い物など日常生活が不便である」が 31.3% と最も高く、次いで「医療機関や福祉サービスが充実していない」が 26.7%、「文化や教育の面で環境が良くない」が 19.1%、「治安や公害など生活環境が良くない」が 17.6% となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「学校や公共施設から遠い」「買い物など日常生活が不便である」、30～39 歳では「文化や教育の面で環境が良くない」、40～59 歳と 70 歳以上では「買い物など日常生活が不便である」、60～69 歳では「医療機関や福祉サービスが充実していない」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区と甚目寺地区では「買い物など日常生活が不便である」「医療機関や福祉サービスが充実していない」、美和地区では「買い物など日常生活が不便である」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・交通が不便。(駅が遠い、交通手段が少ない等) ・道が整備されていない、歩道や信号が少ない。 ・防災が不安 ・就職先が見つからない。 ・老後の心配。 ・職場の近辺に移住を考えているから ・夜間の近所のコンビニ、飲食店の騒音が酷い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園が少ない、遊び場が少ない、緑(自然)が少ない。 ・市民税が高い。 ・母子家庭へのサポートが弱い。 ・外灯が少ない。 ・体力の衰えを考え子供や孫の近くでの生活舞台を準備しました。 |
|---|---|

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	遠い学校や公共施設から	買い物など日常生活が不便である	治安や公害など生活環境が良くない	医療機関や福祉サービスが充実していない	文化や教育の面で環境が良くない	近所付き合いがわづらわしい	地域になじめない	その他	無回答
全 体	131	16.0	31.3	17.6	26.7	19.1	13.7	7.6	34.4	3.1
18～29歳	15	26.7	26.7	13.3	6.7	20.0	0.0	0.0	53.3	0.0
30～39歳	21	9.5	4.8	23.8	23.8	33.3	4.8	4.8	42.9	0.0
40～49歳	26	7.7	34.6	23.1	23.1	23.1	19.2	11.5	26.9	3.8
50～59歳	28	21.4	46.4	17.9	28.6	10.7	17.9	3.6	39.3	7.1
60～69歳	27	18.5	25.9	14.8	33.3	14.8	18.5	14.8	14.8	3.7
70歳以上	13	15.4	53.8	7.7	46.2	15.4	15.4	7.7	38.5	0.0

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	遠い学校や公共施設から	買い物など日常生活が不便である	治安や公害など生活環境が良くない	医療機関や福祉サービスが充実していない	文化や教育の面で環境が良くない	近所付き合いがわづらわしい	地域になじめない	その他	無回答
全 体	131	16.0	31.3	17.6	26.7	19.1	13.7	7.6	34.4	3.1
七 宝	37	16.2	35.1	8.1	35.1	16.2	10.8	2.7	37.8	2.7
美 和	25	4.0	36.0	16.0	20.0	16.0	20.0	20.0	28.0	4.0
甚 目 寺	62	21.0	25.8	24.2	25.8	24.2	11.3	4.8	33.9	3.2

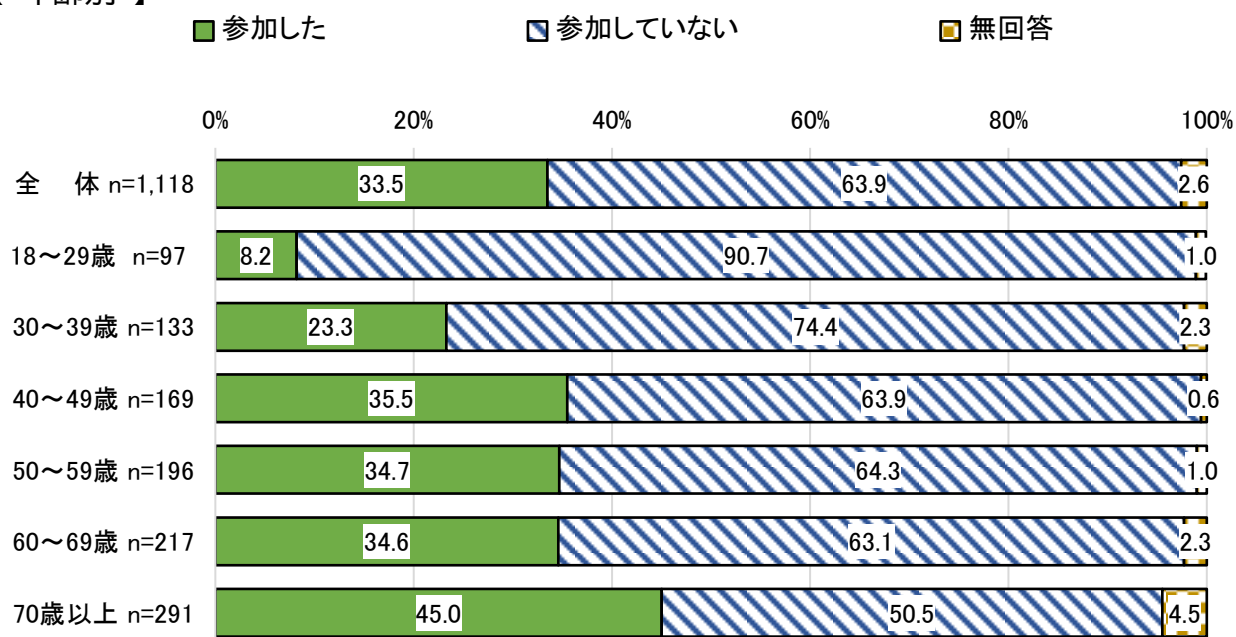
問 12 あなたは、最近1年間に地域活動や行事（お祭り、清掃活動、防災活動等）に参加しましたか。（○は1つだけ）

最近1年間に地域活動や行事に参加したかについては、「参加した」が33.5%、「参加していない」が63.9%となっています。

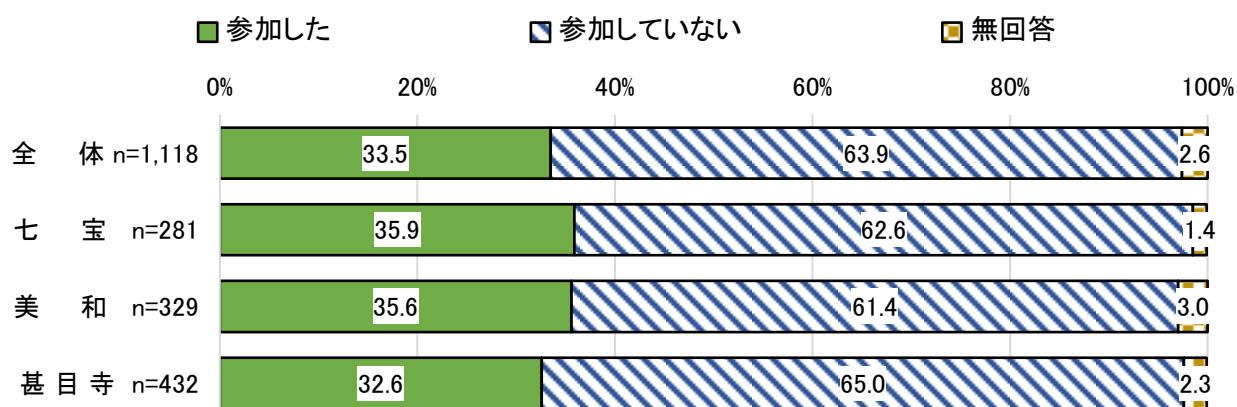
年齢別にみると、18～29歳では「参加していない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、甚目寺地区では「参加していない」が他の地区に比べてやや高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】



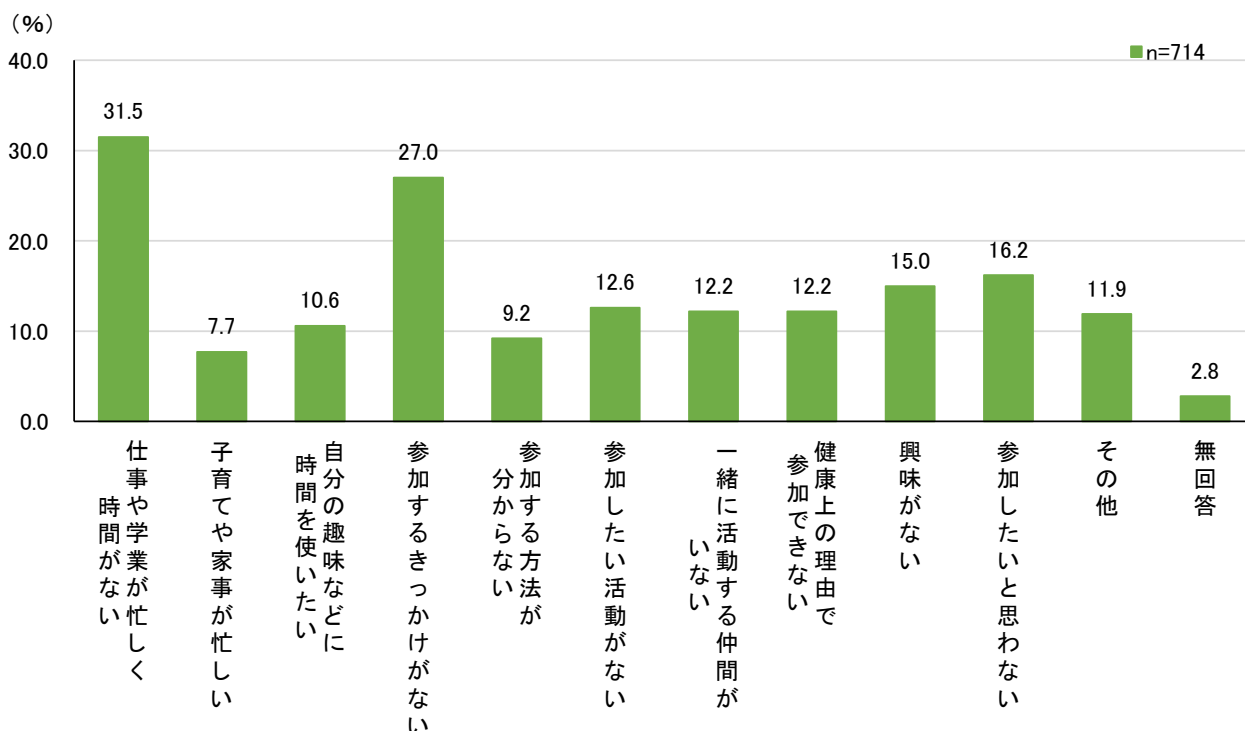
【問 12 で「2 参加していない」と回答された方のみ】

問 12-1 地域活動や行事へ参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域活動や行事へ参加していない理由については、「仕事や学業が忙しく時間がない」が 31.5%と最も高く、次いで「参加するきっかけがない」が 27.0%となっています。

年齢別にみると、18～59 歳では「仕事や学業が忙しく時間がない」、60～69 歳では「参加するきっかけがない」、70 歳以上では「健康上の理由で参加できない」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区、甚目寺地区では「仕事や学業が忙しく時間がない」、美和地区では「参加するきっかけがない」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・ コロナで活動がなかった。中止された。
- ・ 行事があることを知らない。知らせがない。
- ・ 親など他の家族が参加している。
- ・ 体調不良のため。
- ・ 介護のため。

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	仕事や学業が忙しく時間が ない	子育てや家事が忙しい	自分の趣味などに 時間を使いたい	参加するきっかけがない	参加する方法が 分からない	参加したい活動がない	一緒に活動する仲間が いない	健康上の理由で参加できない	興味がない	参加したいと思わない	その他	無回答
全 体	714	31.5	7.7	10.6	27.0	9.2	12.6	12.2	12.2	15.0	16.2	11.9	2.8
18～29歳	88	46.6	8.0	18.2	34.1	10.2	17.0	18.2	1.1	29.5	22.7	12.5	0.0
30～39歳	99	47.5	23.2	13.1	35.4	18.2	13.1	15.2	3.0	14.1	11.1	10.1	0.0
40～49歳	108	42.6	14.8	7.4	23.1	7.4	12.0	7.4	5.6	14.8	21.3	13.9	0.9
50～59歳	126	34.1	5.6	7.9	23.0	6.3	10.3	7.1	7.9	12.7	23.0	12.7	1.6
60～69歳	137	25.5	0.7	11.7	36.5	10.9	11.7	17.5	9.5	12.4	10.2	13.1	2.2
70歳以上	147	6.1	0.0	8.2	14.3	4.1	13.6	10.2	35.4	10.9	12.9	8.8	9.5

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	仕事や学業が忙しく時間が ない	子育てや家事が忙しい	自分の趣味などに時間 を使いた	参加するきっかけがない	参加する方法が分からない	参加したい活動がない	一緒に活動する仲間が いない	健康上の理由で参加できない	興味がない	参加したいと思わない	その他	無回答
全 体	714	31.5	7.7	10.6	27.0	9.2	12.6	12.2	12.2	15.0	16.2	11.9	2.8
七 宝	176	26.7	4.5	11.9	17.0	6.3	13.1	12.5	11.4	19.3	19.3	13.1	4.0
美 和	202	29.2	7.9	12.4	30.2	9.4	12.9	8.9	14.4	12.9	13.9	14.9	1.5
甚 目 寺	281	33.8	9.6	8.2	30.6	9.6	13.5	14.2	10.3	13.9	16.4	10.7	3.2

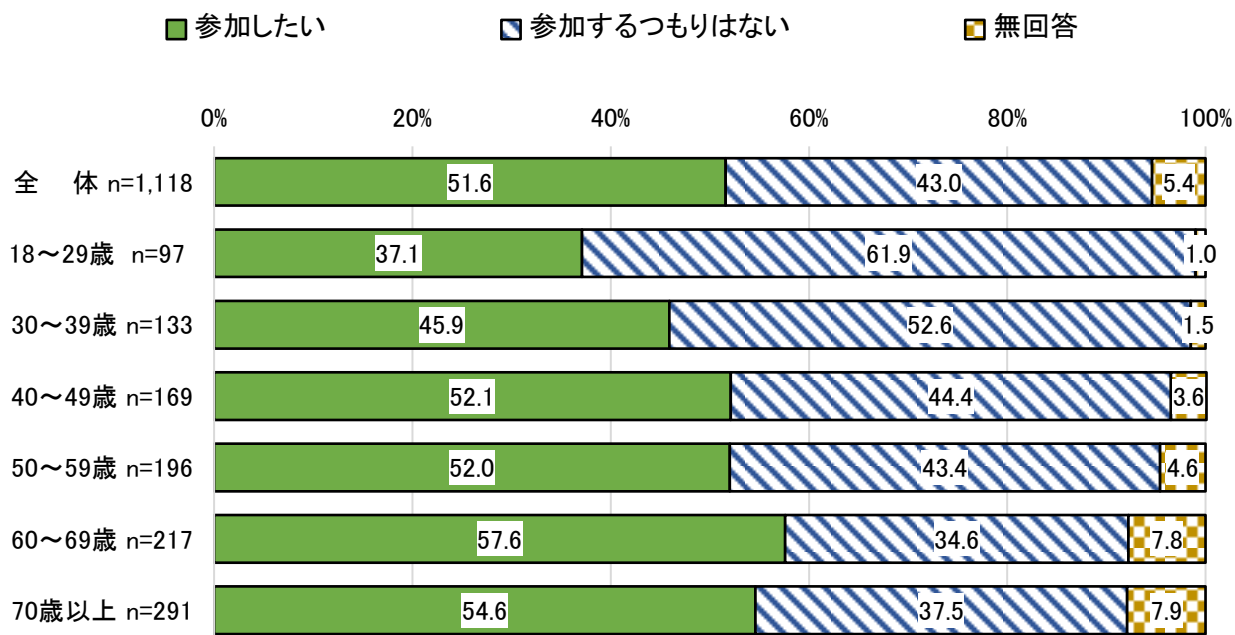
問13 あなたは、今後、地域活動や行事（お祭り、清掃活動、防災活動等）に参加したいと思いますか。（○は1つだけ）

今後、地域活動や行事（お祭り、清掃活動、防災活動等）に参加したいかについては、「参加したい」が51.6%、「参加するつもりはない」が43.0%となっています。

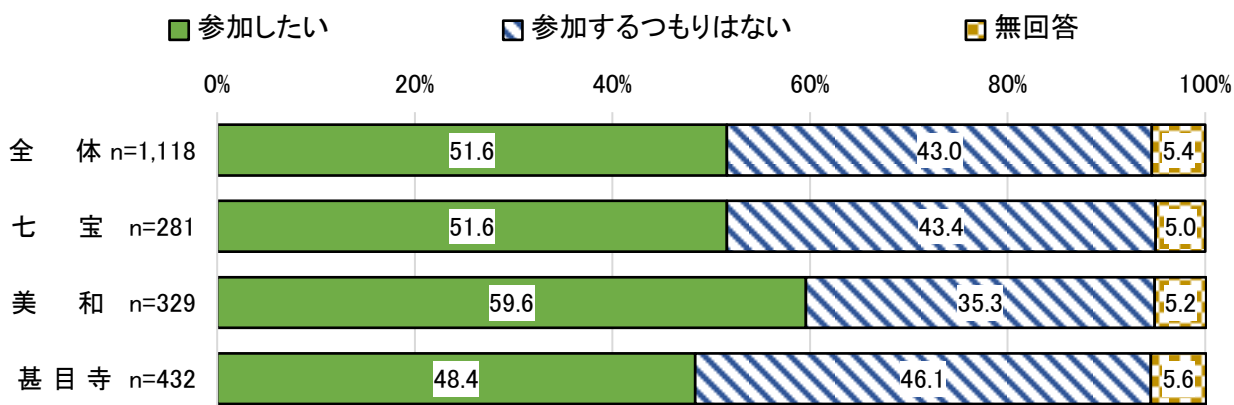
年齢別にみると、18～29歳で「参加するつもりはない」が他の地区に比べて高くなっています。

地区別にみると、美和地区で「参加したい」が他の地区に比べて高くなっています。

【年齢別】



【地区別】

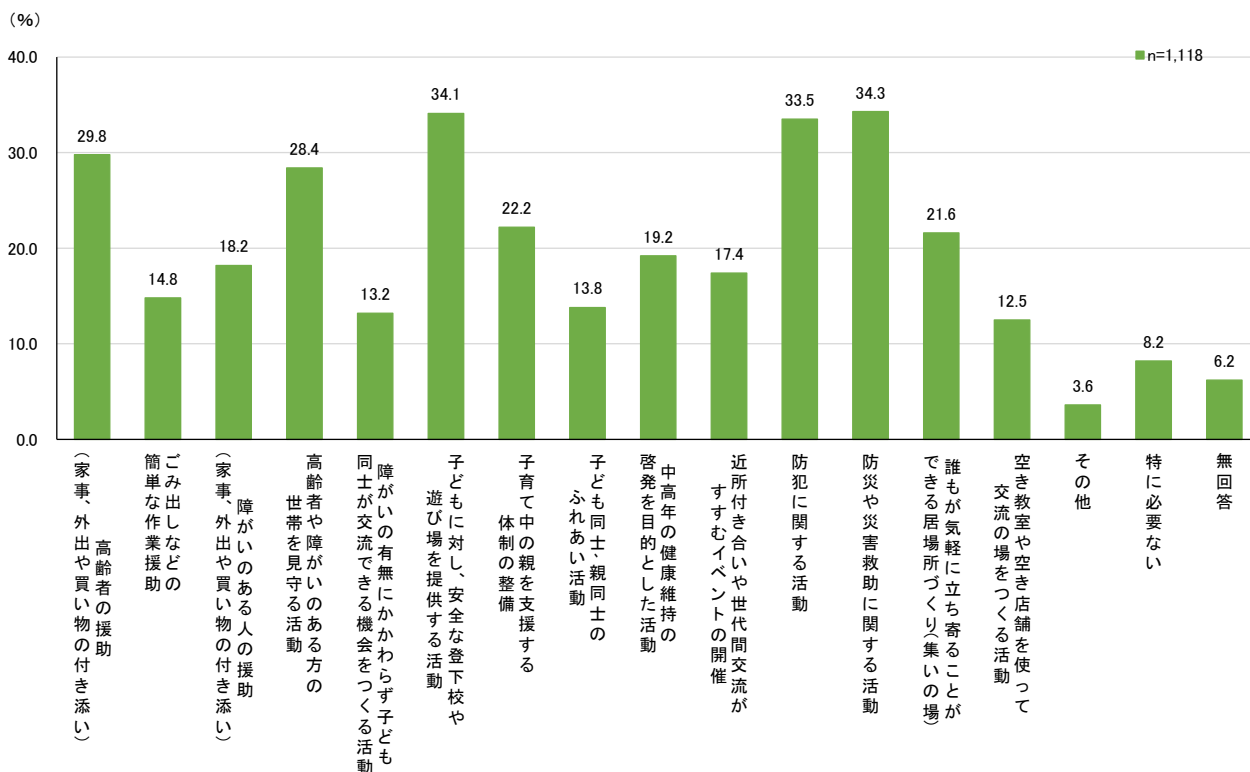


問 14 住んでいる地域に必要な活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

住んでいる地域に必要な活動について、「防災や災害救助に関する活動」が34.3%と最も高く、次いで「子どもに対し安全な登下校や遊び場を提供する活動」が34.1%、「防犯に関する活動」が33.5%、「高齢者の援助（家事、外出や買い物の付き添い）」が29.8%となっています。

年齢別にみると、18～49歳では「子どもに対し、安全な登下校と遊び場を提供する活動」、50～69歳では「防災や災害救助に関する活動」、70歳以上では「高齢者の援助（家事、外出や買い物の付き添い）」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区、甚目寺地区では「子どもに対し、安全な登下校と遊び場を提供する活動」、美和地区では「防犯に関する活動」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・道の除草作業、防犯カメラの設置
- ・図書館の充実
- ・資源ゴミの整理を町内会でなく市で委託して欲しい
- ・外国人へのルール等の指導
- ・障がい児や医療ケアが必要な子に対する理解やサポート
- ・子どもだけでなく高齢者の安全も守る道路の整備
- ・マイナンバー、新型コロナワクチン接種Web申込する為の環境作り、できる人ができない人へのサポート体制を整えるボランティア活動等
- ・子どもや若者のスポーツの場、子どもの遊び場所。
- ・お金、投資、NISAの話など、皆が知りたいことに関するセミナー

【 年齢別 】

(%)

	調査数(人)	付き添い(家事、外出や買い物の高年齢者の援助)	ごみ出しなどの簡単な作業援助	障がいのある人の援助の付き添い(家事、外出や買い物の)	高齢者や障がいのある方の世帯を見守る活動	子ども同士が交流できる機会をつくる活動	障がいの有無にかかわらず子どもに対し安全な登下校や遊び場を提供する活動	子育て中の親を支援する体制の整備	子ども同士、親同士のふれあい活動	中高年の健康維持の啓発を目的とした活動	近所付き合いや世代間の開催	防犯に関する活動	防災や災害救助に関する活動	誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり(集いの場)	空き教室や空き店舗を使って交流の場をつくる活動	その他	特に必要ない	無回答
全体	1,118	29.8	14.8	18.2	28.4	13.2	34.1	22.2	13.8	19.2	17.4	33.5	34.3	21.6	12.5	3.6	8.2	6.2
18~29歳	97	24.7	16.5	19.6	22.7	15.5	45.4	34.0	19.6	7.2	12.4	32.0	27.8	14.4	9.3	5.2	11.3	6.2
30~39歳	133	15.0	6.8	10.5	13.5	12.8	56.4	38.3	22.6	10.5	14.3	35.3	33.8	18.8	12.0	5.3	5.3	0.8
40~49歳	169	29.6	10.7	17.2	29.6	16.6	43.8	25.4	15.4	10.1	16.0	39.1	37.3	14.8	14.2	2.4	10.1	2.4
50~59歳	196	36.7	16.3	23.0	35.7	15.3	32.7	23.0	10.2	21.4	17.9	40.8	41.3	13.8	13.3	5.6	7.7	3.1
60~69歳	217	32.3	17.1	18.9	33.2	12.9	30.9	20.3	9.7	25.8	18.4	34.6	39.6	25.3	12.9	3.2	9.2	6.5
70歳以上	291	32.3	18.2	18.6	28.5	10.3	17.9	8.9	12.7	26.5	20.6	25.4	27.1	31.6	12.4	1.7	7.2	12.0

【 地区別 】

(%)

	調査数(人)	付き添い(家事、外出や買い物の高年齢者の援助)	ごみ出しなどの簡単な作業援助	障がいのある人の援助の付き添い(家事、外出や買い物の)	高齢者や障がいのある方の世帯を見守る活動	子ども同士が交流できる機会をつくる活動	障がいの有無にかかわらず子どもに対し安全な登下校や遊び場を提供する活動	子育て中の親を支援する体制の整備	子ども同士、親同士のふれあい活動	中高年の健康維持の啓発を目的とした活動	近所付き合いや世代間の開催	防犯に関する活動	防災や災害救助に関する活動	誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり(集いの場)	空き教室や空き店舗を使って交流の場をつくる活動	その他	特に必要ない	無回答
全体	1,118	29.8	14.8	18.2	28.4	13.2	34.1	22.2	13.8	19.2	17.4	33.5	34.3	21.6	12.5	3.6	8.2	6.2
七宝	281	31.3	21.4	18.9	30.6	13.5	32.7	22.4	14.9	18.1	18.1	29.9	31.7	19.6	11.0	4.3	12.1	8.5
美和	329	30.4	15.5	18.2	28.6	14.3	33.7	21.0	14.0	24.6	17.9	38.3	34.7	24.9	13.7	1.5	6.7	4.6
甚目寺	432	28.7	11.1	18.1	27.5	12.7	37.7	23.6	14.1	16.2	18.1	33.1	36.1	20.8	12.7	4.9	7.2	4.9

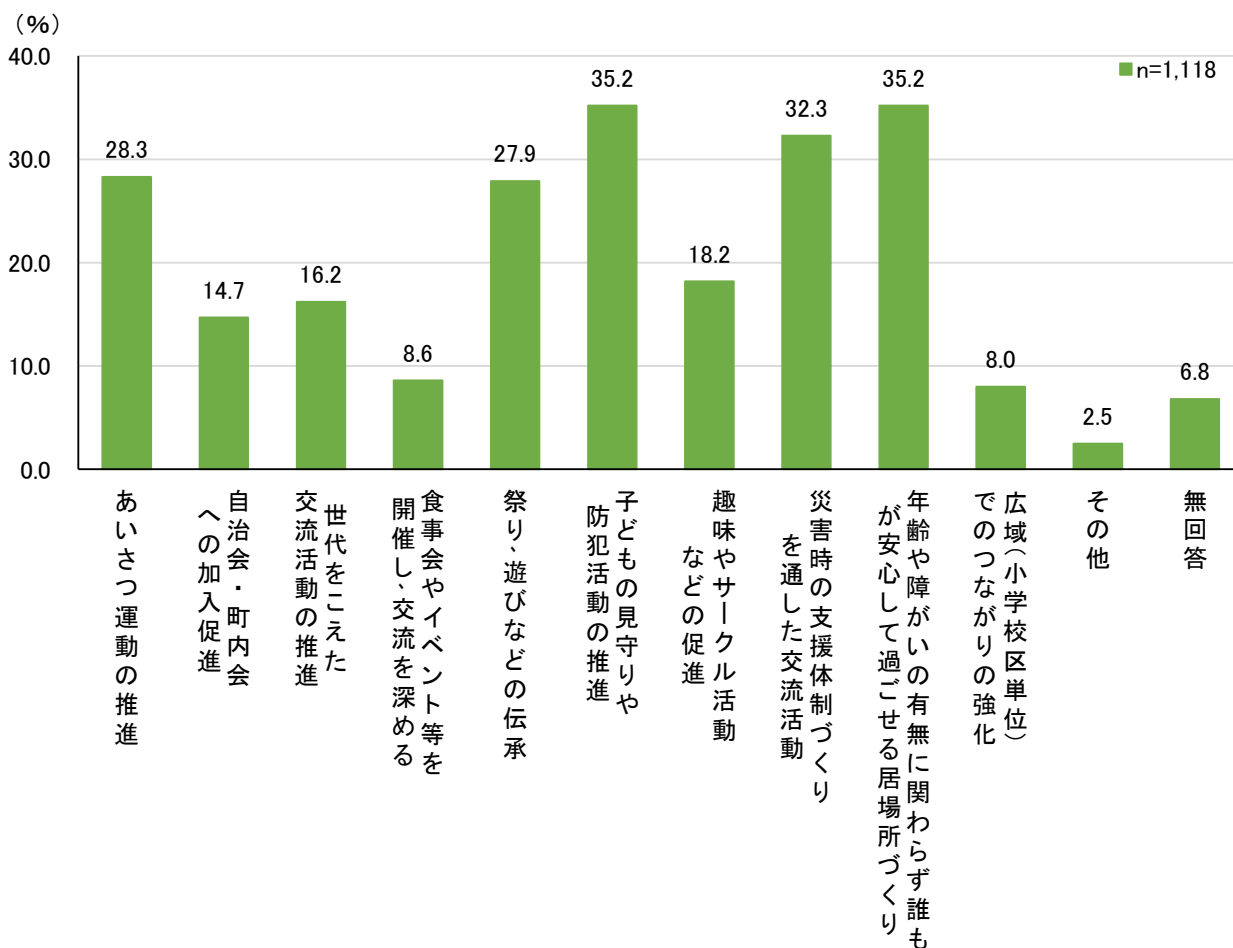
問 15 地域のつながりを築くために進めるべき取り組みは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

新たな地域のつながりを築くために進めるべき取り組みについて、「子どもの見守りや防犯活動の推進」と「年齢や障がいの有無に関わらず誰もが安心して過ごせる居場所づくり」がともに 35.2%と最も高く、次いで「災害時の支援体制づくりを通じた交流活動」が 32.3%、「あいさつ運動の推進」が 28.3%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「祭り、遊びなどの伝承」、30～49 歳では「子どもの見守りや防犯活動の推進」、50～59 歳では「年齢や障がいの有無に関わらず誰もが安心して過ごせる居場所づくり」、60～69 歳では「災害時の支援体制づくりを通じた交流活動」、70 歳以上では「あいさつ運動の推進」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区では「年齢や障がいの有無に関わらず誰もが安心して過ごせる居場所づくり」、美和地区、甚目寺地区では「子どもの見守りや防犯活動の推進」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・夏祭りの盆踊り、お神輿など子供の交流イベントを強化
- ・青年の交流の場
- ・地域経済の活性化
- ・地域での最低限のルールを定期的に広報などで、お知らせして頂きたいです。
- ・情報共有の手段をふやす活動

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	あいさつ運動の推進	自治会・町内会への加入促進	世代をこえた交流活動の推進	食事会やイベント等を開催し、交流を深める	祭り、遊びなどの伝承	子どもの見守りや防犯活動の推進	趣味やサークル活動などの促進	災害時の支援体制づくりを通じた交流活動	過ごせる居場所づくり	年齢や障がいの有無に問わず誰もが安心して	広域（小学校区単位）でのつながりの強化	その他	無回答
全 体	1,118	28.3	14.7	16.2	8.6	27.9	35.2	18.2	32.3	35.2	8.0	2.5	6.8	
18～29歳	97	20.6	4.1	9.3	8.2	43.3	36.1	19.6	25.8	29.9	8.2	4.1	3.1	
30～39歳	133	17.3	4.5	16.5	9.0	45.9	53.4	12.8	28.6	20.3	14.3	1.5	3.8	
40～49歳	169	16.6	11.8	11.8	7.1	38.5	42.6	18.3	34.9	30.2	11.8	3.6	4.7	
50～59歳	196	21.4	9.2	16.3	5.6	26.5	35.2	15.8	35.7	41.3	8.7	3.6	6.1	
60～69歳	217	35.5	18.4	22.6	7.8	20.3	31.3	22.6	37.8	34.6	3.7	1.4	6.5	
70歳以上	291	43.0	25.4	16.2	12.0	14.8	25.4	18.6	28.2	42.3	5.5	1.7	11.3	

【 地区別 】

(%)

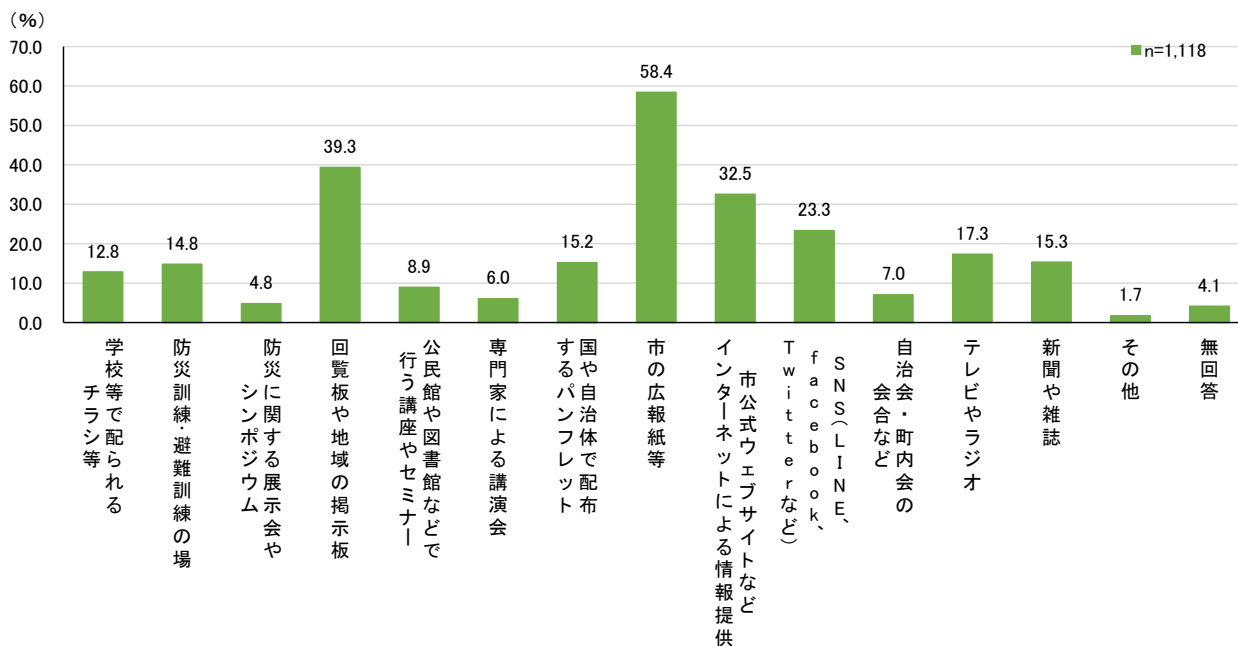
	調査数（人）	あいさつ運動の推進	自治会・町内会への加入促進	世代をこえた交流活動の推進	食事会やイベント等を開催し、交流を深める	祭り、遊びなどの伝承	子どもの見守りや防犯活動の推進	趣味やサークル活動などの促進	災害時の支援体制づくりを通じた交流活動	過ごせる居場所づくり	年齢や障がいの有無に問わず誰もが安心して	広域（小学校区単位）でのつながりの強化	その他	無回答
全 体	1,118	28.3	14.7	16.2	8.6	27.9	35.2	18.2	32.3	35.2	8.0	2.5	6.8	
七 宝	281	33.8	12.5	17.4	11.4	27.4	31.0	14.6	31.0	35.6	7.5	2.8	6.8	
美 和	329	30.4	11.6	15.8	9.1	28.9	38.3	21.3	32.8	33.7	10.6	2.7	7.9	
甚 目 寺	432	23.8	19.7	16.4	6.7	26.6	37.0	17.8	33.1	33.8	6.9	2.3	5.8	

問 16 地域に関する様々な情報を得る方法として希望するものは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

地域情報等の入手方法について、「市の広報紙等」が 58.4%と最も高く、次いで「回覧板や地域の掲示板」が 39.3%、「市公式ウェブサイトなどインターネットによる情報提供」が 32.5%となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「市の広報紙等」が最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「市の広報紙等」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- | | |
|------------------------|---------------------|
| ・老人等一人暮らしへの訪問強化 | ・お店においてあるチラシ |
| ・受動的に得られる情報回覧板や各家庭への配布 | ・メールマガジン |
| ・全世帯にタブレットを支給 | ・あま市独自のアンテナショップや冊子等 |

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	学校等で配られるチラシ等	防災訓練・避難訓練の場	防災に関する展示会やシンポジウム	回覧板や地域の掲示板	公民館や図書館などで行う講座やセミナー	専門家による講演会	国や自治体で配布するパンフレット	市の広報紙等	情報提供 市公式ウェブサイトなど インターネットによる	SNS（LINE、Facebook、Twitterなど）	自治会・町内会の会合など	テレビやラジオ	新聞や雑誌	その他	無回答
全 体	1,118	12.8	14.8	4.8	39.3	8.9	6.0	15.2	58.4	32.5	23.3	7.0	17.3	15.3	1.7	4.1
18～29歳	97	16.5	10.3	4.1	28.9	3.1	2.1	15.5	56.7	38.1	47.4	1.0	11.3	12.4	3.1	2.1
30～39歳	133	26.3	11.3	6.0	32.3	3.8	1.5	10.5	48.9	45.1	46.6	0.8	8.3	4.5	2.3	1.5
40～49歳	169	27.2	9.5	1.2	32.0	6.5	2.4	7.7	63.3	39.6	32.5	3.6	10.1	6.5	1.2	2.4
50～59歳	196	7.1	12.8	3.6	34.7	12.2	5.6	14.8	58.7	48.5	25.0	7.1	17.9	13.3	2.6	3.1
60～69歳	217	5.1	17.1	5.1	36.9	12.9	6.5	16.1	63.1	31.3	12.0	5.1	18.0	17.5	0.0	5.5
70歳以上	291	6.5	21.6	7.6	55.7	9.6	11.3	21.3	57.7	12.0	5.5	14.8	26.5	25.8	1.7	6.5

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	学校等で配られるチラシ等	防災訓練・避難訓練の場	防災に関する展示会やシンポジウム	回覧板や地域の掲示板	公民館や図書館などで行う講座やセミナー	専門家による講演会	国や自治体で配布するパンフレット	市の広報紙等	情報提供 市公式ウェブサイトなど インターネットによる	SNS（LINE、Facebook、Twitterなど）	自治会・町内会の会合など	テレビやラジオ	新聞や雑誌	その他	無回答
全 体	1,118	12.8	14.8	4.8	39.3	8.9	6.0	15.2	58.4	32.5	23.3	7.0	17.3	15.3	1.7	4.1
七 宝	281	14.9	13.9	3.6	48.0	8.5	6.4	15.7	61.6	31.0	21.4	8.5	18.9	15.7	2.1	3.9
美 和	329	12.2	17.3	5.8	43.2	9.7	7.3	14.0	58.4	31.9	23.4	7.0	18.2	13.7	2.1	4.3
甚 目 寺	432	13.9	13.9	5.6	32.4	8.8	4.9	15.3	57.9	32.2	23.4	6.3	16.4	15.7	1.2	3.9

4 地域の支えあいについて

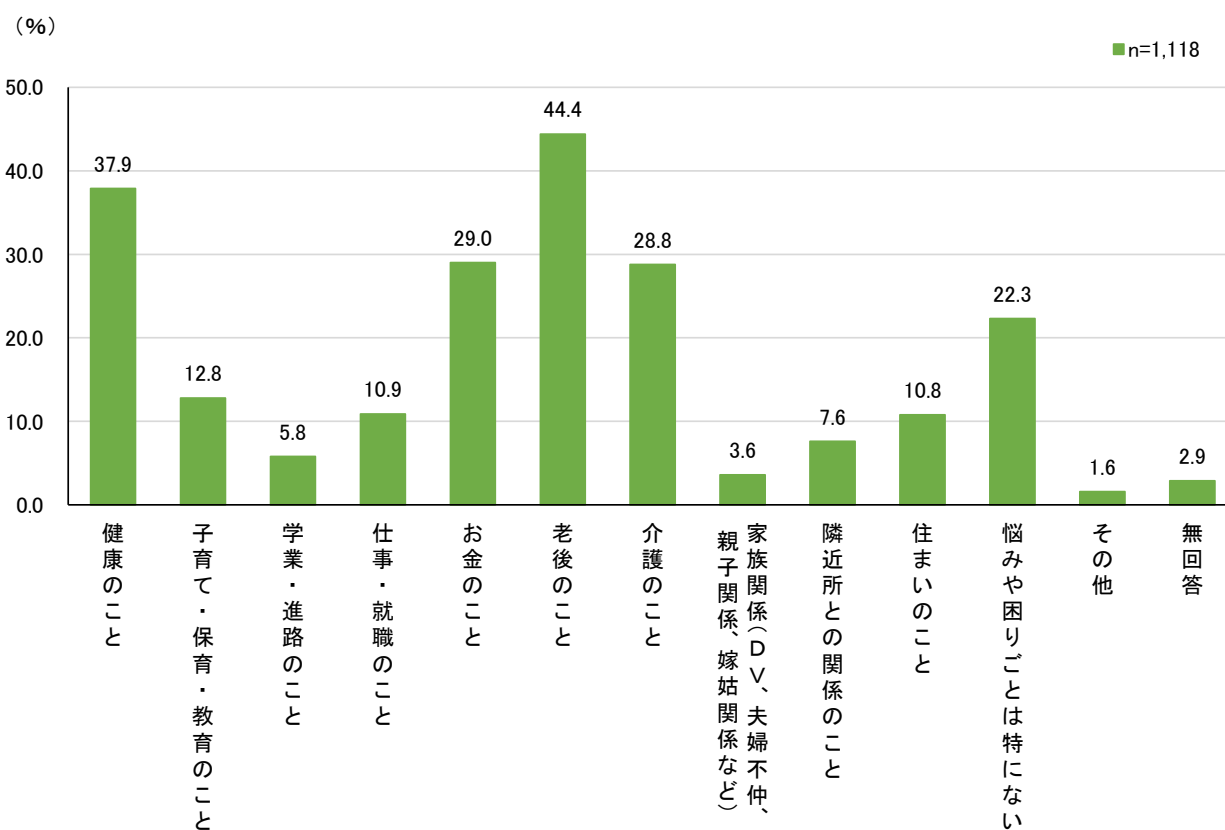
問 17 自身や家族に関して、現在の悩みや困りごとはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

現在の大きな悩みや困りごとについては、「老後のこと」が44.4%と最も高く、次いで「健康のこと」が37.9%、「お金のこと」が29.0%、「介護のこと」が28.8%となっています。

年齢別にみると、18～29歳では「お金のこと」、30～39歳では「子育て・保育・教育のこと」、40～69歳では「老後のこと」、70歳以上では「健康のこと」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「老後のこと」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ・スーパーもない、病院もない | ・空き家問題 |
| ・猫のフン | ・痴漢の被害 |
| ・隣の木、草の清掃、猫の放し飼い | ・小・中学生の公園でのマナー |
| ・ゴミすてマナーが守られていない。 | ・近所（高齢者）の手入れされていない大木 |
| ・水路のウシガエルがうるさい、水路のニオイ | ・税金、社会保険料が高すぎる。 |

【 年齢別 】

(%)

	調査数(人)	健康のこと	子育て・保育・教育のこと	学業・進路のこと	仕事・就職のこと	お金のこと	老後のこと	介護のこと	家族関係(DV、夫婦不仲、親子関係、嫁姑関係など)	隣近所との関係のこと	住まいのこと	悩みや困りごとは特にならない	その他	無回答
全 体	1,118	37.9	12.8	5.8	10.9	29.0	44.4	28.8	3.6	7.6	10.8	22.3	1.6	2.9
18～29歳	97	18.6	17.5	14.4	27.8	38.1	25.8	9.3	4.1	6.2	9.3	22.7	2.1	4.1
30～39歳	133	22.6	43.6	5.3	15.0	39.8	31.6	14.3	5.3	5.3	8.3	22.6	2.3	0.8
40～49歳	169	33.1	24.3	17.2	16.0	34.9	40.2	25.4	3.6	10.1	9.5	20.1	0.6	2.4
50～59歳	196	39.3	6.1	6.1	12.8	31.1	53.6	34.2	3.6	4.6	13.8	21.9	1.0	2.0
60～69歳	217	38.7	3.2	0.5	6.0	24.0	53.5	32.3	4.1	10.6	13.4	20.7	1.8	3.7
70歳以上	291	52.9	2.1	0.7	1.4	18.9	45.4	37.8	2.4	7.6	9.6	24.7	2.1	3.4

【 地区別 】

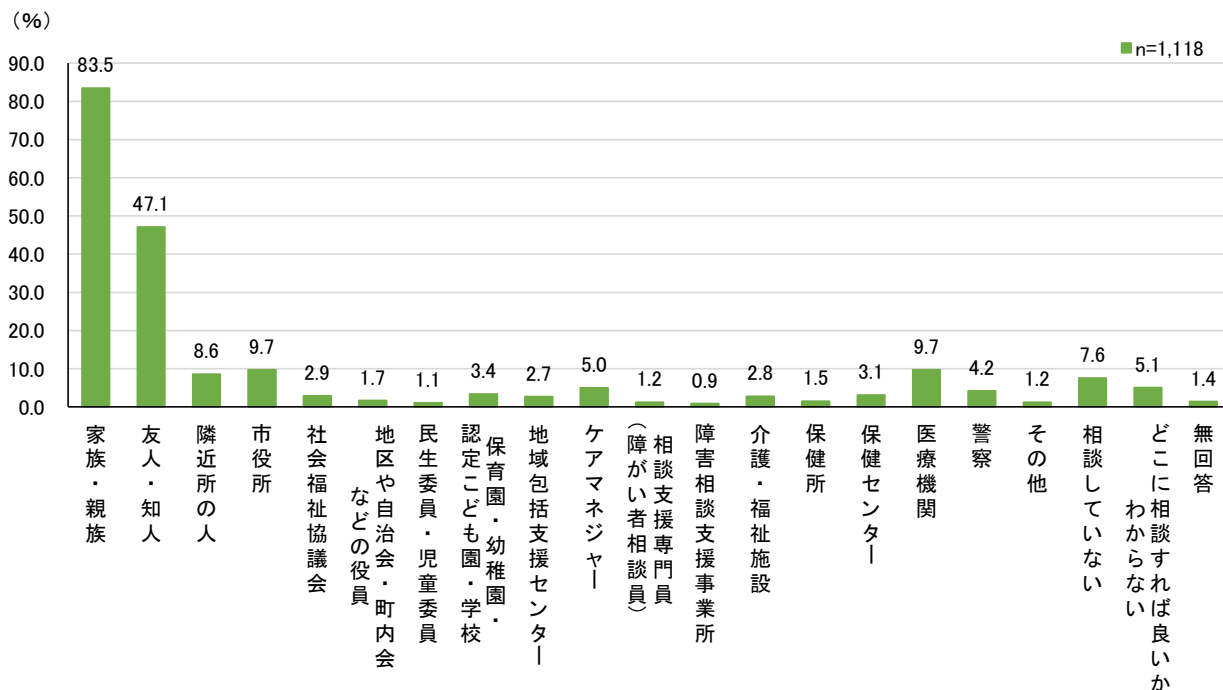
(%)

	調査数(人)	健康のこと	子育て・保育・教育のこと	学業・進路のこと	仕事・就職のこと	お金のこと	老後のこと	介護のこと	家族関係(DV、夫婦不仲、親子関係、嫁姑関係など)	隣近所との関係のこと	住まいのこと	悩みや困りごとは特にならない	その他	無回答
全 体	1,118	37.9	12.8	5.8	10.9	29.0	44.4	28.8	3.6	7.6	10.8	22.3	1.6	2.9
七 宝	281	37.4	7.8	6.0	8.9	28.8	40.6	31.7	4.3	7.1	10.7	24.9	2.1	3.2
美 和	329	40.4	14.0	6.4	12.2	27.4	42.6	29.5	3.6	8.8	11.9	21.9	0.3	3.3
甚 目 寺	432	35.4	15.7	6.3	11.3	29.9	47.7	27.1	3.5	7.4	10.4	21.1	2.5	1.9

問 18 困った時、誰に、またはどこに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

困った時、誰に、またはどこに相談するかについては、「家族・親族」が 83.5%と最も高く、次いで「友人・知人」が 47.1%、「市役所」と「医療機関」が 9.7%となっています。

年齢別・地区別にみると、いずれの年齢・地区においても「家族・親族」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ・ SNS | ・ 社会労務士 |
| ・ 職場、同僚 | ・ 作業所の職員 |
| ・ 市議会議員 | ・ 居住しているマンションの管理組合、理事会 |
| ・ その都度、関係各所及びその道のプロに相談 | ・ 弁護士 |

【 年齢別 】

(%)

	調査数 (人)	家族・親族	友人・知人	隣近所の人	市役所	社会福祉協議会	地区や自治会・町内会などの役員	民生委員・児童委員	保育園・幼稚園・認定こども園・学校	地域包括支援センター	ケアマネジャー	相談支援専門員 (障がい者相談員)	障害相談支援事業所	介護・福祉施設	保健所	保健センター	医療機関	警察	その他	相談していない	どこに相談すれば良いかわからない	無回答
全 体	1,118	83.5	47.1	8.6	9.7	2.9	1.7	1.1	3.4	2.7	5.0	1.2	0.9	2.8	1.5	3.1	9.7	4.2	1.2	7.6	5.1	1.4
18～29歳	97	91.8	69.1	3.1	5.2	0.0	0.0	0.0	6.2	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	6.2	1.0	3.1	4.1	4.1	0.0
30～39歳	133	86.5	61.7	11.3	6.8	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	9.0	8.3	0.8	2.3	6.0	5.3	2.3	
40～49歳	169	86.4	58.0	8.3	6.5	1.2	0.6	0.0	7.1	1.8	2.4	1.8	0.6	0.6	1.2	1.2	10.1	3.0	0.0	5.3	3.6	1.8
50～59歳	196	78.6	48.0	5.6	11.7	2.0	3.1	0.5	0.5	2.0	4.6	1.5	1.0	1.0	1.0	1.5	6.6	4.6	1.0	8.7	7.7	0.5
60～69歳	217	77.9	37.8	7.4	11.1	2.8	1.4	1.4	0.0	2.8	6.9	0.9	0.0	3.2	1.4	1.8	10.1	5.5	1.4	11.1	6.0	0.9
70歳以上	291	84.9	33.0	12.7	12.7	6.5	3.1	2.7	0.0	5.5	8.9	1.4	2.1	6.9	3.1	4.1	13.7	6.5	0.7	7.9	4.1	2.4

【 地区別 】

(%)

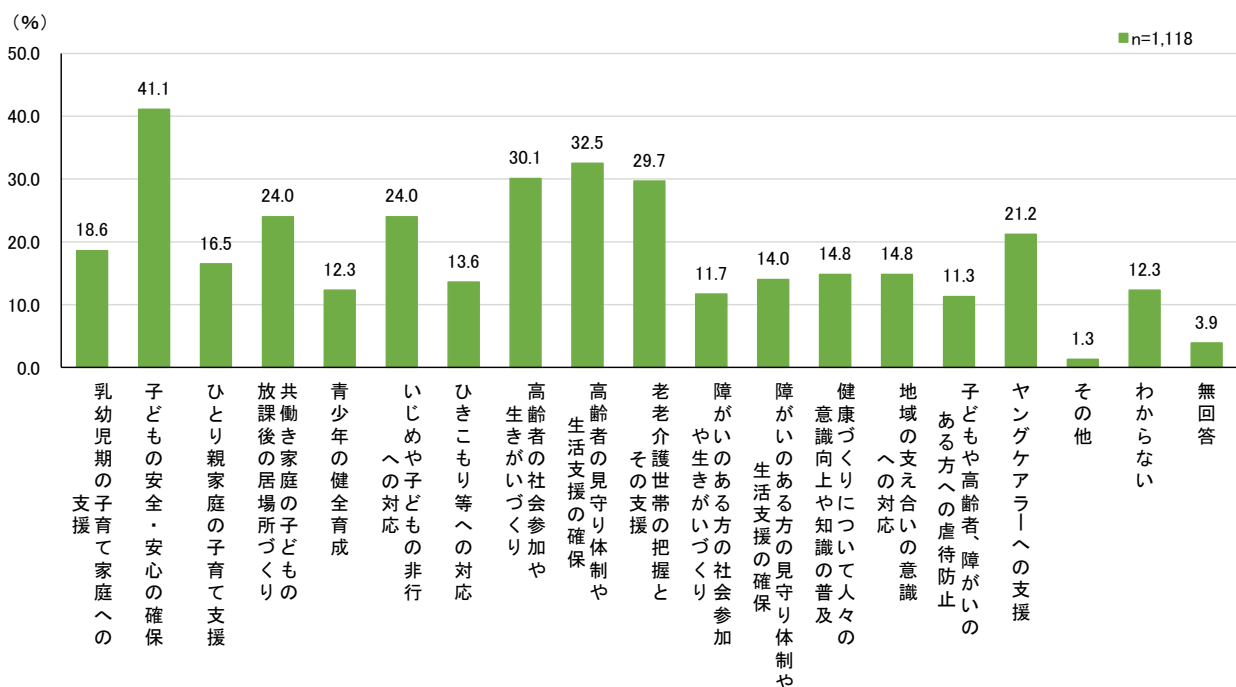
	調査数 (人)	家族・親族	友人・知人	隣近所の人	市役所	社会福祉協議会	地区や自治会・町内会などの役員	民生委員・児童委員	保育園・幼稚園・認定こども園・学校	地域包括支援センター	ケアマネジャー	相談支援専門員 (障がい者相談員)	障害相談支援事業所	介護・福祉施設	保健所	保健センター	医療機関	警察	その他	相談していない	どこに相談すれば良いかわからない	無回答
全 体	1,118	83.5	47.1	8.6	9.7	2.9	1.7	1.1	3.4	2.7	5.0	1.2	0.9	2.8	1.5	3.1	9.7	4.2	1.2	7.6	5.1	1.4
七 宝	281	85.8	45.2	9.3	8.9	2.5	1.8	1.1	1.8	3.6	4.3	1.1	0.7	2.5	1.1	3.2	9.6	3.6	2.1	6.0	5.3	1.1
美 和	329	83.6	45.9	9.4	10.9	3.0	2.1	1.8	3.3	2.1	3.6	0.9	1.5	2.1	2.4	4.0	10.6	4.0	1.2	9.1	4.6	1.8
基 目 寺	432	82.9	48.8	9.0	10.0	3.2	1.6	0.5	4.9	2.8	6.3	1.2	0.5	3.9	1.4	2.3	10.2	5.3	0.7	7.4	5.1	1.6

問 19 あなたも含め、地域住民が優先的に取り組んでいきたい地域の課題や問題として、どのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

地域住民が優先的に取り組んでいきたい地域の課題や問題については、「子どもの安全・安心の確保」が41.1%と最も高く、次いで、「高齢者の見守り体制や生活支援の確保」が32.5%、「高齢者の社会参加や生きがいづくり」が30.1%となっています。

年齢別にみると18～49歳では「子どもの安全・安心の確保」、50～69歳では「高齢者の見守り体制や生活支援の確保」、70歳以上では「高齢者の社会参加や生きがいづくり」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「子どもの安全・安心の確保」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・ 子供が遊べる場所、プール等。公園の整備。
- ・ 若手への支援
- ・ 不妊治療への支援
- ・ 安全快適な道路整備
- ・ スポーツ施設等地域住民が楽しんで健康維持ができる施設
- ・ 防災についてもっと考えるべき。

【 年齢別 】

(%)

	調査数(人)	乳幼児期の子育て家庭への支援	子どもの安全・安心の確保	ひとり親家庭の子育て支援	共働き家庭の子どもの放課後の居場所づくり	青少年の健全育成	いじめや子どもの非行への対応	ひきこもり等への対応	高齢者の社会参加や生きがいづくり	高齢者の見守り体制や生活支援の確保	老老介護世帯の把握とその支援	障がいのある方の社会参加や生きがいづくり	障がいのある方の見守り体制や生活支援の確保	健康づくりについて人々の意識向上や知識の普及	地域の支え合いの意識への対応	子どもや高齢者、障がいのある方への虐待防止	ヤングケアラーへの支援	その他	わからない	無回答
全体	1,118	18.6	41.1	16.5	24.0	12.3	24.0	13.6	30.1	32.5	29.7	11.7	14.0	14.8	14.8	11.3	21.2	1.3	12.3	3.9
18～29歳	97	28.9	50.5	23.7	28.9	14.4	29.9	17.5	16.5	20.6	19.6	10.3	12.4	6.2	8.2	18.6	25.8	3.1	13.4	0.0
30～39歳	133	36.1	58.6	12.8	35.3	10.5	33.8	12.0	18.0	15.0	21.1	6.8	10.5	8.3	8.3	11.3	22.6	3.8	12.8	3.0
40～49歳	169	17.8	45.6	16.0	28.4	17.8	24.9	16.6	28.4	29.6	22.5	12.4	16.0	14.2	13.6	13.6	24.3	0.6	13.0	2.4
50～59歳	196	14.8	37.8	16.8	19.9	12.2	20.4	16.3	30.6	39.3	37.8	15.3	18.9	12.8	18.4	12.8	31.6	0.0	14.3	2.0
60～69歳	217	16.6	38.7	15.7	22.1	12.0	24.9	12.4	37.8	41.5	32.3	12.4	13.4	18.0	17.5	8.3	18.9	2.8	12.0	2.8
70歳以上	291	9.6	30.9	16.2	17.5	9.3	18.6	10.7	35.7	34.7	33.3	10.3	12.4	19.9	16.2	9.3	11.3	0.0	10.7	8.9

【 地区別 】

(%)

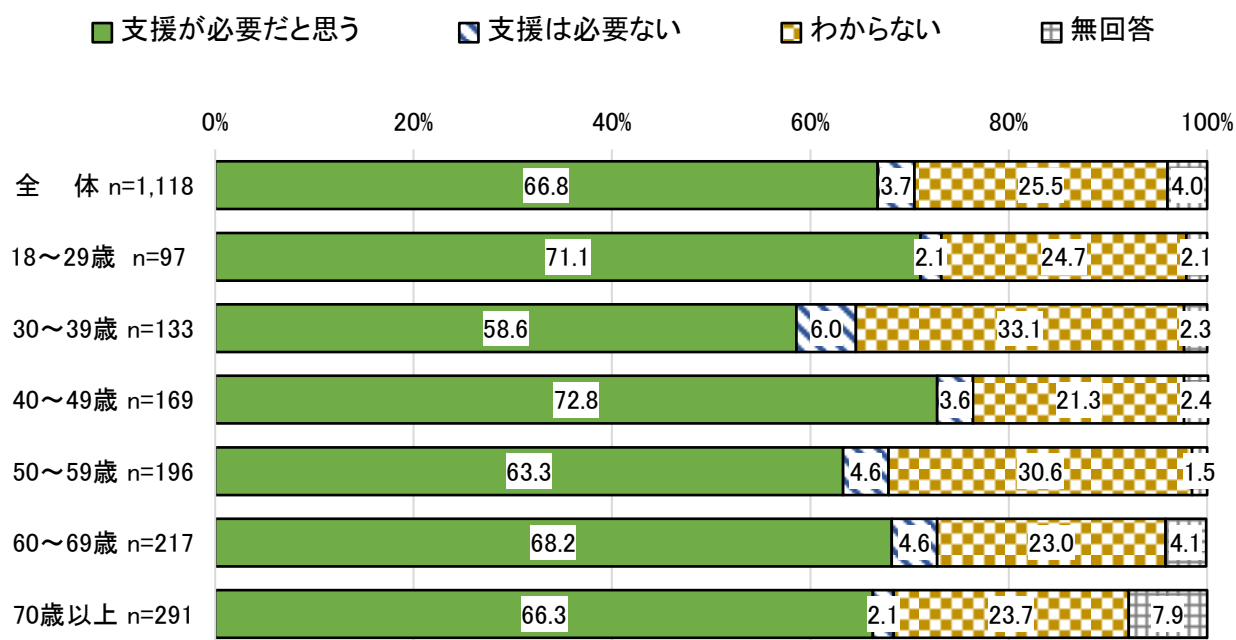
	調査数(人)	乳幼児期の子育て家庭への支援	子どもの安全・安心の確保	ひとり親家庭の子育て支援	共働き家庭の子どもの放課後の居場所づくり	青少年の健全育成	いじめや子どもの非行への対応	ひきこもり等への対応	高齢者の社会参加や生きがいづくり	高齢者の見守り体制や生活支援の確保	老老介護世帯の把握とその支援	障がいのある方の社会参加や生きがいづくり	障がいのある方の見守り体制や生活支援の確保	健康づくりについて人々の意識向上や知識の普及	地域の支え合いの意識への対応	子どもや高齢者、障がいのある方への虐待防止	ヤングケアラーへの支援	その他	わからない	無回答
全体	1,118	18.6	41.1	16.5	24.0	12.3	24.0	13.6	30.1	32.5	29.7	11.7	14.0	14.8	14.8	11.3	21.2	1.3	12.3	3.9
七宝	281	17.4	40.6	16.7	18.5	9.6	22.1	13.2	28.8	35.6	31.3	11.0	14.2	14.9	14.2	12.1	22.1	1.8	17.4	3.9
美和	329	17.9	43.5	13.7	25.5	14.0	24.3	15.5	33.1	34.0	29.5	11.2	14.6	18.5	17.3	12.8	21.6	1.2	9.7	4.3
甚目寺	432	19.0	41.4	17.6	26.6	12.5	25.7	12.5	29.4	28.9	28.7	11.8	13.4	12.0	13.0	10.6	19.9	0.9	10.2	3.7

問 20 あなたは、地域で困りごとがあった場合、地域で支援することが必要だと思いますか。(〇は1つだけ)

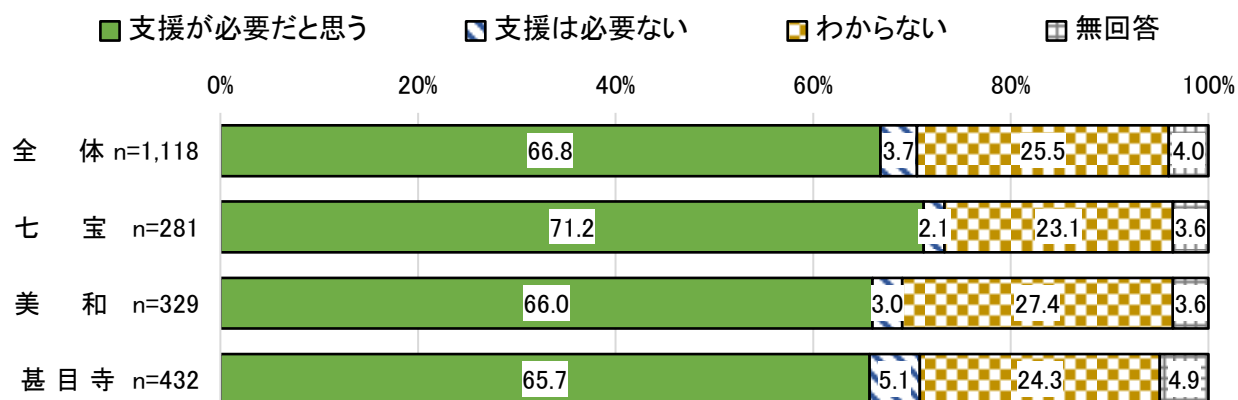
地域で困りごとがあった場合、地域で支援することが必要かについて、「支援が必要だと思う」が66.8%で最も高く、次いで「わからない」が25.5%、「支援は必要ない」が3.7%となっています。

年齢別にみると、40～49歳で「支援が必要だと思う」が他の年齢に比べて高くなっています。地区別にみると、七宝地区で「支援が必要だと思う」が他の地区に比べて高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】



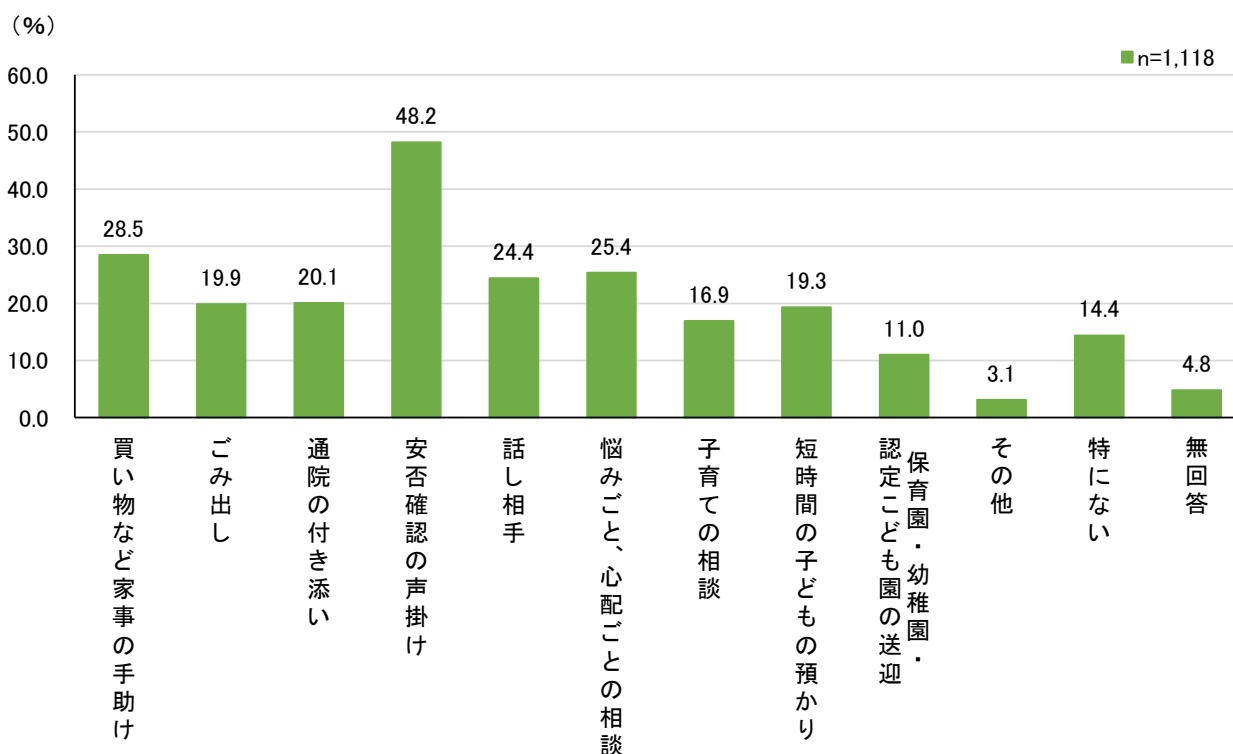
問 21 あなたは、地域でどのような支援が必要になると思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

地域でどのような支援が必要になると思うかについて、「安否確認の声掛け」が 48.2%と最も高く、次いで「買い物など家事の手助け」が 28.5%、「悩みごと、心配ごとの相談」が 25.4%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「短時間の子どもの預かり」、30 歳以上では「安否確認の声掛け」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「安否確認の声掛け」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・ 高齢化が進むので高齢世帯の見守り強化
- ・ 高齢者の移動手段
- ・ 子どもが通学するときの見守り（登下校）
- ・ 条件なしの保育園・幼稚園・こども園、学童保育
- ・ 歩けない障害者の内職
- ・ 防犯パトロール
- ・ 困りごとを近所の人と相談できると良い。
- ・ 介護家族への補助金
- ・ 孤立を防ぐ取り組み

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	買い物など家事の手助け	ごみ出し	通院の付き添い	安否確認の声掛け	話し相手	悩みごと、心配ごとの相談	子育ての相談	短時間の子ども預かり	保育園・幼稚園・認定こども園の送迎	その他	特になし	無回答
全 体	1,118	28.5	19.9	20.1	48.2	24.4	25.4	16.9	19.3	11.0	3.1	14.4	4.8
18～29歳	97	25.8	12.4	14.4	38.1	20.6	25.8	30.9	40.2	27.8	1.0	14.4	0.0
30～39歳	133	20.3	15.0	11.3	40.6	18.0	17.3	30.1	31.6	21.8	5.3	13.5	3.8
40～49歳	169	25.4	13.6	18.3	53.3	18.9	27.2	24.3	26.0	12.4	3.0	16.0	1.8
50～59歳	196	28.6	20.9	18.4	54.1	27.6	27.0	16.8	15.8	7.1	2.6	12.2	4.1
60～69歳	217	29.5	24.4	24.9	57.1	29.0	26.3	10.1	16.6	9.2	2.3	15.2	5.1
70歳以上	291	35.1	24.7	24.1	41.9	26.1	25.4	6.5	6.5	3.1	3.4	15.5	9.3

【 地区別 】

(%)

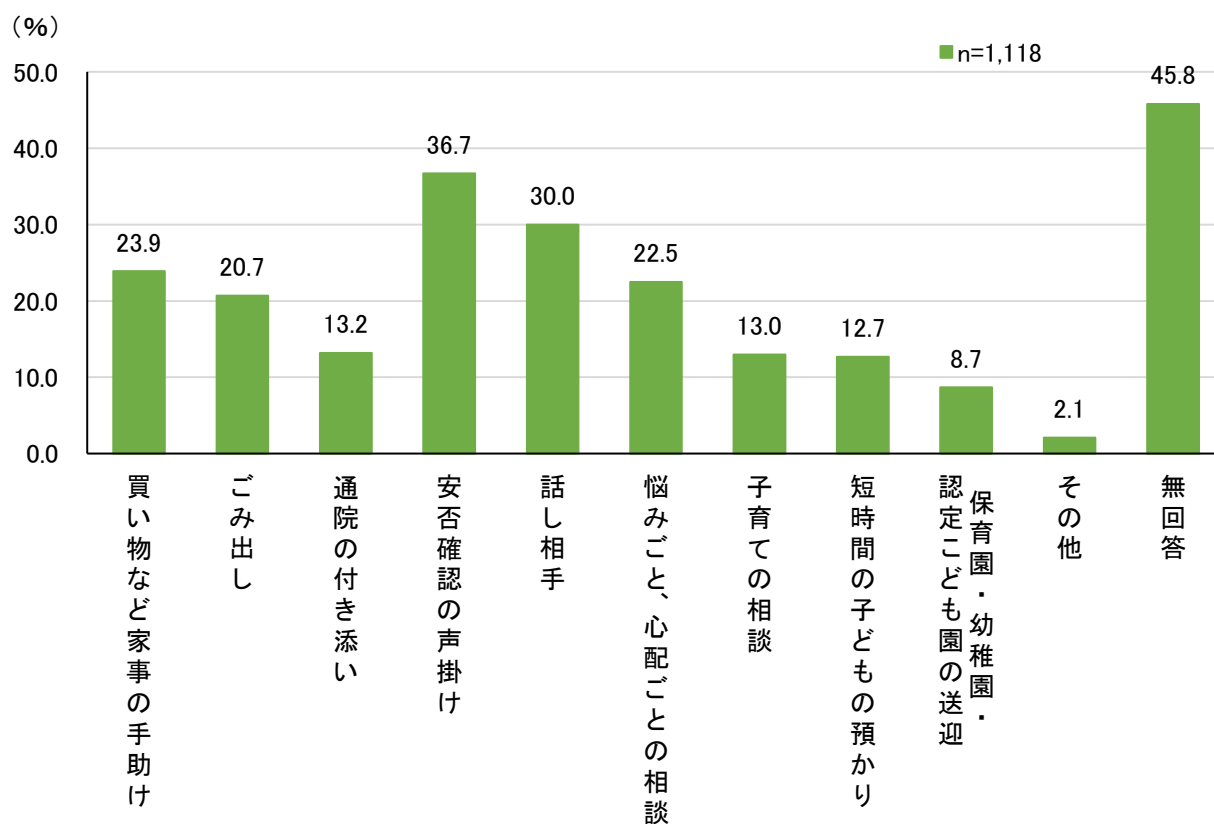
	調査数（人）	買い物など家事の手助け	ごみ出し	通院の付き添い	安否確認の声掛け	話し相手	悩みごと、心配ごとの相談	子育ての相談	短時間の子ども預かり	保育園・幼稚園・認定こども園の送迎	その他	特になし	無回答
全 体	1,118	28.5	19.9	20.1	48.2	24.4	25.4	16.9	19.3	11.0	3.1	14.4	4.8
七 宝	281	32.4	25.3	20.6	49.8	26.3	24.2	19.6	19.9	12.1	3.9	13.2	5.0
美 和	329	32.2	20.7	21.9	49.5	24.3	27.7	15.5	18.5	10.3	2.4	13.7	4.3
甚 目 寺	432	23.1	15.0	18.8	45.1	23.4	23.4	16.0	19.2	10.4	2.8	15.7	5.3

問 21-1 今後あなたが行ってみたい地域での支援活動（地域の支えあい）はありますか。
 あてはまるものを問 21 の選択肢「1～10」から5つまで選び、その選択肢番号を
 ご記入ください。

今後行ってみたい地域での支援活動（地域の支えあい）について、「安否確認の声掛け」が
 36.7%と最も高く、次いで「話し相手」が 30.0%、「買い物など家事の手助け」が 23.9%とな
 っています。また、「無回答」が 45.8%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「話し相手」、30 歳以上では「安否確認の声掛け」が、それ
 ぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「安否確認の声掛け」が最も高くなっています。



【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	買い物など家事の手助け	ごみ出し	通院の付き添い	安否確認の声掛け	話し相手	悩みごと、心配ごとの相談	子育ての相談	短時間の子ども預かり	保育園・幼稚園・認定こども園の送迎	その他	無回答
全 体	1,118	23.9	20.7	13.2	36.7	30.0	22.5	13.0	12.7	8.7	2.1	45.8
18～29歳	97	25.8	29.9	11.3	29.9	38.1	29.9	14.4	19.6	14.4	1.0	33.0
30～39歳	133	23.3	19.5	10.5	37.6	28.6	24.1	18.0	23.3	13.5	6.0	37.6
40～49歳	169	22.5	16.0	10.7	36.7	27.2	24.3	21.9	16.0	10.1	1.2	42.0
50～59歳	196	24.5	20.9	10.2	42.3	29.1	23.0	14.8	13.8	8.7	1.5	45.4
60～69歳	217	25.8	24.9	17.1	45.6	36.4	24.0	9.7	10.6	8.8	1.8	39.2
70歳以上	291	22.0	17.5	14.1	28.5	24.4	16.2	5.2	3.8	3.1	1.4	62.2

【 地区別 】

(%)

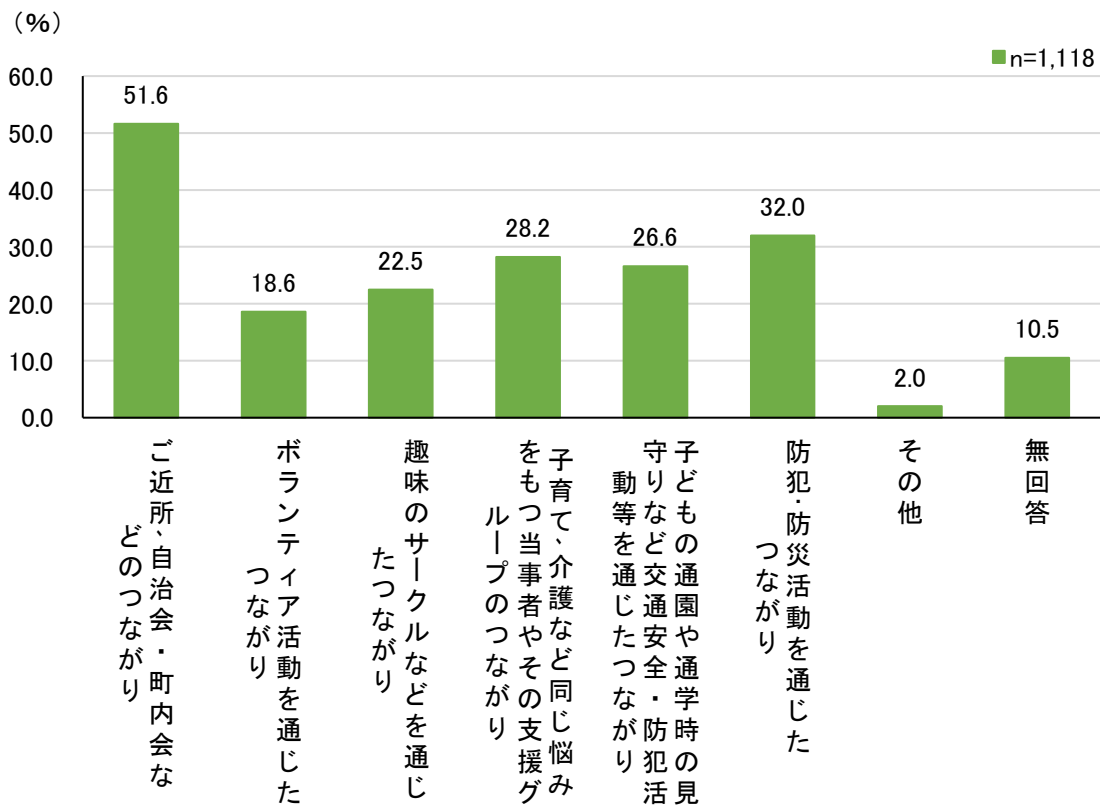
	調査数（人）	買い物など家事の手助け	ごみ出し	通院の付き添い	安否確認の声掛け	話し相手	悩みごと、心配ごとの相談	子育ての相談	短時間の子ども預かり	保育園・幼稚園・認定こども園の送迎	その他	無回答
全 体	1,118	23.9	20.7	13.2	36.7	30.0	22.5	13.0	12.7	8.7	2.1	45.8
七 宝	281	23.8	22.8	10.7	37.0	27.4	21.4	11.0	11.4	6.8	1.8	48.4
美 和	329	25.5	21.0	13.4	37.1	28.9	21.6	13.1	11.2	10.0	2.7	42.9
甚 目 寺	432	22.0	19.7	14.8	35.9	31.7	22.9	14.1	15.0	8.6	0.9	47.2

問 22 地域の支え合いの関係を築くために、あなたが必要だと思うつながりは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

地域の支え合いの関係を築くために必要だと思うつながりについて、「ご近所、自治会・町内会などのつながり」が51.6%と最も高く、次いで、「防犯・防災活動を通じたつながり」が32.0%、「子育て・介護など同じ悩みを持つ当事者やその支援グループのつながり」が28.2%となっています。

年齢別にみると、18～39歳及び50歳以上では「ご近所、自治会・町内会などのつながり」、40～49歳では「ご近所、自治会・町内会などのつながり」と「子どもの通園や通学時の見守りなど交通安全・防犯活動等を通じたつながり」が、それぞれ最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「ご近所、自治会・町内会などのつながり」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・歩けない障害者に自宅へカウンセリングに来てくれる。
- ・公的機関の仲介や広報。
- ・地域などのしぼりなく気の合う者どうしのつながり。
- ・下校後、居場所なく、道路でさげびまわり危険なあそびをして時間潰す小さな子達を把握できるような学校と地域のつながり。

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	ご近所、自治会・町内会などのつながり	ボランティア活動を通じたつながり	趣味のサークルなどを通じたつながり	悩みをもつ当事者やその支援グループのつながり	子育て、介護など同じ見守りなど交通安全・防犯活動等を通じたつながり	子どもの通園や通学時のつながり	防犯・防災活動を通じたつながり	その他	無回答
全 体	1,118	51.6	18.6	22.5	28.2	26.6	32.0	2.0	10.5	
18～29歳	97	40.2	21.6	26.8	34.0	35.1	22.7	3.1	4.1	
30～39歳	133	45.9	14.3	17.3	34.6	44.4	30.1	1.5	12.0	
40～49歳	169	43.2	18.3	24.9	32.0	43.2	36.7	1.8	5.9	
50～59歳	196	49.5	18.4	21.9	33.7	21.4	35.7	3.1	8.2	
60～69歳	217	52.5	21.7	24.4	28.6	24.0	35.0	0.9	10.1	
70歳以上	291	63.9	17.2	21.0	17.5	11.7	29.2	1.7	16.8	

【地区別】

(%)

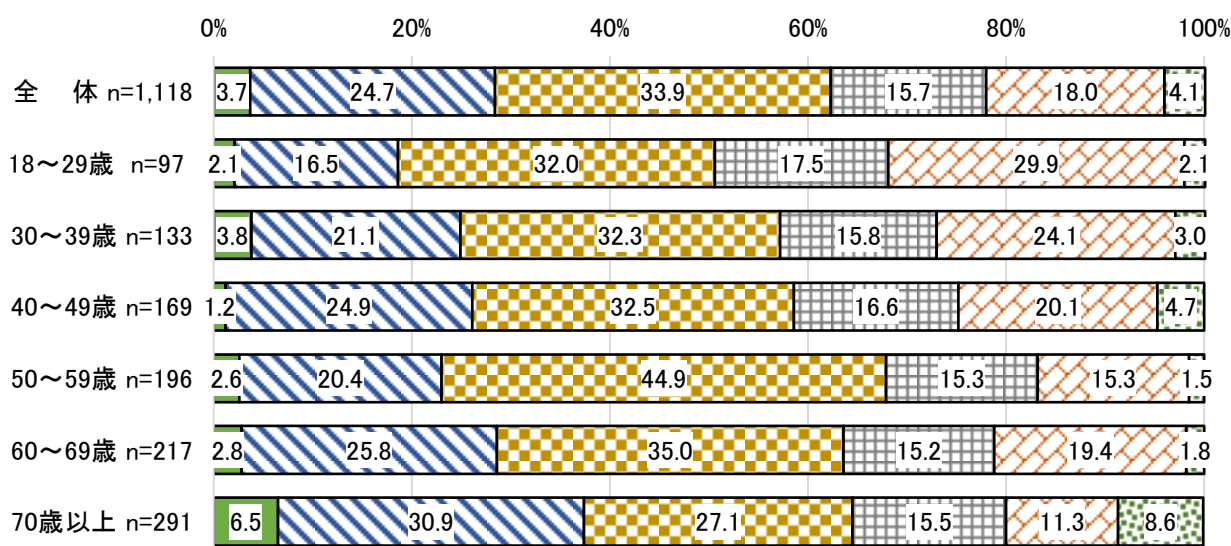
	調査数（人）	ご近所、自治会・町内会などのつながり	ボランティア活動を通じたつながり	趣味のサークルなどを通じたつながり	悩みをもつ当事者やその支援グループのつながり	子育て、介護など同じ見守りなど交通安全・防犯活動等を通じたつながり	子どもの通園や通学時のつながり	防犯・防災活動を通じたつながり	その他	無回答
全 体	1,118	51.6	18.6	22.5	28.2	26.6	32.0	2.0	10.5	
七 宝	281	57.7	18.1	19.2	27.0	27.8	32.4	1.8	11.4	
美 和	329	57.1	20.1	24.0	28.9	24.6	34.0	1.5	8.5	
甚 目 寺	432	45.8	17.4	21.8	28.7	29.4	31.0	1.6	11.8	

問 23 あなたは、生活上の問題で手助けが必要なとき、近所の人たちに助けを求めることができますか。(○は1つだけ)

生活上の問題で手助けが必要なとき、近所の人たちに助けを求めることができるかについて、「遠慮なく求めることができる」と「申し訳なく思うが、求めることはできる」を合わせた『求めることができる』が28.4%、「申し訳なく思い、求めることができない」と「人に頼りたくないなので求めない」を合わせた『求めることができない/求めない』が49.6%となっています。
年齢別にみると、70歳以上で『求めることができる』が他の年齢に比べて高くなっています。
地区別にみると、美和地区で『求めることができる』が他の地区に比べて高くなっています。

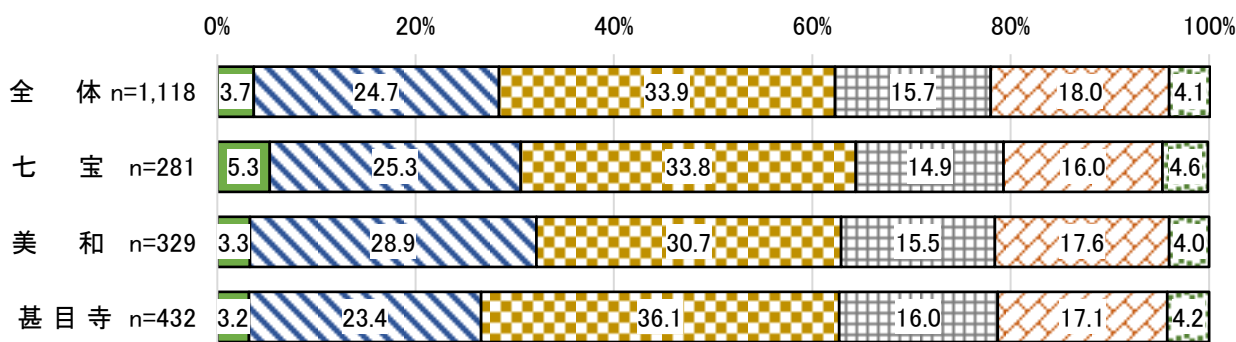
【 年齢別 】

- 遠慮なく求めることができる
- 申し訳なく思い、求めることができない
- 誰に求めていいかわからない
- 申し訳なく思うが、求めることはできる
- 人に頼りたくないなので、求めない
- 無回答



【 地区別 】

- 遠慮なく求めることができる
- 申し訳なく思い、求めることができない
- 誰に求めていいかわからない
- 申し訳なく思うが、求めることはできる
- 人に頼りたくないなので、求めない
- 無回答



問 24 地域の支え合いのための個人情報の取り扱いについて、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

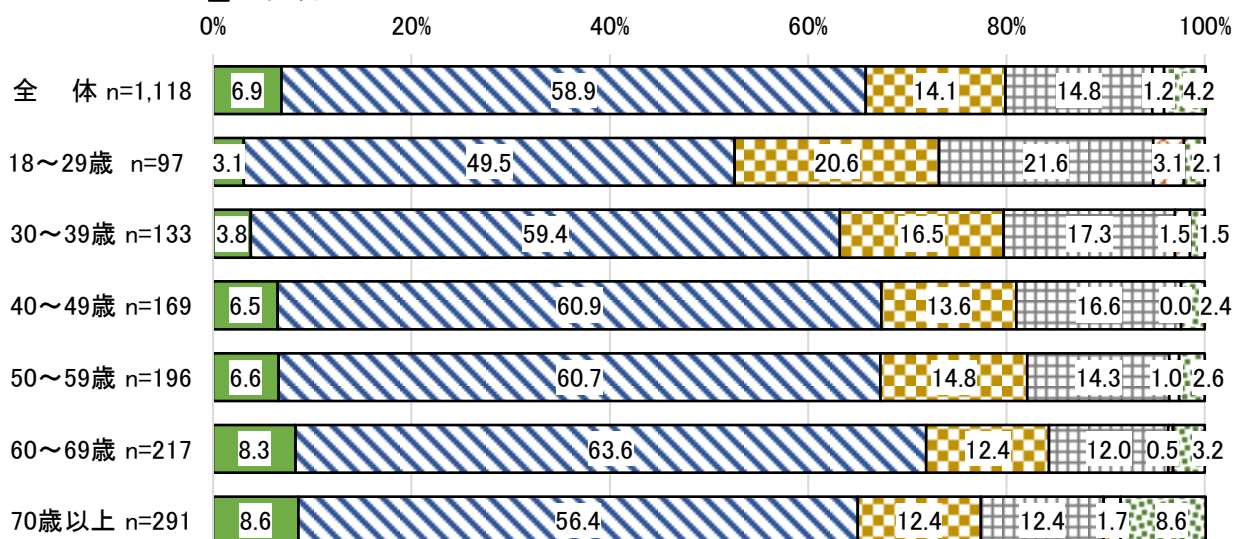
地域の支え合いのための個人情報の取り扱いについては、「個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である」が 58.9%と最も高く、次いで「個人情報は共有すべきではない」が 14.8%、「個人情報は共有してほしくない」が 14.1%、「個人情報の共有は地域の支え合いのために必要である」が 6.9%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳で「個人情報は共有すべきではない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、美和地区で「個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である」が他の地区に比べて最も高くなっています。

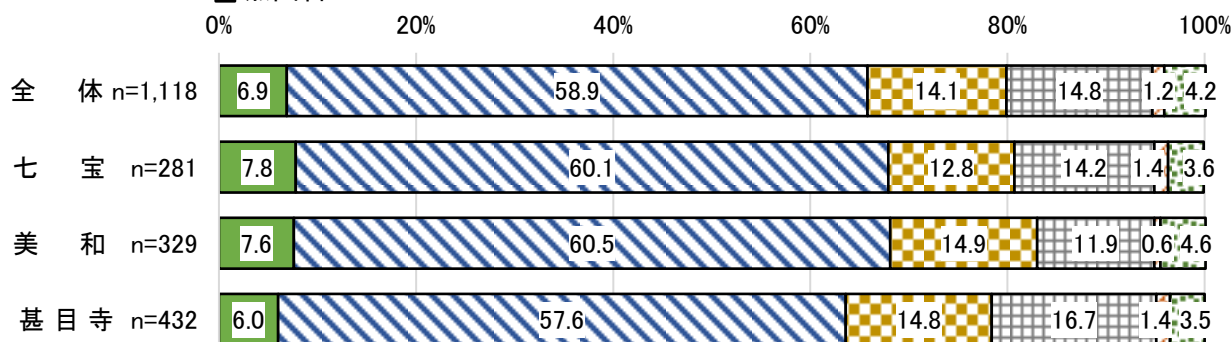
【 年齢別 】

- 個人情報の共有は地域の支え合いのために必要である
- ▨ 個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である
- ▩ 個人情報は共有してほしくない
- ▧ 個人情報は共有すべきではない
- ▤ その他
- ▦ 無回答



【 地区別 】

- 個人情報の共有は地域の支え合いのために必要である
- ▨ 個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である
- ▩ 個人情報は共有してほしくない
- ▧ 個人情報は共有すべきではない
- ▤ その他
- ▦ 無回答



5 ボランティア活動について

問 25 ボランティア活動へ参加していますか。(〇は1つだけ)

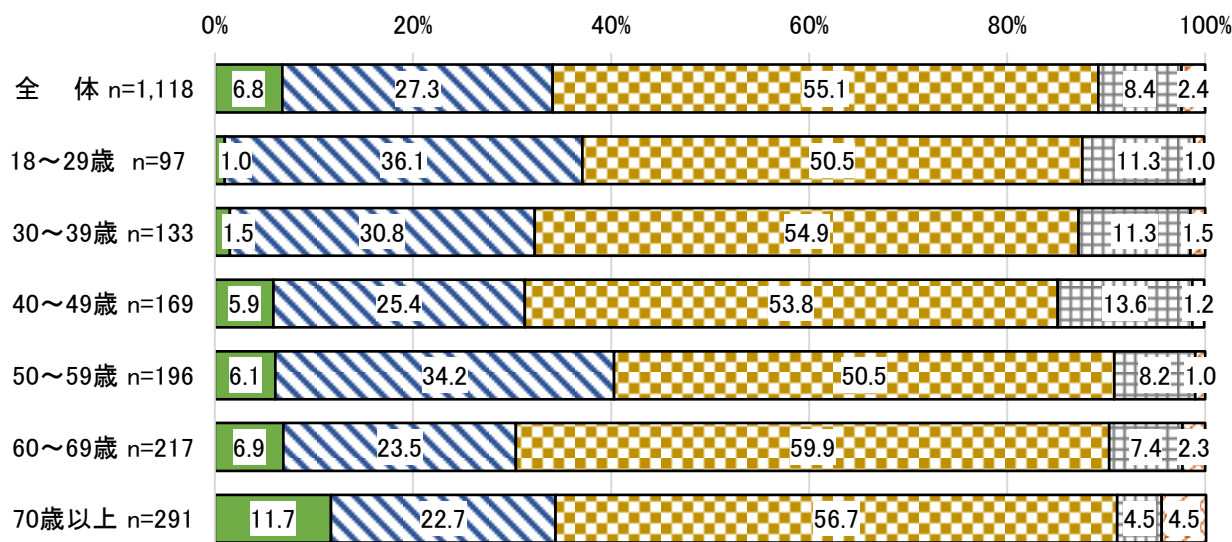
ボランティア活動への参加については、「参加したことがない」が55.1%と最も高く、次いで「過去に参加したことがある」が27.3%、「現在、参加している」が6.8%となっており、ボランティア活動の経験がある人は約3割となっています。

年齢別にみると、50～59歳で他の年齢に比べてボランティア活動の経験がある人が多くなっています。

地区別にみると、美和地区で他の地区に比べてボランティア活動の経験がある人が多くなっています。

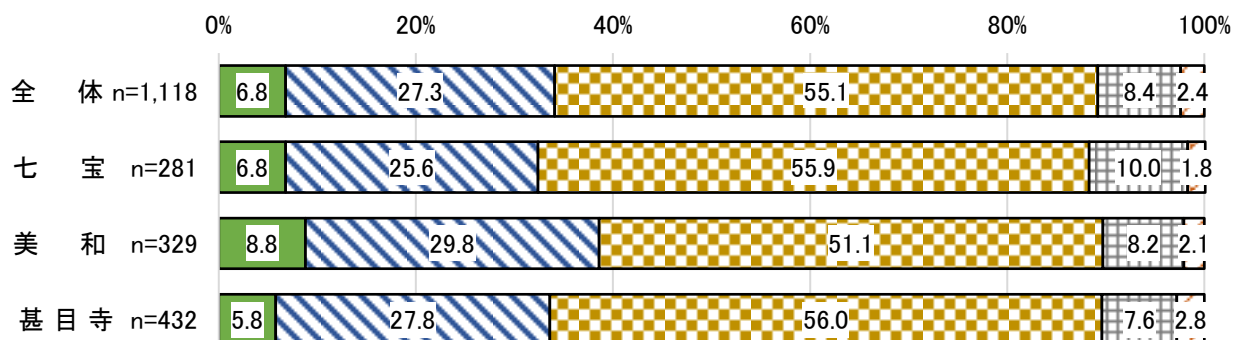
【年齢別】

■ 現在、参加している ■ 過去に参加したことがある ■ 参加したことがない ■ 参加したくない ■ 無回答



【地区別】

■ 現在、参加している ■ 過去に参加したことがある ■ 参加したことがない ■ 参加したくない ■ 無回答

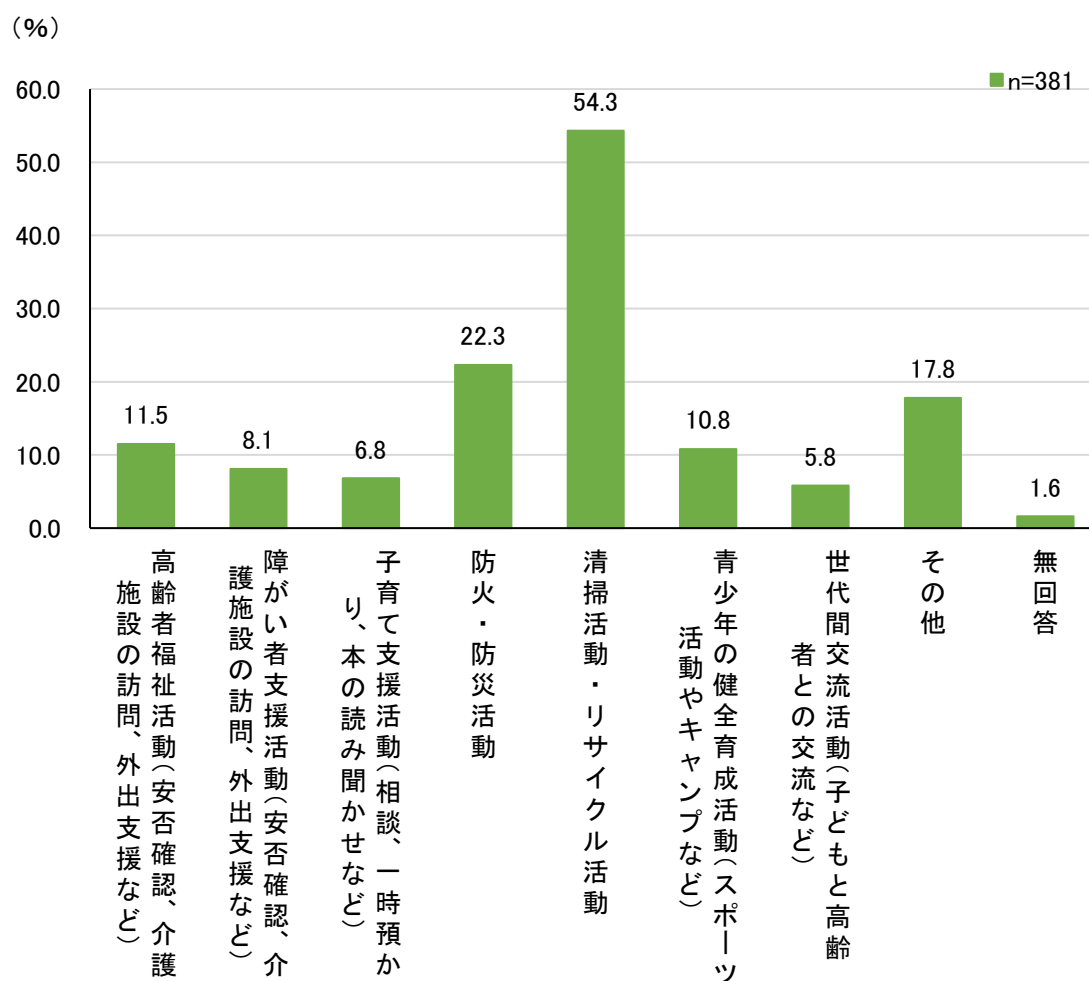


【問 25 で「1 現在、参加している」「2 過去に参加したことがある」と回答された方のみ】

問 25-1 どのようなボランティア活動へ参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

どのようなボランティア活動へ参加したかについては、「清掃活動・リサイクル活動」が 54.3% と最も高く、次いで「防火・防災活動」が 22.3%、「高齢者福祉活動（安否確認、介護施設の訪問、外出支援など）」が 11.5% となっています。

年齢別・地区別にみると、いずれの年齢・地区においても「清掃活動・リサイクル活動」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| ・青パト、防犯パトロール | ・国際交流 |
| ・子供の通学時の見守り | ・在日外国人の為の日本語教室 |
| ・町内会イベントの手伝い
（バザー、秋祭り、盆おどり、どんどこ祭） | ・いのちの電話（自殺予防） |
| ・子ども食堂 | ・あん摩マッサージ師として福祉施設でのマッサージ施術ボランティア |
| ・手話サークル | ・子ども会での役員としてスポーツ、レクリエーション等 |

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者福祉活動 （安否確認、介護施設の訪問、 外出支援など）	障がい者支援活動 （安否確認、介護施設の訪問、 外出支援など）	子育て支援活動 （相談、一時預かり、 本の読み聞かせなど）	防火・防災活動	清掃活動・リサイクル活動	青少年の健全育成活動 （スポーツ活動やキャンプなど）	世代間交流活動 （子どもと高齢者との交流など）	その他	無回答
全 体	381	11.5	8.1	6.8	22.3	54.3	10.8	5.8	17.8	1.6
18～29歳	36	5.6	5.6	2.8	13.9	52.8	13.9	8.3	33.3	0.0
30～39歳	43	16.3	18.6	4.7	18.6	53.5	16.3	7.0	11.6	0.0
40～49歳	53	13.2	13.2	5.7	18.9	45.3	13.2	11.3	18.9	0.0
50～59歳	79	3.8	3.8	12.7	20.3	55.7	11.4	2.5	17.7	1.3
60～69歳	66	4.5	6.1	3.0	36.4	59.1	9.1	3.0	16.7	0.0
70歳以上	100	21.0	6.0	7.0	22.0	56.0	7.0	6.0	14.0	5.0

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者福祉活動 （安否確認、介護施設の訪問、 外出支援など）	障がい者支援活動 （安否確認、介護施設の訪問、 外出支援など）	子育て支援活動 （相談、一時預かり、 本の読み聞かせなど）	防火・防災活動	清掃活動・リサイクル活動	青少年の健全育成活動 （スポーツ活動やキャンプなど）	世代間交流活動 （子どもと高齢者との交流など）	その他	無回答
全 体	381	11.5	8.1	6.8	22.3	54.3	10.8	5.8	17.8	1.6
七 宝	91	13.2	5.5	6.6	24.2	54.9	7.7	8.8	17.6	1.1
美 和	127	10.2	5.5	3.1	26.0	59.8	13.4	3.9	15.0	1.6
甚 目 寺	145	11.0	8.3	9.7	19.3	51.0	11.0	4.8	20.0	2.1

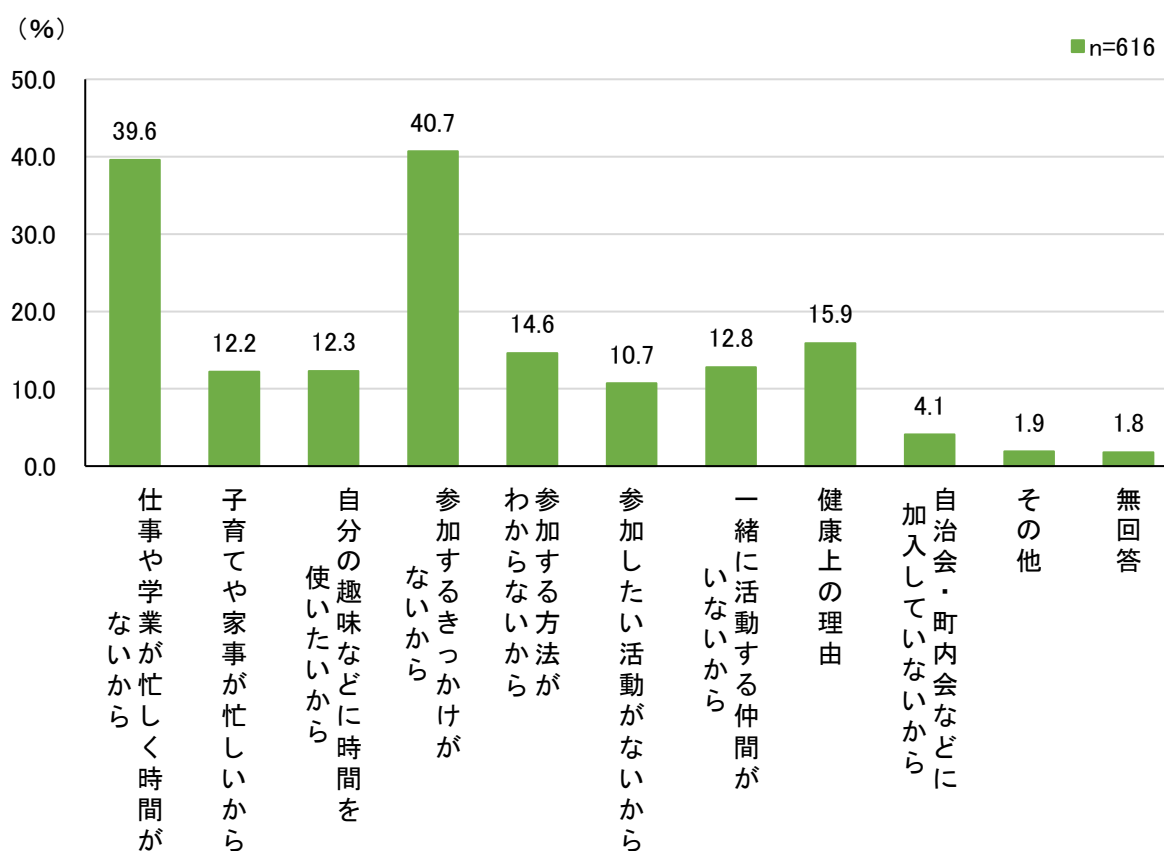
【問 25 で「3 参加したことがない」と回答された方のみ】

問 25-2 参加したことがない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

参加したことがない理由については、「参加するきっかけがないから」が 40.7%と最も高く、「仕事や学業が忙しく時間がないから」が 39.6%、次いで「健康上の理由」が 15.9%、「参加する方法がわからないから」が 14.6%となっています。

年齢別にみると、18～59 歳では「仕事や学業が忙しく時間がないから」、60～69 歳では「参加するきっかけがないから」、70 歳以上では「健康上の理由」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区、美和地区では「参加するきっかけがないから」、甚目寺地区では「仕事や学業が忙しく時間がないから」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- | | |
|------------|------------------|
| ・畑・田の草取り | ・交通不便 |
| ・開催を知らない | ・高齢のため |
| ・世話があり出れない | ・はずかしい、一人参加はさみしい |

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	仕事や学業が忙しく時間がないから	子育てや家事が忙しいから	自分の趣味などに時間を使いたいたから	参加するきっかけがないから	参加する方法がわからないから	参加したい活動がないから	一緒に活動する仲間がいから	健康上の理由	自治会・町内会などに加入していないから	その他	無回答
全 体	616	39.6	12.2	12.3	40.7	14.6	10.7	12.8	15.9	4.1	1.9	1.8
18～29歳	49	55.1	16.3	24.5	42.9	10.2	10.2	12.2	2.0	2.0	2.0	0.0
30～39歳	73	61.6	39.7	12.3	39.7	21.9	9.6	16.4	4.1	4.1	0.0	1.4
40～49歳	91	50.5	23.1	13.2	41.8	16.5	9.9	6.6	4.4	2.2	1.1	2.2
50～59歳	99	55.6	4.0	9.1	41.4	9.1	9.1	16.2	6.1	7.1	1.0	0.0
60～69歳	130	36.2	5.4	10.0	48.5	17.7	10.8	14.6	13.8	5.4	0.0	0.8
70歳以上	165	12.1	2.4	11.5	33.9	12.1	12.7	12.1	40.0	2.4	5.5	4.2

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	仕事や学業が忙しく時間がないから	子育てや家事が忙しいから	自分の趣味などに時間を使いたいたから	参加するきっかけがないから	参加する方法がわからないから	参加したい活動がないから	一緒に活動する仲間がいから	健康上の理由	自治会・町内会などに加入していないから	その他	無回答
全 体	616	39.6	12.2	12.3	40.7	14.6	10.7	12.8	15.9	4.1	1.9	1.8
七 宝	157	31.2	10.8	8.9	39.5	12.1	9.6	9.6	18.5	1.9	3.8	3.2
美 和	168	39.3	10.1	13.7	47.0	14.9	12.5	10.1	15.5	0.6	2.4	1.2
甚 目 寺	242	44.2	15.7	12.4	39.7	14.0	11.2	16.9	13.2	8.3	0.4	1.2

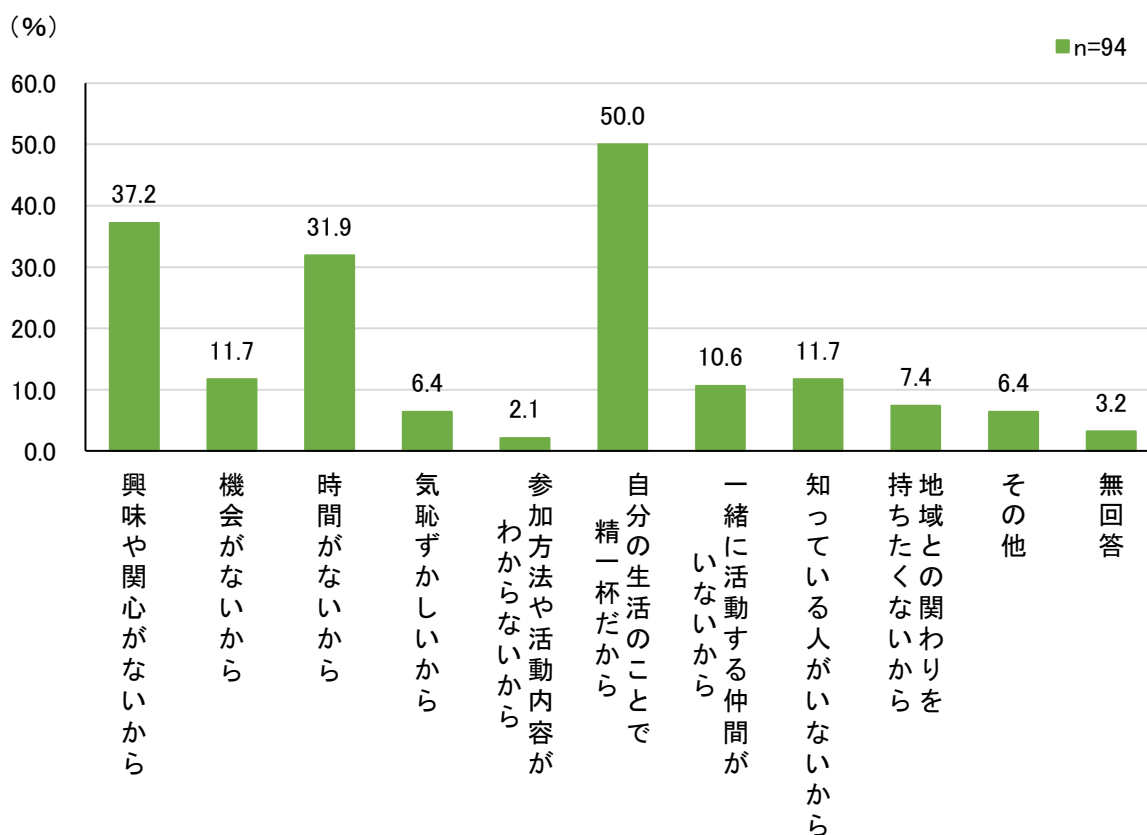
【問 25 で「4 参加したくない」と回答された方のみ】

問 25-3 参加したくない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

参加したくない理由については、「自分の生活のことで精一杯だから」が 50.0%と最も高く、次いで「興味や関心がないから」が 37.2%、「時間がないから」が 31.9%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「時間がないから」、30～39 歳及び 50 歳以上では「自分の生活のことで精一杯だから」、40～49 歳では「興味や関心がないから」と「自分の生活のことで精一杯だから」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「自分の生活のことで精一杯だから」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・健康上の理由
- ・楽しくないから
- ・介護で忙しい

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	興味や関心がないから	機会がないから	時間がないから	気恥ずかしいから	参加方法や活動内容がわからないから	自分の生活のことで精一杯だから	一緒に活動する仲間がいらないから	知っている人がいないから	地域との関わりを持ちたくないから	その他	無回答
全 体	94	37.2	11.7	31.9	6.4	2.1	50.0	10.6	11.7	7.4	6.4	3.2
18～29歳	11	36.4	18.2	45.5	9.1	0.0	36.4	18.2	27.3	0.0	18.2	0.0
30～39歳	15	26.7	0.0	40.0	6.7	0.0	60.0	6.7	6.7	13.3	0.0	13.3
40～49歳	23	47.8	8.7	43.5	13.0	0.0	47.8	4.3	8.7	4.3	4.3	0.0
50～59歳	16	43.8	0.0	25.0	0.0	6.3	56.3	6.3	0.0	12.5	12.5	0.0
60～69歳	16	37.5	25.0	25.0	0.0	6.3	56.3	12.5	18.8	6.3	6.3	0.0
70歳以上	13	23.1	23.1	7.7	7.7	0.0	38.5	23.1	15.4	7.7	0.0	7.7

【 地区別 】

(%)

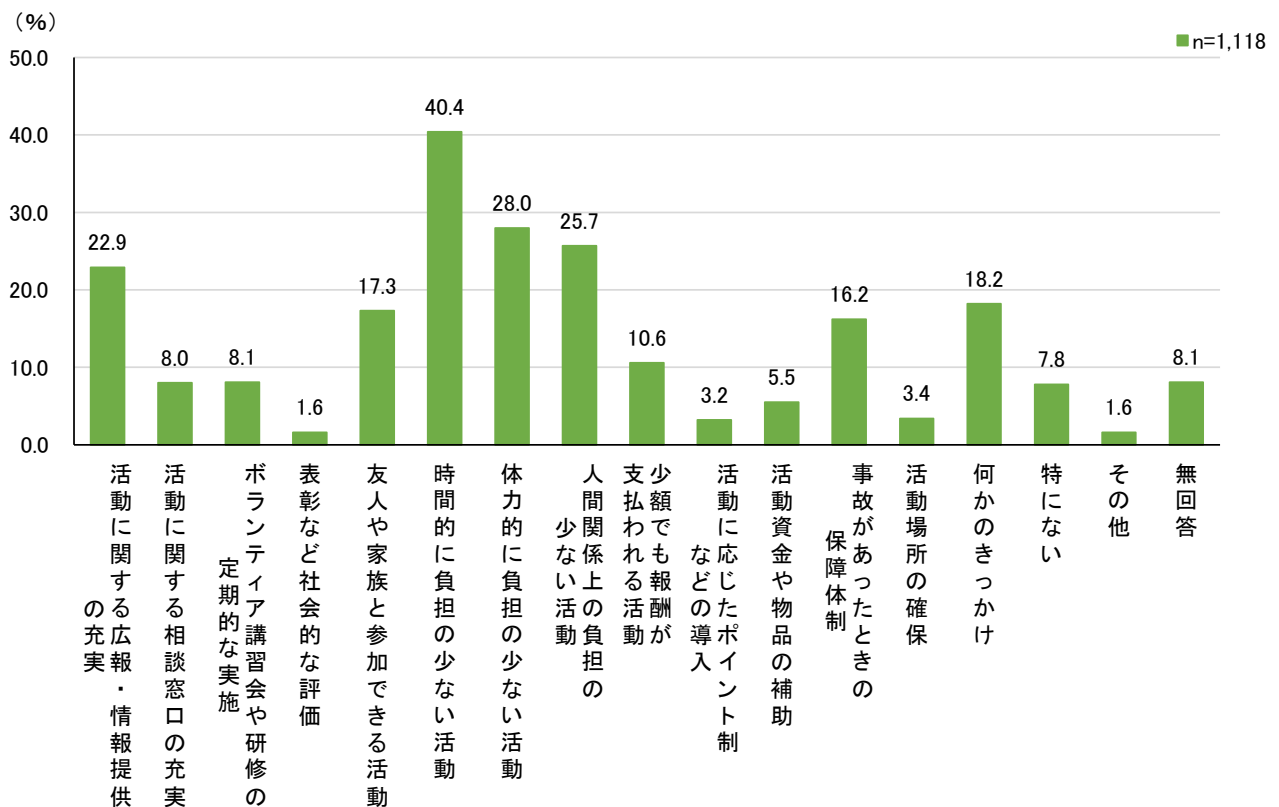
	調査数（人）	興味や関心がないから	機会がないから	時間がないから	気恥ずかしいから	参加方法や活動内容がわからないから	自分の生活のことで精一杯だから	一緒に活動する仲間がいらないから	知っている人がいないから	地域との関わりを持ちたくないから	その他	無回答
全 体	94	37.2	11.7	31.9	6.4	2.1	50.0	10.6	11.7	7.4	6.4	3.2
七 宝	28	35.7	21.4	32.1	3.6	0.0	39.3	17.9	10.7	3.6	3.6	3.6
美 和	27	44.4	11.1	25.9	7.4	3.7	63.0	11.1	7.4	14.8	3.7	3.7
甚 目 寺	33	27.3	6.1	36.4	9.1	3.0	51.5	0.0	15.2	6.1	12.1	3.0

問 26 あなたがボランティア活動へ参加する上で必要なことは何ですか。(〇は3つまで)

ボランティア活動へ積極的に参加する上で必要なことについては、「時間的に負担の少ない活動」が40.4%と最も高く、次いで「体力的に負担の少ない活動」が28.0%、「人間関係上の負担の少ない活動」が25.7%、「活動に関する広報・情報提供の充実」が22.9%となっています。

年齢別にみると、18～29歳では「友人や家族と参加できる活動」、30～69歳では「時間的に負担の少ない活動」、70歳以上では「体力的に負担の少ない活動」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「時間的に負担の少ない活動」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ・ やりがい | ・ 自分自身のモチベーションとエネルギー |
| ・ 思いやり | ・ 参加、利用しやすいシステム |
| ・ 活動内容の限定範囲をきっちり決める事 | ・ 成果がわかること |
| ・ 活動内容が好きなこと | ・ 公務員の経費削減へ繋がること |

【 年齢別 】

(%)

	調査数(人)	活動に関する広報・情報提供の充実	活動に関する相談窓口の充実	定期的な実施 ボランティア講習会や研修の	表彰など社会的な評価	友人や家族と参加できる活動	時間的に負担の少ない活動	体力的に負担の少ない活動	人間関係上の負担の少ない活動	少額でも報酬が支払われる活動	活動に応じたポイント制などの導入	活動資金や物品の補助	事故があったときの保障体制	活動場所の確保	何かのきっかけ	特になし	その他	無回答
全 体	1,118	22.9	8.0	8.1	1.6	17.3	40.4	28.0	25.7	10.6	3.2	5.5	16.2	3.4	18.2	7.8	1.6	8.1
18～29歳	97	21.6	5.2	3.1	6.2	36.1	34.0	19.6	22.7	17.5	5.2	12.4	10.3	6.2	29.9	8.2	1.0	5.2
30～39歳	133	21.8	1.5	3.0	2.3	24.1	52.6	22.6	22.6	17.3	3.8	7.5	12.0	3.8	27.1	6.8	3.0	1.5
40～49歳	169	22.5	7.1	7.7	0.6	21.3	45.6	19.5	30.2	14.8	5.9	9.5	14.8	5.3	14.8	5.9	0.6	5.9
50～59歳	196	26.5	11.2	9.2	1.5	13.8	43.4	20.4	27.0	15.3	4.1	4.6	16.3	4.1	23.0	9.2	1.0	2.0
60～69歳	217	28.6	11.1	9.7	0.9	11.5	47.0	35.0	30.0	7.4	1.4	2.8	20.7	1.8	13.8	8.8	1.4	6.0
70歳以上	291	16.8	8.2	10.0	0.3	12.0	26.8	37.5	21.6	2.1	1.7	2.7	18.2	1.7	12.0	7.9	2.4	18.9

【 地区別 】

(%)

	調査数(人)	活動に関する広報・情報提供の充実	活動に関する相談窓口の充実	定期的な実施 ボランティア講習会や研修の	表彰など社会的な評価	友人や家族と参加できる活動	時間的に負担の少ない活動	体力的に負担の少ない活動	人間関係上の負担の少ない活動	少額でも報酬が支払われる活動	活動に応じたポイント制などの導入	活動資金や物品の補助	事故があったときの保障体制	活動場所の確保	何かのきっかけ	特になし	その他	無回答
全 体	1,118	22.9	8.0	8.1	1.6	17.3	40.4	28.0	25.7	10.6	3.2	5.5	16.2	3.4	18.2	7.8	1.6	8.1
七 宝	281	27.4	7.8	4.6	1.8	17.1	37.0	26.0	21.4	8.5	2.8	6.0	14.6	2.8	17.1	8.9	1.1	7.5
美 和	329	24.3	9.1	9.1	1.2	20.4	45.0	28.6	27.7	12.2	3.0	4.6	17.3	3.0	18.2	5.5	0.9	8.5
甚 目 寺	432	19.0	7.4	9.7	1.9	16.2	37.7	27.3	27.3	10.4	3.5	6.5	16.9	4.4	18.3	8.8	2.3	7.9

6 災害時における活動等について

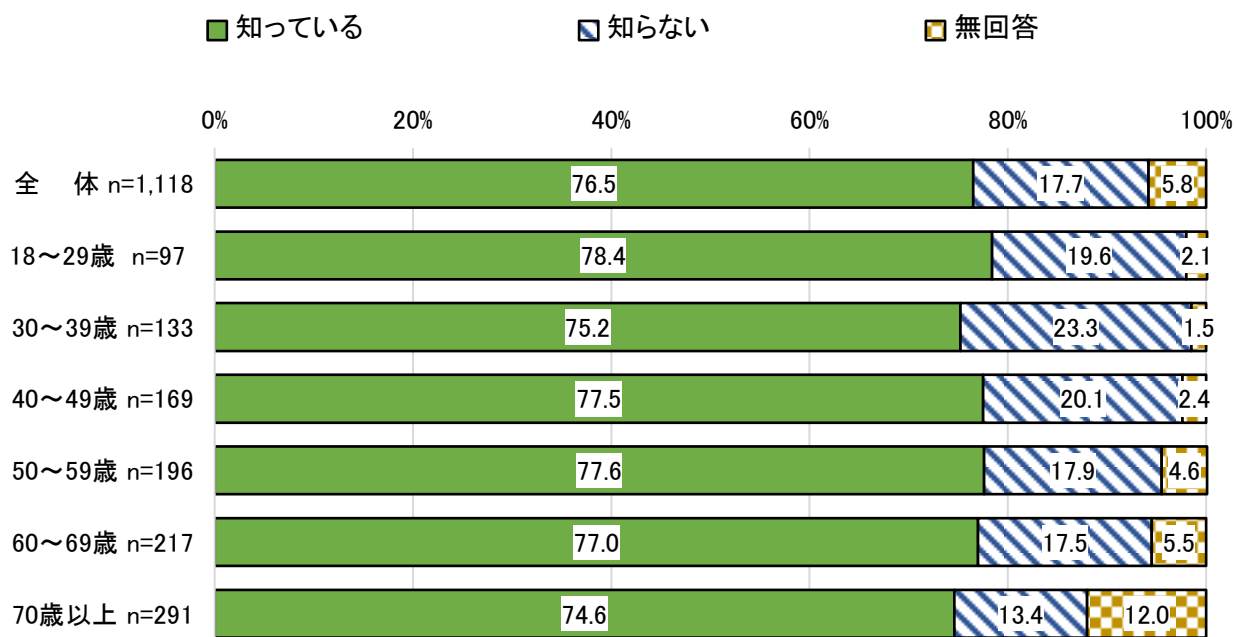
問 27 あなたは、お住まいの小学校区における災害時の避難場所（指定避難所）を知っていますか。（○は1つだけ）

お住まいの小学校区における災害時の避難場所（指定避難所）を知っているかについて、「知っている」が76.5%、「知らない」が17.7%となっています。

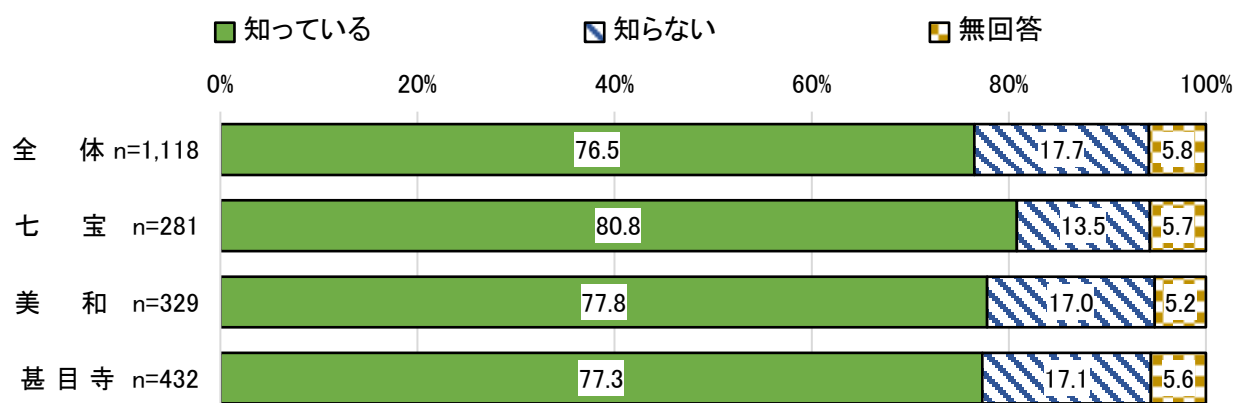
年齢別にみると、30～39歳で「知らない」が他の年齢に比べてやや高くなっています。

地区別にみると、七宝地区で「知っている」が他の地区に比べてやや高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】

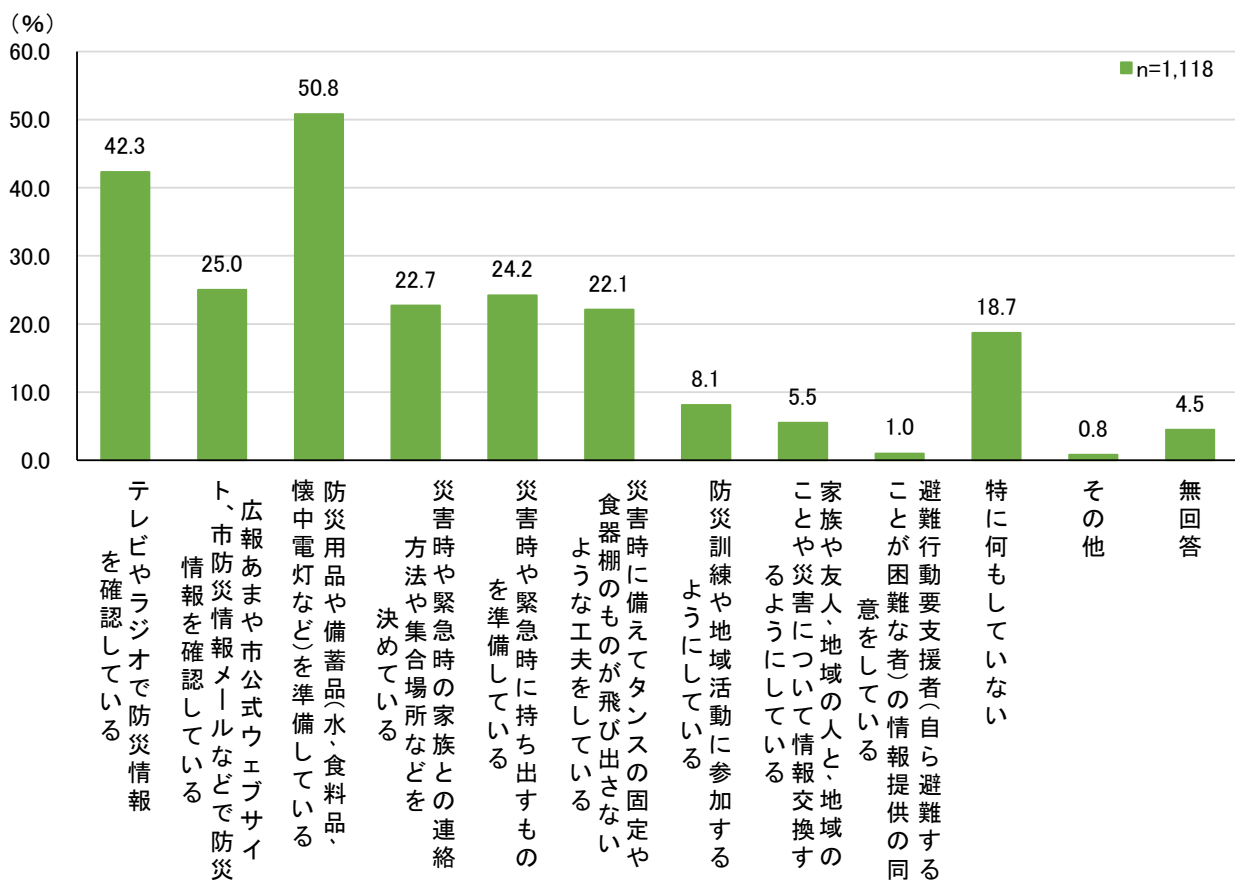


問 28 災害に備えて行っている自助活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

災害に備えて行っている自助活動について、「防災用品や備蓄品(水、食料品、懐中電灯など)を準備している」が 50.8%と最も高く、次いで「テレビやラジオで防災情報を確認している」が 42.3%、「広報あまや市公式ウェブサイト、市防災情報メールなどで防災情報を確認している」が 25.0%となっています。

年齢別にみると、18～59 歳では「防災用品や備蓄品(水、食料品、懐中電灯など)を準備している」、60 歳以上では「テレビやラジオで防災情報を確認している」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「防災用品や備蓄品(水、食料品、懐中電灯など)を準備している」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・息子(5才)が在宅酸素療法者なので、保健所(津島)との連携をしている。
- ・身体障害者があるので自宅避難できるように。
- ・主人が防災リーダー会に入っている。
- ・犬と一緒に避難できる様に考えている。
- ・ハザードマップ。

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	テレビやラジオで防災情報を確認している	市防災情報メールなどで防災情報を確認している	広報あまや市公式ウェブサイトを、市防災情報メールなどで防災情報を確認している	防災用品や備蓄品（水、食料品、懐中電灯など）を準備している	連絡方法や緊急時の家族との災害時や緊急時の家族との連絡方法や集合場所などを決めている	災害時や緊急時に持ち出すものを準備している	災害時に備えてタンスの固定や食器棚のものが飛び出さないような工夫をしている	防災訓練や地域活動に参加するようになっている	地域のことや災害について、家族や友人、地域の人と、情報交換するようになっている	避難行動要支援者（自ら避難することが困難な者）の情報提供の同意をしている	特に何もしていない	その他	無回答
全 体	1,118	42.3	25.0	50.8	22.7	24.2	22.1	8.1	5.5	1.0	18.7	0.8	4.5	
18～29歳	97	22.7	14.4	36.1	23.7	24.7	19.6	0.0	7.2	1.0	30.9	1.0	2.1	
30～39歳	133	26.3	20.3	57.9	25.6	27.1	12.8	2.3	7.5	0.8	16.5	1.5	1.5	
40～49歳	169	30.8	24.3	52.7	31.4	21.9	23.1	7.7	8.9	0.0	18.3	0.0	4.7	
50～59歳	196	34.2	26.5	51.5	25.0	28.6	26.0	6.6	3.6	1.5	19.9	1.0	2.6	
60～69歳	217	56.2	30.0	55.3	18.4	19.8	23.5	10.1	1.8	0.5	14.3	1.4	4.1	
70歳以上	291	58.8	26.8	48.1	17.9	25.4	23.7	13.4	6.5	1.7	18.2	0.3	7.6	

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	テレビやラジオで防災情報を確認している	市防災情報メールなどで防災情報を確認している	広報あまや市公式ウェブサイトを、市防災情報メールなどで防災情報を確認している	防災用品や備蓄品（水、食料品、懐中電灯など）を準備している	連絡方法や緊急時の家族との災害時や緊急時の家族との連絡方法や集合場所などを決めている	災害時や緊急時に持ち出すものを準備している	災害時に備えてタンスの固定や食器棚のものが飛び出さないような工夫をしている	防災訓練や地域活動に参加するようになっている	地域のことや災害について、家族や友人、地域の人と、情報交換するようになっている	避難行動要支援者（自ら避難することが困難な者）の情報提供の同意をしている	特に何もしていない	その他	無回答
全 体	1,118	42.3	25.0	50.8	22.7	24.2	22.1	8.1	5.5	1.0	18.7	0.8	4.5	
七 宝	281	46.3	25.3	48.8	19.6	28.1	21.4	12.5	5.3	0.7	18.1	2.5	3.2	
美 和	329	40.7	26.1	48.6	22.8	23.1	26.7	10.9	6.7	1.8	20.1	0.0	4.6	
甚 目 寺	432	41.9	25.2	55.8	25.2	23.4	21.8	4.2	5.3	0.7	17.1	0.5	4.6	

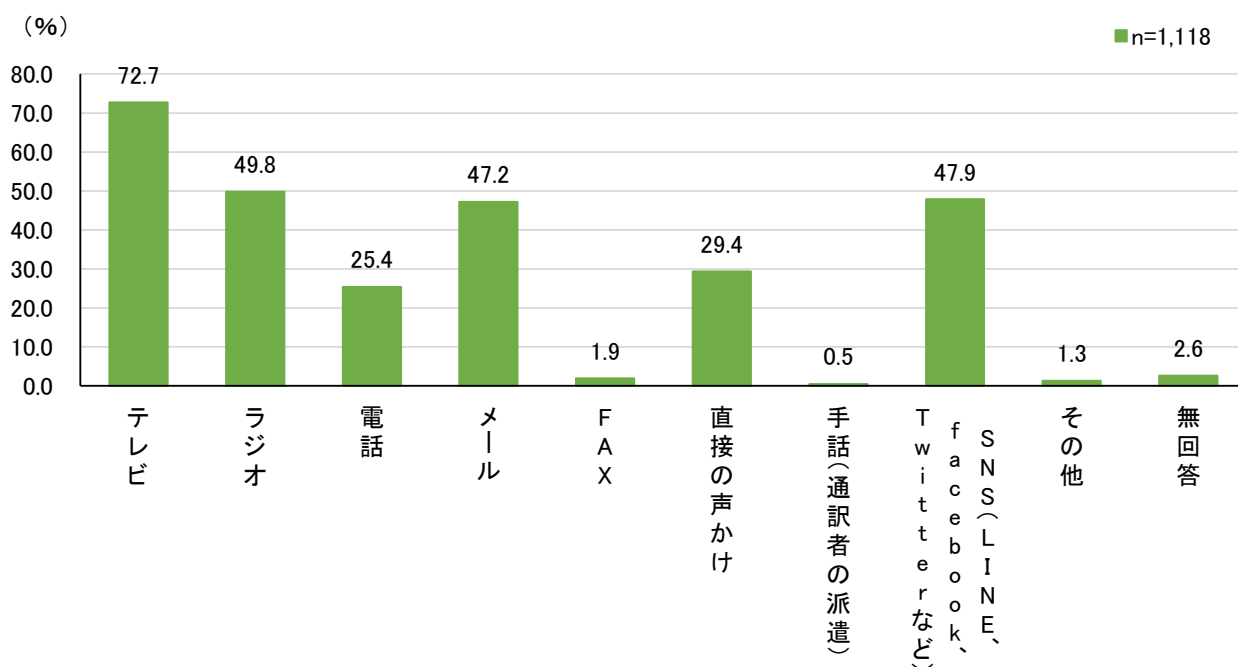
問 29 災害時に情報等を得る方法として希望するものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

災害時に希望する情報収集方法について、「テレビ」が72.7%と最も高く、次いで「ラジオ」が49.8%、「SNS (LINE、facebook、Twitter など)」が47.9%、「メール」が47.2%となっています。

年齢別にみると、18～49歳では「SNS (LINE、facebook、Twitter など)」、50歳以上では「テレビ」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「テレビ」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・インターネット、Webサイト
- ・市の公用車による広報活動
- ・町内放送
- ・掲示板

【 年齢別 】

(%)

	調査数 (人)	テレビ	ラジオ	電話	メール	FAX	直接の 声かけ	手話 (通訳者の 派遣)	T f S w a N i t c S t t e (L e r o I n o N k E、 など)	その他	無回答
全 体	1,118	72.7	49.8	25.4	47.2	1.9	29.4	0.5	47.9	1.3	2.6
18～29歳	97	63.9	36.1	18.6	42.3	1.0	27.8	1.0	75.3	1.0	1.0
30～39歳	133	59.4	39.8	18.0	43.6	0.8	22.6	2.3	84.2	0.8	0.8
40～49歳	169	59.2	40.2	17.8	53.8	0.0	22.5	0.6	67.5	1.8	1.8
50～59歳	196	78.6	49.5	20.9	55.1	1.5	25.5	0.0	61.7	1.5	1.0
60～69歳	217	76.0	59.0	21.7	52.1	1.8	24.9	0.5	32.7	1.4	2.8
70歳以上	291	83.2	58.4	41.9	39.9	4.1	44.0	0.0	12.4	0.7	5.2

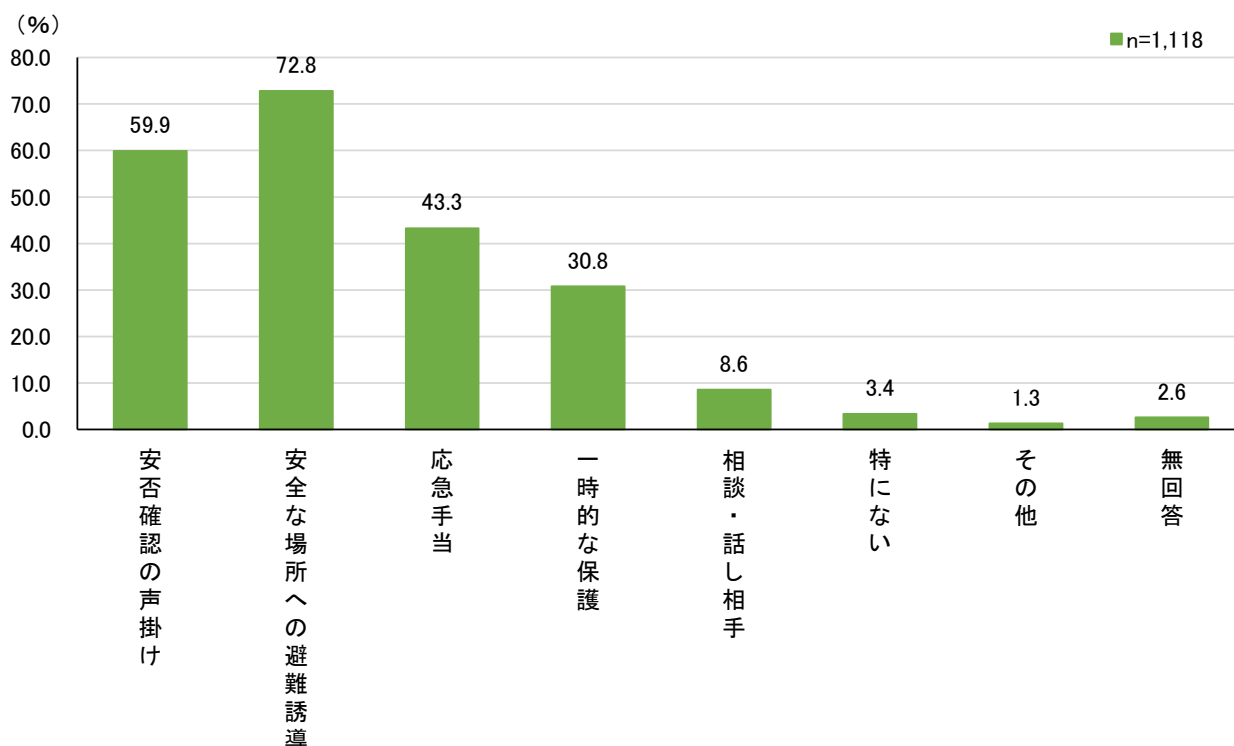
【 地区別 】

(%)

	調査数 (人)	テレビ	ラジオ	電話	メール	FAX	直接の 声かけ	手話 (通訳者の 派遣)	T f S w a N i t c S t t e (L e r o I n o N k E、 など)	その他	無回答
全 体	1,118	72.7	49.8	25.4	47.2	1.9	29.4	0.5	47.9	1.3	2.6
七 宝	281	73.7	51.2	27.0	45.6	2.5	31.7	0.0	41.6	1.1	1.1
美 和	329	73.3	53.8	26.1	52.3	1.8	31.6	0.9	47.7	1.2	3.0
甚 目 寺	432	72.2	47.0	25.0	46.8	1.9	27.5	0.7	51.2	1.6	3.0

問 30 災害時、地域でしてほしい支援は何ですか。(〇は3つまで)

災害時、地域でどのような支援をしてほしいかについて、「安全な場所への避難誘導」が72.8%と最も高く、次いで、「安否確認の声掛け」が59.9%、「応急手当」が43.3%となっています。年齢別にみると、いずれの年齢も「安全な場所への避難誘導」が最も高くなっています。地区別にみると、いずれの地区も「安全な場所への避難誘導」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・ 確実に届く手段での情報（大雨・台風では屋外の放送、巡回カーの声は聴き取りにくい。）
- ・ ペットの保護
- ・ トイレの確保
- ・ 水、食料等の支援
- ・ 居・食・住を助けてもらう
- ・ 避難時の寝具の確保
- ・ 自宅避難者への対応
- ・ 情報の提供
- ・ 復旧支援

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	安否確認の声掛け	安全な場所への避難誘導	応急手当	一時的な保護	相談・話し相手	特にない	その他	無回答
全 体	1,118	59.9	72.8	43.3	30.8	8.6	3.4	1.3	2.6
18～29歳	97	36.1	78.4	61.9	36.1	11.3	3.1	0.0	1.0
30～39歳	133	58.6	75.9	56.4	27.1	3.0	0.8	2.3	0.0
40～49歳	169	55.0	69.8	50.3	29.6	7.1	4.7	1.2	3.0
50～59歳	196	58.7	69.4	40.3	30.1	10.2	4.6	2.0	1.0
60～69歳	217	60.8	71.4	36.4	34.6	8.3	5.1	1.8	1.4
70歳以上	291	71.1	75.6	34.0	28.9	9.6	2.1	0.3	5.8

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	安否確認の声掛け	安全な場所への避難誘導	応急手当	一時的な保護	相談・話し相手	特にない	その他	無回答
全 体	1,118	59.9	72.8	43.3	30.8	8.6	3.4	1.3	2.6
七 宝	281	61.6	69.4	40.6	24.6	8.2	3.9	1.8	1.8
美 和	329	53.8	74.2	44.1	33.1	9.1	3.6	1.5	3.3
甚 目 寺	432	62.7	73.4	44.0	33.6	8.1	2.8	0.9	2.8

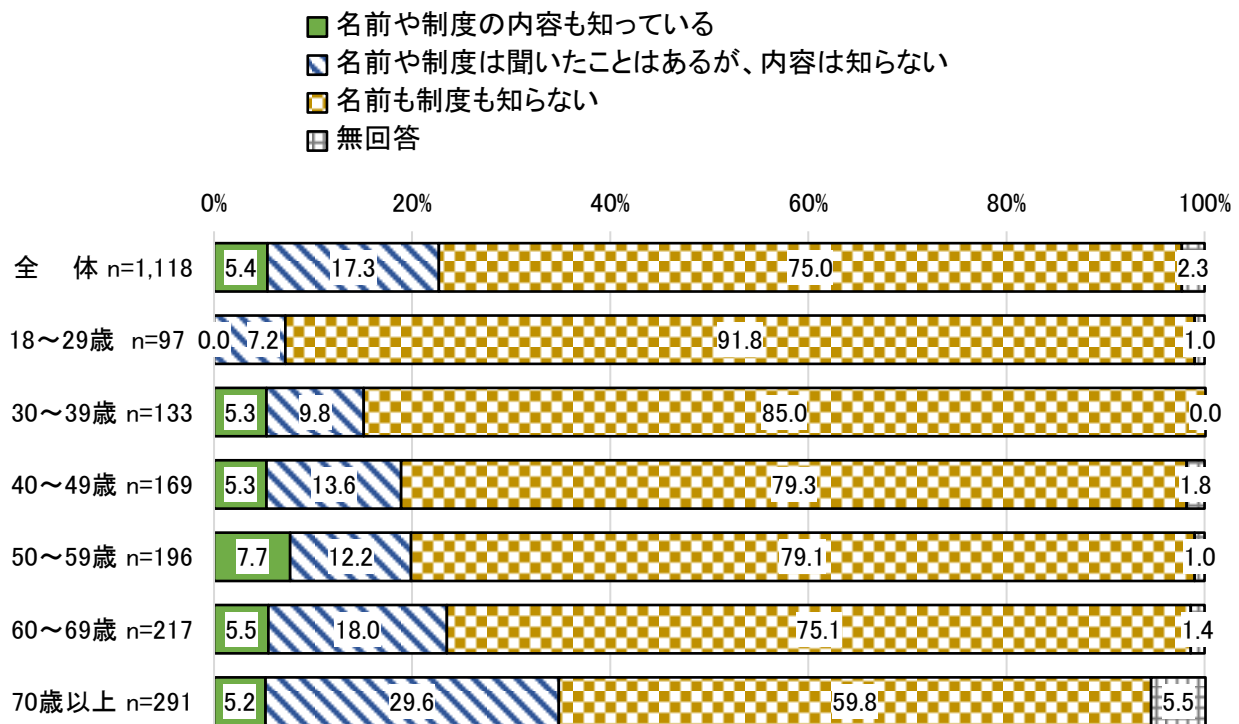
問 31 あなたは、「避難行動要支援者名簿制度」を知っていますか。(○は1つだけ)

「避難行動要支援者名簿制度」を知っているかについて、「名前も制度も知らない」が75.0%と最も高く、「名前や制度は聞いたことはあるが、内容は知らない」が17.3%、「名前や制度の内容も知っている」が5.4%となっています。

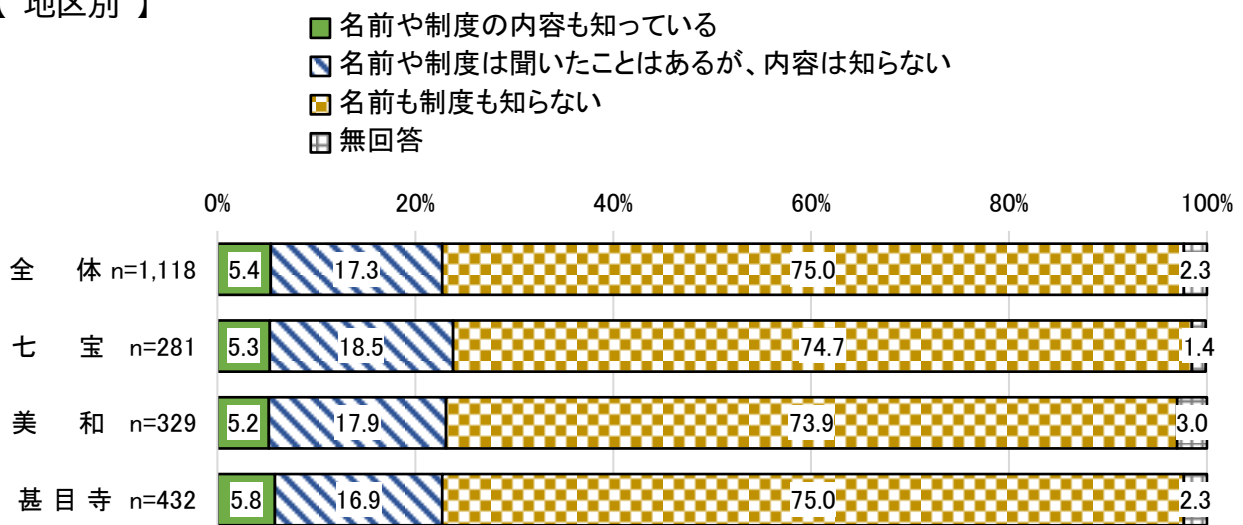
年齢別にみると、18～29歳では「名前も制度も知らない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「名前も制度も知らない」が最も高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】

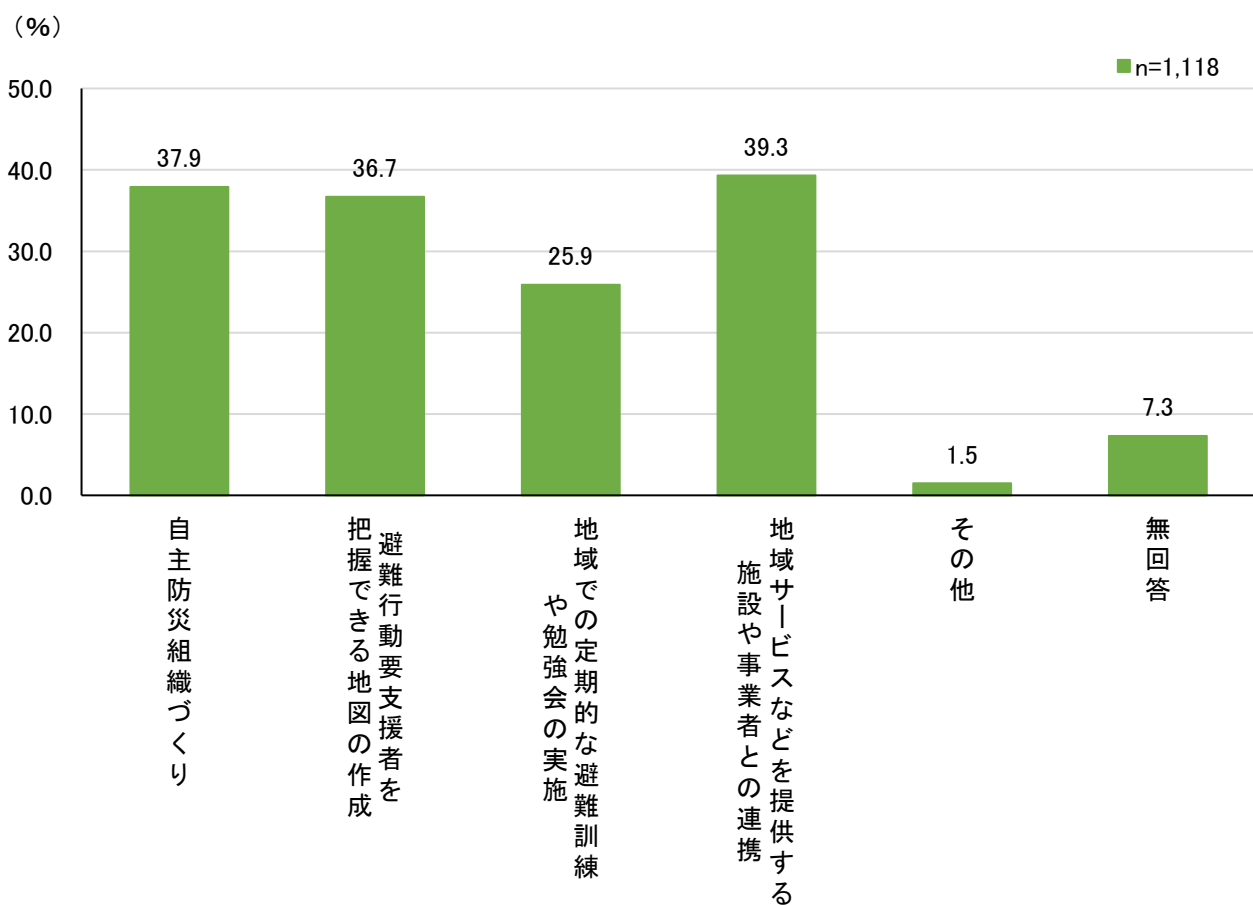


問 32 「災害時に住民が支え合う地域づくり」に必要なと思うことは何ですか。
(〇は2つまで)

「災害時に住民が支え合う地域づくり」に必要なことについて、「地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携」が39.3%と最も高く、次いで「自主防災組織づくり」が37.9%、「避難行動支援者を把握できる地図の作成」が36.7%となっています。

年齢別にみると、18～49歳では「地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携」、50～59歳では「避難行動支援者を把握できる地図の作成」と「地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携」、60歳以上では「自主防災組織づくり」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区、美和地区では「自主防災組織づくり」、甚目寺地区では「地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- | | |
|------------------|-----------|
| ・ 普段からのコミュニケーション | ・ モラルの育成。 |
| ・ 誘導地図や標識 | ・ SNS等で発信 |
| ・ リーダー | |

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	自主防災組織づくり	避難行動要支援者の作成	地域での定期的な避難訓練や勉強会の実施	地域の施設や事業者との連携	その他	無回答
全 体	1,118	37.9	36.7	25.9	39.3	1.5	7.3
18～29歳	97	26.8	38.1	22.7	48.5	4.1	4.1
30～39歳	133	36.8	33.1	26.3	49.6	3.8	2.3
40～49歳	169	33.7	34.9	30.2	44.4	0.6	4.7
50～59歳	196	37.8	39.8	23.0	39.8	2.6	5.6
60～69歳	217	44.2	32.7	28.1	38.2	0.0	6.5
70歳以上	291	40.2	38.8	24.4	28.5	0.7	14.1

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	自主防災組織づくり	避難行動要支援者の作成	地域での定期的な避難訓練や勉強会の実施	地域の施設や事業者との連携	その他	無回答
全 体	1,118	37.9	36.7	25.9	39.3	1.5	7.3
七 宝	281	39.1	36.3	25.6	34.5	1.4	7.5
美 和	329	39.2	35.6	28.6	38.6	0.9	6.7
甚 目 寺	432	37.0	36.8	23.8	41.9	2.3	7.6

7 再犯防止について

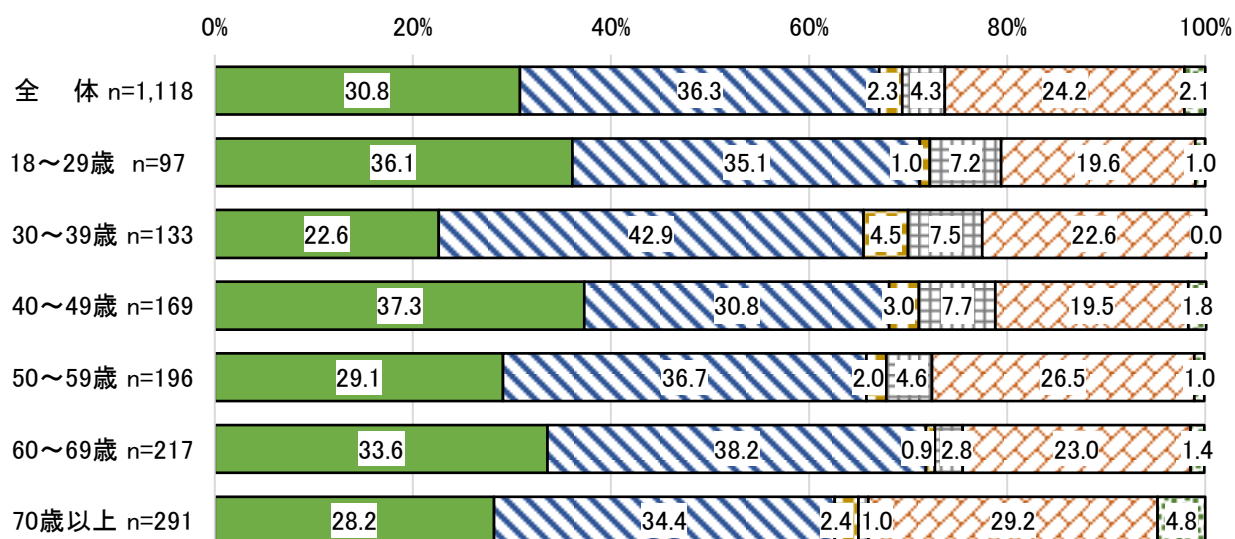
問 33 あなたは、過去に罪を犯した人の立ち直り支援について、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

過去に罪を犯した人の立ち直り支援について、「必要である」と「どちらかといえば必要である」を合わせた『必要である』が67.1%、「どちらかといえば必要ではない」と「必要ではない」を合わせた『必要ではない』が6.6%となっています。

年齢別にみると、30～39歳で『必要ではない』が他の年齢に比べてやや高くなっています。
地区別にみると、甚目寺地区で『必要である』が他の地区に比べてやや高くなっています。

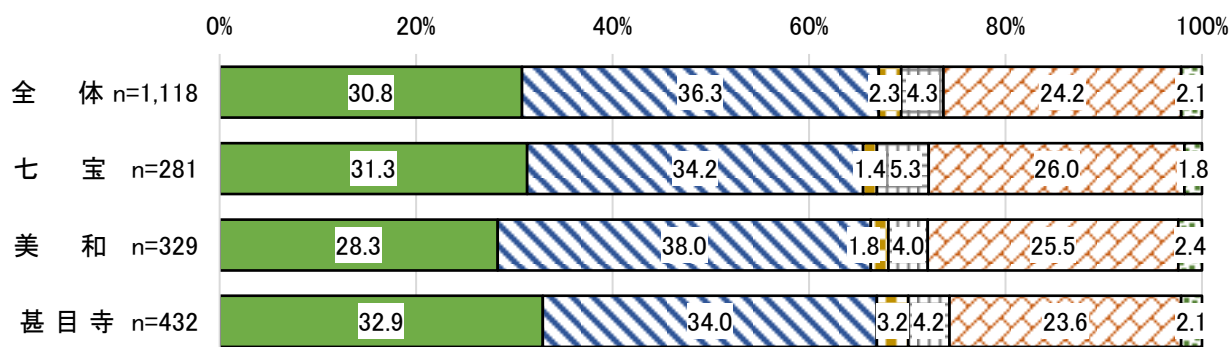
【 年齢別 】

■ 必要である ■ どちらかといえば必要である ■ どちらかといえば必要ではない
▨ 必要ではない ▨ わからない ▨ 無回答



【 地区別 】

■ 必要である ■ どちらかといえば必要である ■ どちらかといえば必要ではない
▨ 必要ではない ▨ わからない ▨ 無回答

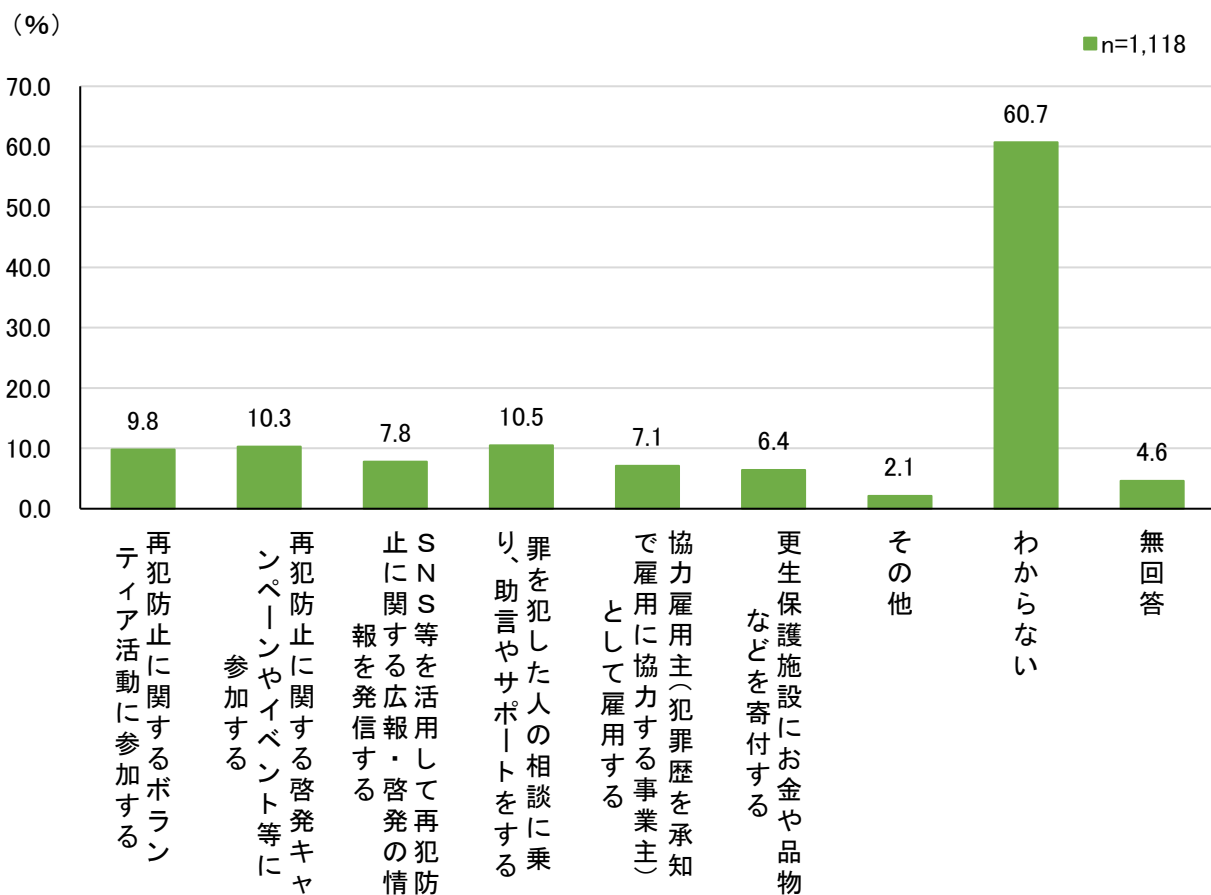


問 34 再犯防止を進めるために、あなたはどのような協力ができると思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

再犯防止を進めるために、どのような協力ができるかについて、「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」が10.5%、「再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する」が10.3%、「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が9.8%となっています。また、「わからない」が60.7%となっています。

年齢別にみると、18～29歳では「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」、30～39歳では「SNS等を活用して再犯防止に関する広報・啓発の情報を発信する」「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」、40～49歳では「SNS等を活用して再犯防止に関する広報・啓発の情報を発信する」、50～59歳では「再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する」が、60～69歳では「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」、70歳以上では「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」「再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する」「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」が、「わからない」を除きそれぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区地区では「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」と「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」、美和地区では「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」、甚目寺地区では「再犯防止に関するボランティア活動に参加する」が、「わからない」を除きそれぞれ高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

<ul style="list-style-type: none"> ・ どういう人でも働ける、過ごせる環境づくり ・ カウンセリング ・ 可能な限りの観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そもそも犯罪の未然防止が必要、幼保の義務教育からの法教育が大切！！なので啓発活動がいる。 ・ 再犯に対する厳罰化の署名活動
---	--

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	ボランティアに参加する	再犯防止に関する	啓発イベント等に参加する	再犯防止に関する	再発防止の情報を発信する	SNS等を活用して	乗る、助言やサポートに	罪を犯した人の相談に	事業主として雇用する	協力で雇用主（犯罪歴を	承知で雇用し協力する	品物などを寄付する	更生保護施設にお金や	その他	わからない	無回答				
全体	1,118	9.8	10.3	7.8	10.5	7.1	6.4	2.1	60.7	4.6	18~29歳	97	10.3	7.2	17.5	21.6	12.4	6.2	4.1	49.5	2.1
30~39歳	133	9.8	10.5	12.8	12.8	6.8	10.5	3.8	60.2	1.5	40~49歳	169	11.8	10.7	13.0	11.8	9.5	3.6	1.8	58.6	2.4
50~59歳	196	5.6	13.8	4.1	8.2	5.6	5.6	1.0	70.4	1.5	60~69歳	217	13.4	10.1	6.9	7.4	8.8	6.9	1.8	58.5	4.1
70歳以上	291	8.6	8.6	2.4	8.6	3.1	6.2	1.4	63.6	9.6											

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	ボランティアに参加する	再犯防止に関する	啓発イベント等に参加する	再犯防止に関する	再発防止の情報を発信する	SNS等を活用して	乗る、助言やサポートに	罪を犯した人の相談に	事業主として雇用する	協力で雇用主（犯罪歴を	承知で雇用し協力する	品物などを寄付する	更生保護施設にお金や	その他	わからない	無回答				
全体	1,118	9.8	10.3	7.8	10.5	7.1	6.4	2.1	60.7	4.6	七宝	281	9.6	11.0	6.0	11.0	7.5	5.0	3.6	61.2	3.6
美和	329	7.6	10.0	6.7	10.3	7.0	8.5	1.5	59.3	5.5	甚目寺	432	11.1	9.7	8.8	10.2	6.7	6.0	1.6	61.8	4.9

8 成年後見制度について

問 35 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

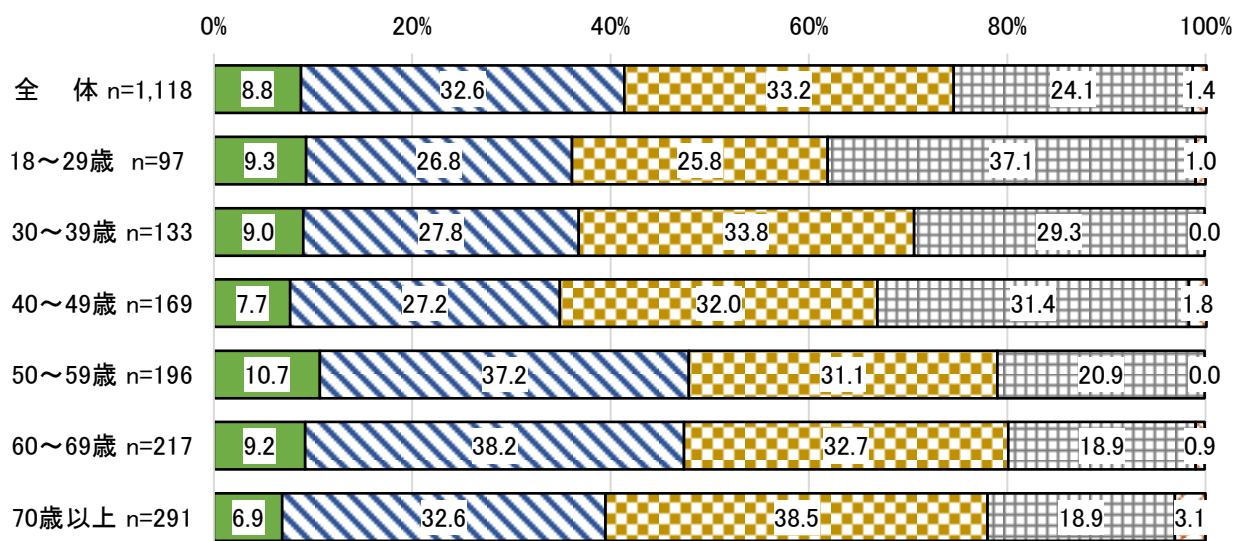
成年後見制度について、「聞いたことはあるが内容は知らない」が33.2%、「少し知っている」が32.6%、「全く知らない」が24.1%、「よく知っている」が8.8%となっています。

年齢別にみると、18～29歳で「全く知らない」が他の年齢に比べて高くなっています。

地区別にみると、甚目寺地区で「全く知らない」が他の地区に比べて高くなっています。

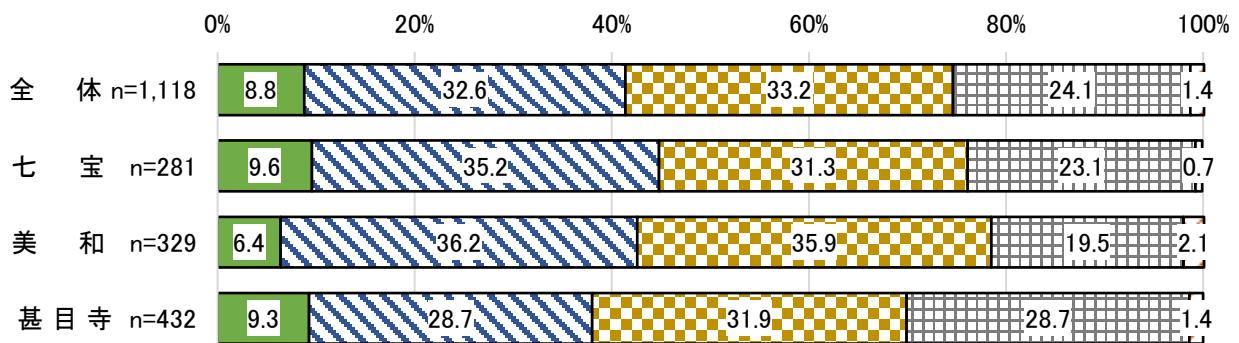
【 年齢別 】

■ よく知っている ■ 少し知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 全く知らない ■ 無回答



【 地区別 】

■ よく知っている ■ 少し知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 全く知らない ■ 無回答



問 36 あなた自身や親族が、認知症などにより判断が十分にできなくなった場合、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(〇は1つだけ)

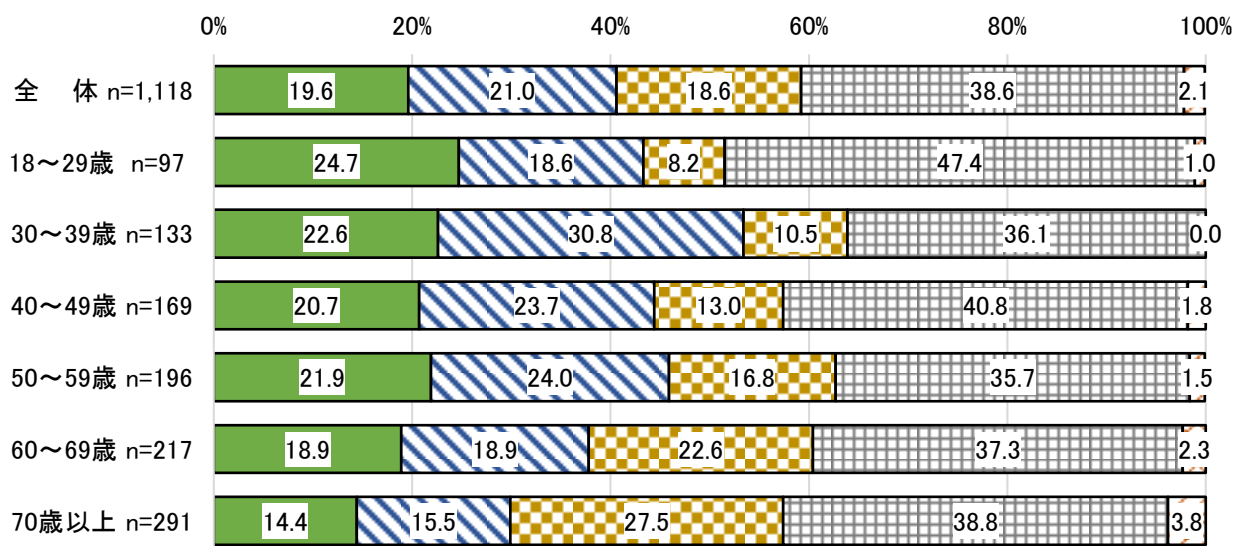
自分自身や親族が、認知症などにより判断が十分にできなくなった場合、「成年後見制度」を利用したいと思うかについて、「利用したい」が19.6%、「利用したいが手続きを知らない」が21.0%、「利用しない(したくない)」が18.6%、「わからない」が38.6%となっています。

年齢別にみると、30～39歳で「利用したいが手続きを知らない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、七宝地区で「利用したい」が他の地区に比べて高くなっています。

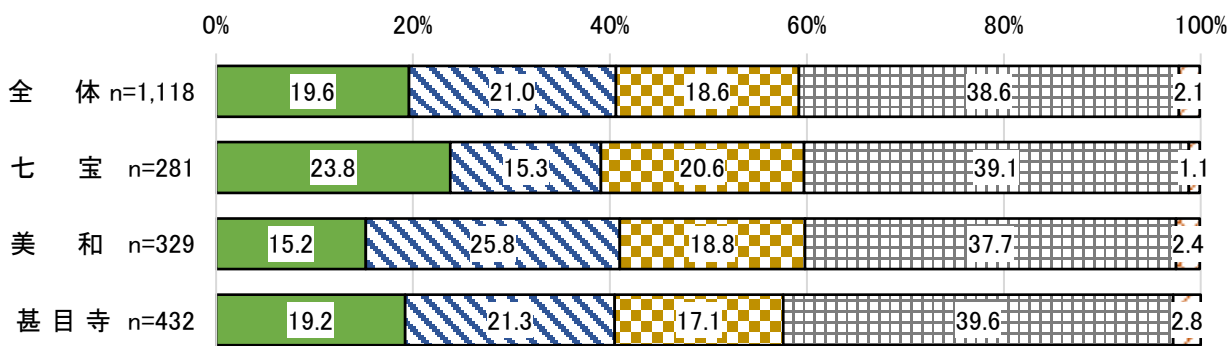
【 年齢別 】

■ 利用したい ■ 利用したいが手続きを知らない ■ 利用しない(したくない) ■ わからない ■ 無回答



【 地区別 】

■ 利用したい ■ 利用したいが手続きを知らない ■ 利用しない(したくない) ■ わからない ■ 無回答



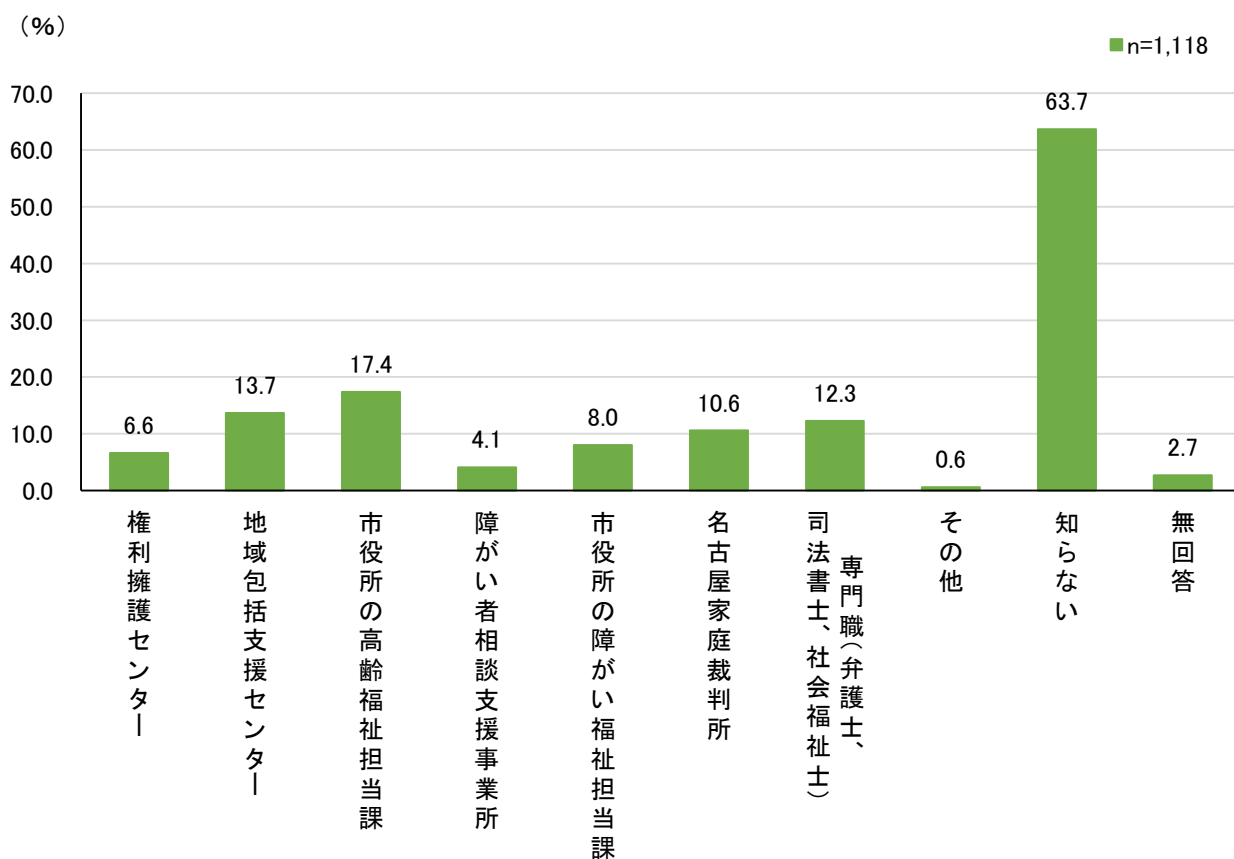
問 37 成年後見制度について相談できる機関を知っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

成年後見制度について相談できる機関を知っているかについて、「市役所の高齢福祉担当課」が 17.4%、「地域包括支援センター」が 13.7%、「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）」が 12.3%、「名古屋家庭裁判所」が 10.6%となっています。また、「知らない」が 63.7%となっています。

年齢別にみると、18～29 歳では「地域包括支援センター」、30～49 歳及び 60 歳以上では「市役所の高齢福祉担当課」、50～59 歳では「地域包括支援センター」と「専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）」が、「知らない」を除きそれぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「市役所の高齢福祉担当課」が「知らない」を除き高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・ 社会福祉協議会
- ・ 法テラス
- ・ 民生委員

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	権利擁護センター	地域包括支援センター	市役所の高齢福祉担当課	障がい者相談支援事業所	市役所の障がい福祉担当課	名古屋家庭裁判所	専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）	その他	知らない	無回答
全 体	1,118	6.6	13.7	17.4	4.1	8.0	10.6	12.3	0.6	63.7	2.7
18～29歳	97	4.1	13.4	12.4	5.2	9.3	6.2	10.3	1.0	73.2	1.0
30～39歳	133	3.8	11.3	12.8	6.0	9.0	6.8	11.3	0.0	76.7	0.0
40～49歳	169	3.0	10.1	15.4	3.0	6.5	8.9	8.3	0.0	72.8	1.8
50～59歳	196	7.7	13.8	12.2	3.1	6.6	9.2	13.8	1.0	65.3	2.0
60～69歳	217	8.8	15.7	18.9	4.1	8.3	13.4	14.7	0.9	61.3	1.4
70歳以上	291	8.9	16.2	25.8	4.5	8.6	14.1	13.4	0.3	49.5	6.2

【 地区別 】

(%)

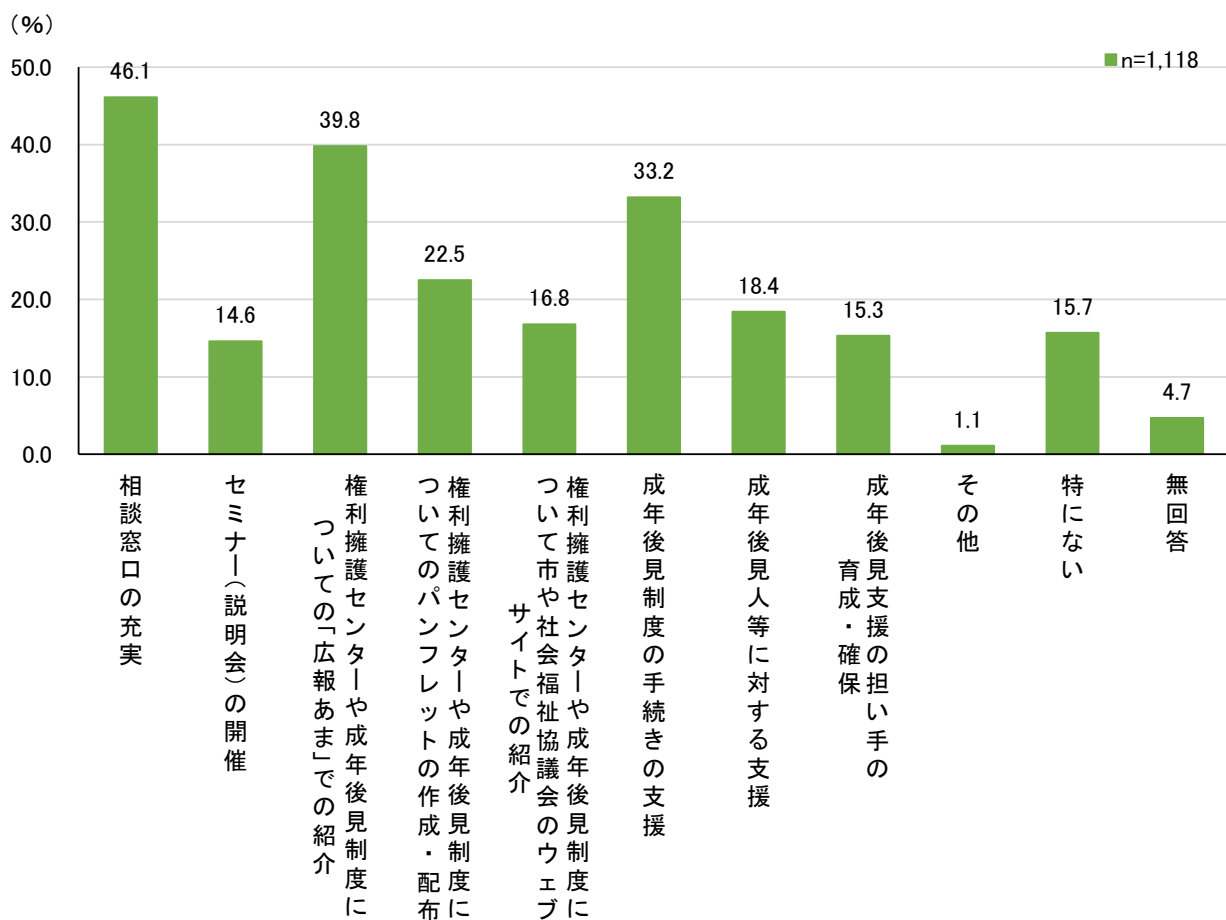
	調査数（人）	権利擁護センター	地域包括支援センター	市役所の高齢福祉担当課	障がい者相談支援事業所	市役所の障がい福祉担当課	名古屋家庭裁判所	専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）	その他	知らない	無回答
全 体	1,118	6.6	13.7	17.4	4.1	8.0	10.6	12.3	0.6	63.7	2.7
七 宝	281	7.5	14.6	15.3	2.8	7.1	14.6	12.8	0.4	61.9	1.8
美 和	329	5.2	14.3	19.1	5.5	9.1	8.8	12.8	0.3	64.7	3.0
甚 目 寺	432	7.2	12.7	18.1	3.2	7.2	9.7	12.0	0.9	63.4	3.0

問 38 あま市では、令和3年4月1日に成年後見制度について専門的に相談できる「権利擁護センター」を開設しています。「権利擁護センター」に期待することは何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

「権利擁護センター」に期待することについて、「相談窓口の充実」が46.1%と最も高く、次いで「権利擁護センターや成年後見制度についての「広報あま」での紹介」が39.8%、「成年後見制度の手続きの支援」が33.2%となっています。

年齢別にみると、18～29歳及び40～69歳では「相談窓口の充実」、30～39歳では「相談窓口の充実」と「成年後見制度の手続きの支援」、70歳以上では「相談窓口の充実」と「権利擁護センターや成年後見制度についての「広報あま」での紹介」が、それぞれ最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「相談窓口の充実」が最も高くなっています。



【 その他の回答 (抜粋) 】

- ・申請を待つ行政から、申請を進める行政への積極化を望む
- ・この制度の周知
- ・制度には賛成ですが人選について、どの様に信用するのか、迷っている
- ・担い手の資質等の基準作り
- ・SNSでの紹介

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	相談窓口の充実	セミナー（説明会）の開催	「後見制度にあま」での紹介	権利擁護センターや成年後見制度の作成・配布	権利擁護センターや成年後見制度について市や社会福祉協議会のウェブサイトで紹介	成年後見制度の手続きの支援	成年後見人等に対する支援	成年後見支援の担い手の育成・確保	その他	特にない	無回答
全 体	1,118	46.1	14.6	39.8	22.5	16.8	33.2	18.4	15.3	1.1	15.7	4.7
18～29歳	97	47.4	15.5	33.0	18.6	20.6	40.2	26.8	13.4	0.0	27.8	2.1
30～39歳	133	42.1	11.3	37.6	15.8	25.6	42.1	27.1	18.8	2.3	16.5	0.0
40～49歳	169	48.5	15.4	34.9	16.0	18.3	39.1	26.6	15.4	0.6	16.6	2.4
50～59歳	196	50.5	15.3	42.3	20.9	23.5	38.8	18.9	19.9	0.0	12.2	4.6
60～69歳	217	48.8	14.7	44.7	27.2	15.2	27.6	16.1	16.1	0.9	14.7	3.2
70歳以上	291	41.2	15.1	41.2	28.9	7.9	24.1	8.2	10.0	1.7	14.4	10.0

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	相談窓口の充実	セミナー（説明会）の開催	「後見制度にあま」での紹介	権利擁護センターや成年後見制度の作成・配布	権利擁護センターや成年後見制度について市や社会福祉協議会のウェブサイトで紹介	成年後見制度の手続きの支援	成年後見人等に対する支援	成年後見支援の担い手の育成・確保	その他	特にない	無回答
全 体	1,118	46.1	14.6	39.8	22.5	16.8	33.2	18.4	15.3	1.1	15.7	4.7
七 宝	281	47.3	16.0	40.6	25.3	18.1	34.9	19.2	13.2	1.1	15.3	3.6
美 和	329	45.9	14.0	40.1	24.3	18.2	31.6	18.8	17.6	0.9	17.3	4.6
甚 目 寺	432	44.2	14.1	39.4	20.6	15.3	33.3	16.7	14.8	0.9	16.2	5.1

9 市の福祉施策等について

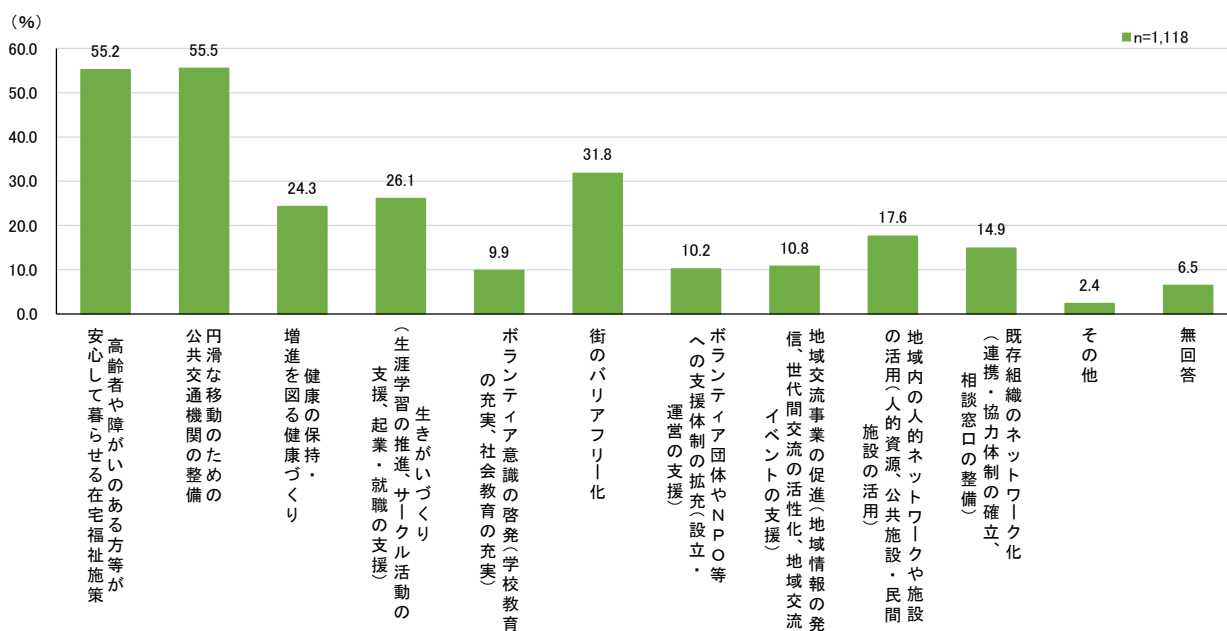
問 39 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。

(〇は5つまで)

市として特に力を入れて取り組むべき福祉施策について、「円滑な移動のための公共交通機関の整備」が 55.5%と最も高く、次いで「高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策」が 55.2%、「街のバリアフリー化」が 31.8%、「生きがいつくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援）」が 26.1%、「健康の保持・増進を図る健康づくり」が 24.3%、となっています。

年齢別にみると、18～49 歳では「円滑な移動のための公共交通機関の整備」、50 歳以上では「高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、七宝地区、甚目寺地区では「円滑な移動のための公共交通機関の整備」、美和地区では「高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策」が、それぞれ高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・必要とする人に確実にわかりやすく届く情報提供とその手段
- ・10代～30代への情報発信、福祉をわかっていない人が多いと思う。
- ・不妊治療、出産、子育てへの助成、支援
- ・医療ケア児の親達のつながり
- ・道路整備を疎かにしすぎです。渋滞対策や理解できない道路表示
- ・子育て、高齢者、障がい者等の一体化した相談窓口、包括的支援
- ・支援センター、児童館の物品の充実

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者や障がいのある方が安心して暮らせる在宅福祉施策	円滑な移動のための公共交通機関の整備	健康の保持・増進を図る健康づくり	生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援）	ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）	街のバリアフリー化	ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援）	地域交流イベントの支援	地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）	施設・民間施設の活用	地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）	既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）	その他	無回答
全 体	1,118	55.2	55.5	24.3	26.1	9.9	31.8	10.2	10.8	17.6	14.9	14.9	2.4	6.5	
18～29歳	97	40.2	50.5	17.5	23.7	13.4	48.5	12.4	11.3	22.7	16.5	16.5	2.1	6.2	
30～39歳	133	41.4	59.4	23.3	25.6	15.0	39.1	13.5	11.3	18.0	17.3	17.3	7.5	0.8	
40～49歳	169	46.7	58.6	19.5	30.8	10.7	36.1	12.4	13.0	14.8	18.9	18.9	2.4	2.4	
50～59歳	196	62.2	51.5	19.4	28.1	9.7	27.6	7.1	10.2	22.4	17.9	17.9	2.0	5.1	
60～69歳	217	59.4	58.1	25.8	31.3	10.1	26.3	12.0	12.9	18.4	17.1	17.1	1.4	5.5	
70歳以上	291	63.9	55.7	32.6	18.9	5.8	27.8	7.2	7.9	13.7	8.2	8.2	0.7	12.7	

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者や障がいのある方が安心して暮らせる在宅福祉施策	円滑な移動のための公共交通機関の整備	健康の保持・増進を図る健康づくり	生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援）	ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）	街のバリアフリー化	ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援）	地域交流イベントの支援	地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）	施設・民間施設の活用	地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源・公共施設・民間施設の活用）	既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）	その他	無回答
全 体	1,118	55.2	55.5	24.3	26.1	9.9	31.8	10.2	10.8	17.6	14.9	14.9	2.4	6.5	
七 宝	281	55.9	56.6	23.5	22.4	9.3	27.8	12.5	10.3	15.3	13.5	13.5	2.5	8.5	
美 和	329	55.3	54.1	25.8	27.1	9.7	34.7	7.6	13.1	17.6	15.2	15.2	1.2	6.1	
甚 目 寺	432	53.0	56.7	22.0	27.8	11.3	32.4	10.6	10.9	18.8	15.5	15.5	3.2	4.9	

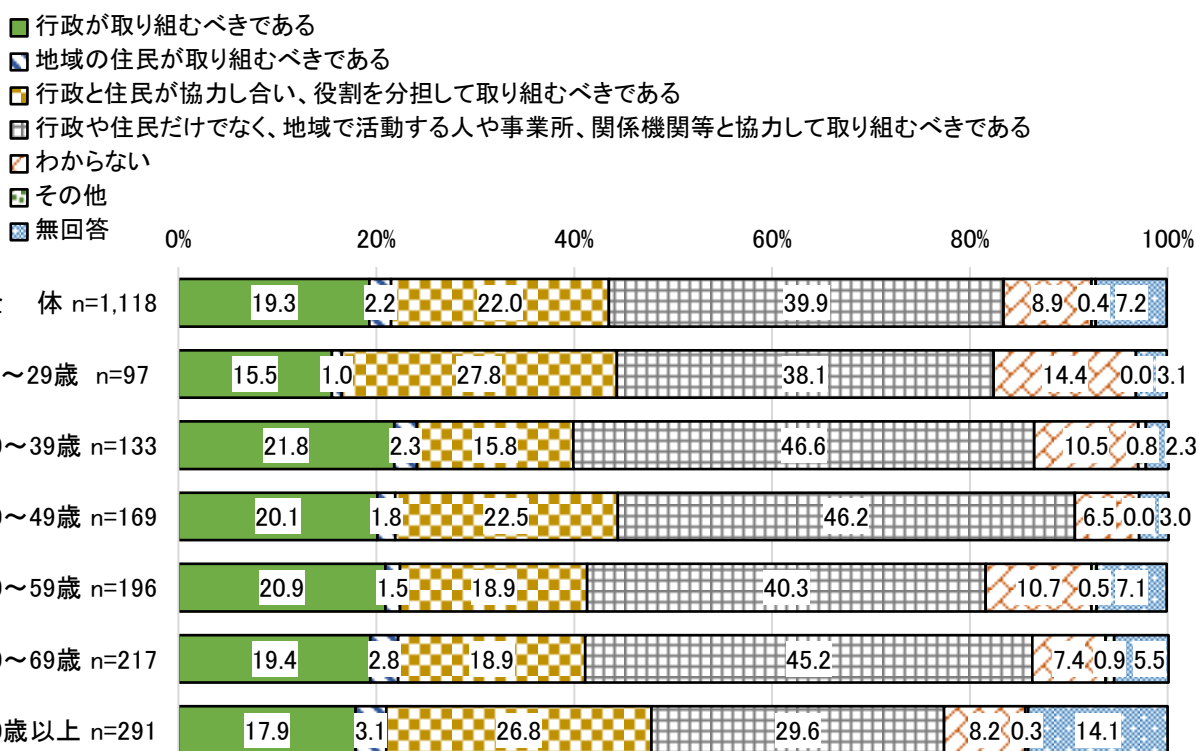
問 40 地域福祉を進めるにあたって、地域の課題を解決する方法についてあなたのお考えに最も近いものはどれですか。(〇は1つだけ)

地域福祉を進めるにあたって、地域の課題を解決する方法について、「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が39.9%と最も高く、次いで「行政と住民が協力し合い、役割を分担して取り組むべきである」が22.0%、「行政が取り組むべきである」が19.3%となっています。

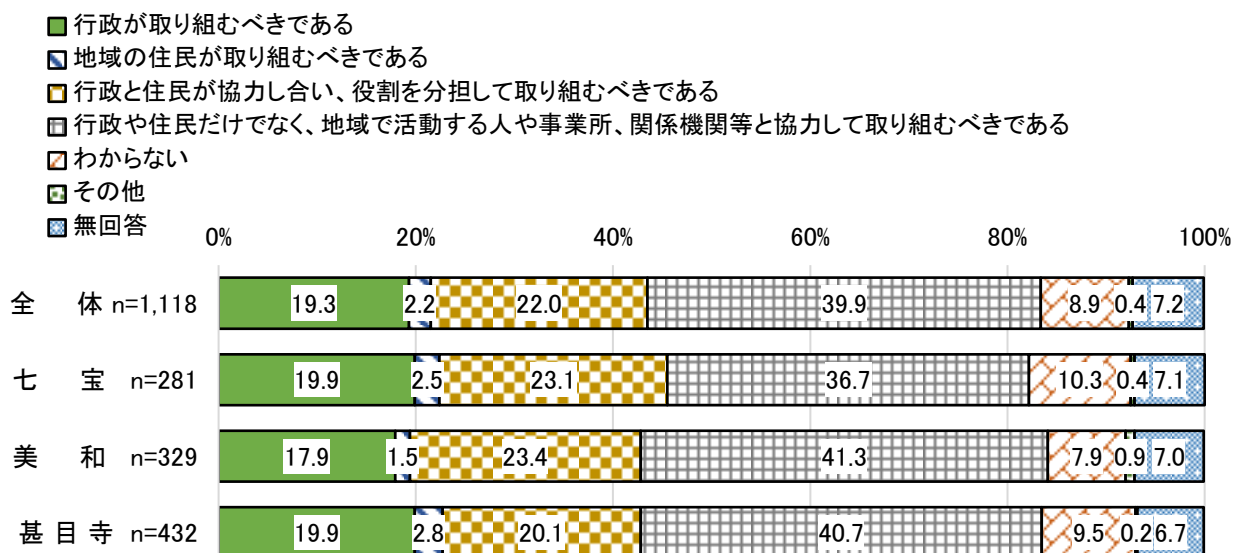
年齢別にみると、いずれの年齢も「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が最も高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】



問 41 市の地域福祉施策について、日頃感じていることや困っていること、ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

◆地域福祉全般

自由記述	性別	年齢
いままでは地域福祉について日頃あまり興味をもっていなかったがこれからは地域の情報を得る様に常に興味をもって行動していきたいと思う。	男性	70 歳以上
なかなか気軽に挨拶ができない時世になっているので、行政から率先して活動できる様、支援があれば良いと思う。	女性	30～39 歳
地区によって差を感じることもある。ある地区だけ良くてある地区が悪いということもある。行政として、どの地区に住んでいても同じサービスを受けられたらと思います。	男性	30～39 歳
地域の会合やイベントへの参加を何回か行いましたが、70代や80代の方が多く、これから担っていく60代以下の参加が少ないように感じました。どういった理由があって参加されてないのかは分かりませんが、数年経つと地域活動が成り立たなくなることを恐れています。月1回の廃品回収も80代の方が運転、回収されており、事故等起きないか心配する時もあります。全員で助け合うことが大事かと思しますので、意識し、活動につなげるよう、支援頂きたいと考えます。	男性	40～49 歳
福祉に対して全く興味を持っていませんでした。近所の住民の高齢化に伴い（自分の親も含めて）無関心ではいられないと感じています。困ってからではアクションが遅れてしまう為、はじめの一步が大事だと思います。きっかけを探していますが、機会があれば幸いです。	女性	50～59 歳
高令者・障がい者福祉等は、国・県の施策があり、各自治体はその担い手となっている。又、市がそれらの施策以外にも独自の施策展開しているが、あれもこれもではなく、よく考えるべき。担い手となる、公務員、協力するボランティアの負担には、限界がある。	男性	60～69 歳
見回り強化するべき。	無回答	無回答
地域での活動に誰もが参加しやすい雰囲気づくりができる人物的に優れたリーダーが必要。長年あま市にお住まいの方とのへだたりが、未だにあるように感じ、新参者にとっては、我が町あま市との気持ちになりにくい。不登校、引きこもり成人発達障害への支援の充実をお願いします！学校、地域福祉共に対応が不十分だと感じます。私のまわりでもおこまりの方が多く、相談先もなく、一人のかかえこまれている方が散見できます。	女性	40～49 歳
コロナで子どもが安心して人と触れ合える機会や場所が減っているのではないかと思う。（もちろん子どもだけでなく、お年寄りも）場所、機会、きっかけづくりをしてもらえたら嬉しいです。	女性	30～39 歳

自由記述	性別	年齢
<p>私自身小学生の頃からヤングケアラーで姉と協力して母を介護してきました。この問題はどこに相談したらいいかわからないと言ったところ、そして相談した所で明確な援助制度がない事が問題であると思います。まずはヤングケアラーの認知度を高め、わかりやすい相談・援助窓口ができる事がとても大切であると思います。また、最近認知度が上がってきたヤングケアラーですが、ヤングケアラーの子供が成人した所は全然スポットが当たっていません。成人しても介護は続いていくわけでそこから仕事介護の両立が始まり社会のサポートなしでは仕事が続けられません。是非、子供の時だけではなく大人になっても介護は続いていく。社会のサポートは非常に重要という事を覚えておいてもらいたいです。</p>	男性	18～29歳

◆高齢福祉

自由記述	性別	年齢
<p>近隣の人が介護保険でデイサービスを利用したもののつまらないと聞いたことがあります。デイサービス事業所の充実をお願いします。</p>	女性	60～69歳
<p>現在住んでいる地域は高齢者の方が多く、近くにスーパーもコンビニもないので、車の運転ができるうちはいいのですが、20年30年後を考えるとずっと住むには不便を感じています。ゴミも集積所まで足をひきずって持っていく人もいます。高齢者でも住みやすくしてもらえたらいいなと思っています。</p>	女性	50～59歳
<p>介護保険を使用してもデイサービス金額が月額になると高く感じ、その補助金制度を作ってほしい。被介護者はお金がないし、遠慮しがちになり、引きこもりがちになるので補助金制度を作って十分介護ができるようにしてほしい。</p>	男性	60～69歳
<p>市の独居老人に対する対応はすばらしい物があるのですが、本来サービスを受ける側の理解がとぼしく、認知の酷い人が、使う所という風に思われています。もっとデイサービスなど予防的に利用する所という認識を広められれば良いと思います。現在夫婦共働きで、家に誰もいない家が増えています。政府の方針としても、老若男女、働ける人は働く事を進めている様です。地域の住民の交流や協力など求めているし、住民も協力などする気がなく、しかたなくやっている人ばかりです。役員にさせられ、やらされている貧乏クジのハズレ的な物になっています。</p>	男性	50～59歳
<p>福祉施設（老人）の相談事や斡旋、紹介、連絡くださると助かります。</p>	男性	70歳以上
<p>後期高齢者の年1回の健康診査の健診内容に認知症健診の項目を増やしてほしい。（基本の健診内容にする）</p>	女性	50～59歳

自由記述	性別	年齢
<p>老人単独家庭だと、家の修理、メンテ、大小の契約まで、不利に進められ、あくどい業者の餌食と言っても過言ではありません。そんな高齢者のために、安心して、頼める町での推選認可されている制度が必要です。あるいは苦情の多い業者のリストを請求すれば判る様なくみ、又、オンライン契約トラブルのサポートもあれば大変助かります。（契約は簡単にできるのに解約は、非常に面倒な事が多く、高齢者をねらう詐欺まがいの業者が多いです。）</p>	女性	70歳以上
<p>高齢者は、とにかく外へ出歩くことが大事だと思う。健康保持に役立ち医療費の削減にもなると思う。各地域にあるいきいきサロン、とてもいいなと思って、コロナ前に行ったことがある。何か気になることがあってちがうところ1回ずつ3ヶ所行ったけど、結局行くのをやめてしまった。人によってはいいなと思うことや好みもちがうのでむずかしいけど、どこか高齢者が気楽に行ける場所がほしいと思う。くつを上げきにはきかえない所がいい。おかしやお茶、コーヒーはいらないから「健康マイレージ」のように何回かいくと何かもらえるしくみがいい。月に1回では健康保持にはたりないので週1回ぐらい気楽に行けるといい。とにかく出歩くことを最重要にしたものもいい。何かを作ったり見たりする楽しみもいいけど、出歩くということが大事という意識を高齢者ももちたいと思う。</p>	女性	70歳以上
<p>高令者世帯や老々介護の方が、どこに何を相談するか知らないで、大変な生活をしている方々がいます。市で、アピールしてほしい。特に介護認定を受ける程ではない高令者にとって、憩いの場や能力を発揮できる場が増えてほしいと思います。共働きも増え、子供同志と高令者が気軽に居られる施設があれば、両方にとってよい影響があると思うので、既存の施設でも民間の営業所であっても、そのような場を多くつくってほしい。</p>	女性	50～59歳

◆障がい福祉

自由記述	性別	年齢
<p>子供への支援不足を感じる。障害がある子供を育てているが、療育施設と保育園（認可）を併用しているので保育園の給食費が月額で請求がくる。元々何曜日は療育施設に預けると決まっているので日数計算にしてほしい。約1週間程度しか保育園に行っていないのに1か月分の給食費の発生はおかしいと思います。</p>	女性	30～39歳

◆児童福祉・子育て支援

自由記述	性別	年齢
<p>共働きの家庭だけでなく、働いていないお母さんも助けられるような週5日の放課後子ども教室が必要だと思います。聞いたところによると国が1/3を負担、都道府県が1/3負担、市町村が1/3を負担すればいいとのことですね。国は「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」を一体的あるいは連携して実施するように推奨しているそうですね。今や少子化問題はお父さんお母さんの問題ではなく、全世代の問題だと思います。どうか、どうか子育てしやすいあま市にしてあげてください。</p>	女性	40～49歳
<p>帯状疱疹、予防接種の助成をお願いしたい。幼稚園や小学校で明らかに虐待と思われる子どもを見かけるが、数年たっても変化がみられない、どころか悪化している様子。関係機関との協力がうまくいっていない表れではないか。市内で福祉が必要とされる方をおみかけする機会がないのは、皆さん福祉が充実している名古屋に移住されているのでしょうか。あま市も手厚い支援がなされない場合は自分も移住を検討しようと思っています。</p>	無回答	50～59歳
<p>愛西市や津島市では、給食費無料の取り組みがあるのであま市でも行ってほしいです。これからもあま市で子育てしていきたいと思っています。いつも、より良い地域作りのために、このようなアンケートの実施や様々な取り組みをありがとうございます。</p>	女性	30～39歳
<p>子供が3人ほしいのですがお金のことを考えると1人がげんかいです。子供を安心して3人うめるような支援や制度がほしいです。子供が増えたら若い人が増えて納税者もふえて地域が活せいかすることまちがいなしだと思います。子育てに力をいれたら若い人の住みたい町になるのでいっぱいうつり住んできてよいと思います。高齢者へのしえんも必要だとは思いますが、もっと子供達へのしえんをして未来のある町づくりをよろしくおねがいます。</p>	女性	18～29歳
<p>コロナ禍で子どもの検診の日時が変更になったときに保健センターからの通知がとても遅くこちらから確認しました。予定もあるのでわかっていることは素速く連絡いただけるとよいと思いました。子育てしづらい市だと痛感しました。年少でも育休中は保育園には入れないことにおどろきました。他の市町村は入れるのになぜあま市は…と思うとやはり子育て世代が増えてきているのに特に対策していないのだなと感じます。がっかりです。保育園の一時預かりの人数も3名と少ないので、働いていて幼稚園しか入れなくて…という家庭はどうすればよいのか？窓口いきいても話は聞いて下さいますが具体的な解決策はなく残念でした。現在、新しい家がどんどん建っていますが、今後子どもが増えるのに枠がない…とならないような具体的な策（保育園や預かりの人数の増員にともなって先生の増員など）はもう話し合われているのでしょうか？早め早めにぜひご検討お願いします。</p>	女性	30～39歳

自由記述	性別	年齢
小学生の子を持つ親からの意見ですが、通学路の安全性の見直しを強く願います。	男性	30～39歳
小学生の子どもがおり、現在児童クラブを利用しています。児童クラブの指導員の方に、問題があるように思います。子どもを安心して預けることができず、不安を感じていますが、仕事をしているので、預けざる負えない現状です。具体的には暴言を吐いたり、いうことをきかないからという理由で押しついたり、引っ張られたりするそうです。うちは中央児童クラブを利用していますが、西児童クラブや北児童クラブに子どもを預けているお母さんからも不安の声をききます。何度か相談されたお母様方もおられるようですが、やはり改善は難しいのでしょうか？安心して、子どもを預けられる環境をつくっていただきたいです。大きな問題になる前に、防犯カメラを設置したり、市の役員の方に見張りに行っていたりなど、対策を希望します。よろしくをお願いします。	女性	30～39歳

◆情報公開・周知・広報

自由記述	性別	年齢
こういうアンケートにて初めて知る内容もあり、また私たちのような世代では知ること自体ないので広報活動というか知る機会があればいいなと思います。	女性	18～29歳
地域福祉に取り組んでいる事すら伝ってこない。（年に一回広報に赤い羽の募金活動している事だけではそれしかやってないのか？という疑問だけがある）	女性	50～59歳
私が以前まで住んでいた所に比べるとあま市の高齢の人たちの健康意識は低いように思われます。日頃から情報共有や発信することで健康年齢が伸びることを祈っています。	女性	30～39歳
独居老人の方が多くいらっしゃると思います。色々な情報を丁寧に分かりやすく伝えてもらえると良いです。ネット環境のない家もあります。全てを当たり前とひとくくりにしないで、それぞれの家庭を見守ってもらえることを望みます。	女性	18～29歳
施策の内容を理解しておりません。積極的なPRをお願いします。	男性	30～39歳
健康状態を相談したいので健康診断の健診時相談の”有”を希望しますが無視されてしまいます。どこへ相談すればよろしいのでしょうか？（開業医で行いました。）指導願います。あま市民病院の診察・活動内容がわかりません。建物の存在はわかりますが、気楽に通院できるよう、広報活動をお願いします。	男性	70歳以上
福祉施策をあまり知らないなので、もう少しアピールして広めていただきたい。	男性	60～69歳

自由記述	性別	年齢
どこへ行けばどのようなことができるのかわかりやすい情報がいただけると助かります。	女性	18～29 歳
身近に感じる機会がないため、家族も含めて、よく分からない…というのが正直な感想です。知る機会が増えるような、PR活動が必要だと思います。	女性	50～59 歳

◆道路の整備

自由記述	性別	年齢
腰がまがったおばあさんが、おじいさんを車いすに乗せて、散歩？している姿が良く見かけられます。車道を渡る時など、車が止まってくれないので、あぶなっかしく思っています。	女性	50～59 歳
歩道が狭すぎるので、私たち若者でも危険を感じる事が多い。それ以上に、高齢者の方は感じると思うので、歩行者が歩きやすい道幅の確保をした方がいい。甚目寺駅の裏道は暗いため、外灯を増やしてほしい。	女性	30～39 歳
障がい児や医療ケア児に対するサポートが他縣市より弱い気がする。そういった子に対する園も。子どもを育てるにあたり、道が細くて通れない（ベビーカー使用時）など交通量があるわりに歩行者があぶない道が多く感じる。夏に利用できる市民プールであったり、子どもがのびのび遊べる施設が少なく、他市に行くことが多いので、もっとファミリーに優しい町になって欲しい。	女性	30～39 歳
地域福祉施策とは関係しないことかもしれませんが道路の整備に力を入れてほしい。道幅が狭い（歩道が無い）ため、また、見通しが悪すぎる場所があるため轢きそうになったりした場面が多い。	男性	18～29 歳
事故防止のための道路整備。	男性	40～49 歳
公道の雑草刈取の頻度を増やして欲しいです。雑草が生い茂るとゴミのポイ捨てが増え、ゴミが増えると犯罪率が高まります。（割れ窓理論） 甚目寺松山（ファミリーマート八尻店の近く）で複数年に渡って新しい道路をつくっているようですが、なぜあの規模で一度にやりきらないのでしょうか。重機回送費が増え、スケールメリットの面でデメリットしかないように思います。	女性	18～29 歳
歩道の整備をして欲しい。新しい住民も増えて行くと思うので、せめて小学生の通学路だけでも歩道を付けて欲しい。高齢者の自転車マナーの向上を指導して欲しい。	女性	30～39 歳

自由記述	性別	年齢
歩道がでこぼこしている所があり、よく子どもがつまづいたりすることがあるので、歩道の整備をお願いしたいです。足があがりにくいお年寄りの方に安全になると思います。通学路の安全確保。裏道を利用してくる車のスピードが早いので登下校時あぶないので何か対策してほしいです。死角になりやすい場所も。福田川のフェンスがななめになっていたり古くて怖い。子どもの事故が近年目立つので、安全対策、老朽化対策の徹底をお願いしたいです。	女性	30～39 歳
道路を広くして下さい。散歩している人がいると危険！	男性	18～29 歳
車いすや杖で外出するとき、道路の溝蓋、側溝が壊れていたら気をつけて通っています。	男性	40～49 歳
歩道の整備をして欲しいです。車イス移動が歩道では細かったり、斜面があったりで、歩道を使う事が困難な所ばかりでそうすると、車イスの人は、外出が少なくなって、家から出なくなってしまうので、車イスだけではなく、足が悪く歩行不安定な人やベビーカー等あらゆる人が通りやすい歩道があればいいなと思います。	女性	40～49 歳
朝の通勤、通学時間の車の交通量が多く、自転車&歩行者が危ないと感じる場面をよく見かけます。通勤、通学時間は一方通行する等対策を取って頂きたいです。	女性	40～49 歳
どういうアンケートだったか、記憶がありませんが、木田駅周辺を良くしようという事で、木田駅北の道路で側溝のフタが15cm位空があり、時々しか通らないが、すきまをなくして欲しいと希望したら現在は修理してあるので安心して、通行することが出来希望がかないうれしく思っています。今は、腰の骨折で自由に身動きできませんが、良くなったら、保健センターまで行けたら体操教室があれば参加して、元気になりたい。何よりも自分の足で、自由に動きたい高令者の願いです。乱筆乱文ですみません。	女性	70 歳以上

◆公共交通機関の整備

自由記述	性別	年齢
買い物難民、病院難民。役にたたない市営バス。（本数が少ない。ルートを考えてない。必要な時に呼ぶ。オンデマンドバスの方がまし。）	女性	60～69 歳
老人の役所、病院、買物などにバスなど乗り合せ便利な時刻であればと思います	女性	70 歳以上
バスがとても不便週3回、午前、午後1本では片道しか行くことができない。もっと小さなハイエスクラスのバス（大治町のような）で毎日台数を増やし便を多くしないと乗れない。	男性	無回答
市内のバスも毎月利用実績をみておりますが、南部は他の地域に比べて少なく、蟹江方面（駅など）へのルートも検討頂きたくお願いします。	男性	40～49 歳

自由記述	性別	年齢
交通機関の不便さを常にかけています。巡回バスでは時間的にもルートのにも今一つです。高齢者は運転免許も返納させられ日々の暮らしの不便さを痛感しています。毎日の暮らしを安心して安全におくれる様にしてほしい。	女性	70歳以上
あま市内の巡回バスの件ですが見かける度乗っている人が少ない様に思います。車の大きさを考えて頂くことと停留所を増すこと等について要望です。	男性	30～39歳
現在、何不自由なく暮らしており、感謝申し上げます。正則地区に住んでいます。巡回バスのコースや時間があまり充実していると思えません。この先、自分が高齢になることを考えると不安です。高齢者が多い地区に食品や日用品などの移動販売車があると便利だと思います。これからも市民の福祉対策よろしくお願い致します。	女性	50～59歳
公共交通手段が不十分の為行動に限りがあり先々不安ですので、コミュニティのバス等の整備を望みます。	男性	40～49歳
巡回バスについて東部巡回ルート利用。名古屋に出る左回り11時すぎに乗車甚目寺駅に11:32着。帰りは甚目寺駅2:03発なので駅につくには(須ヶ口で乗りかえ)名古屋1:33に乗車しないと間に合いません。名古屋での滞在時間が短かすぎます。年をとってもデパートで買い物をしたいですし、食事もしたいです。左回りと右回りが逆になると勝手ながら思っています。何を基準として、時刻を決めたのでしょうか!他の市は、本数が多いです。	女性	60～69歳
これから高れい社会、どこに行くにも足がないと行けない。でも足は不自由になるし、車も乗れない、その時に病院もいけない!どうしたら良いか?来年はあま市役所も出来ますが、少し遠いと、行く事も出来ない、交通の充実がバスも何回も通る様にしてほしい。交通しゅだん、東西南北に何台も出してほしいです。	女性	70歳以上
高齢者が、自家用車に乗らなくても、自由に移動できる公共交通機関の整備をお願いします。他県では、町内の移動にタクシーが利用でき何回乗っても200円というのをTVで見ました。200円とはいませんが安価に利用できるとうれしいです。車を早くやめられます。町内をバスが走っていますが、ルートが決まっています不便です。名鉄も、名古屋市みたいにバスを作してほしいです。	女性	70歳以上
地域のコミュニティバスのシステムがもっと充実すると良いと思います。役所、病院だけでなく駅、スーパーなども通り、1時間に1本くらいあると良いと思います。運賃は1ヶ月定期など定額だと利用しやすいと思います。	女性	70歳以上

自由記述	性別	年齢
<p>公共交通機関が全く整備されていない。最寄駅から自宅までの移動手段や病院までの通院手段など、自力で（自転車、車、徒歩）行くか、家族の送迎がなければ成り立たない。せめて、タクシーの利用をしやすい様に複数のタクシー会社の参入、深夜までの台数確保など行政が介入して、交通手段を確保してほしい。高齢の両親に免許証を返納させたいが、車がなければ買い物、病院、駅への行くことができない。現役世代は働いて、税金を納めることが大切だと思うが、せめて名古屋のベッドタウンとして、通勤子育てがしやすい環境を整えてほしい。また働いている間、高齢の両親が自活できる交通網や生活環境を整えてほしい。</p>	女性	40～49 歳
<p>買物難民になったら週に1～2回スーパーまで乗せて行って貰いたい。タクシーでは気ぜわしいので、近くのスーパーまで隣近所連れだって費用も1人1回2000円くらいでお願いできたらうれしい。運転手さんにも多少手当を渡すように。一番気になる事です。</p>	女性	70 歳以上
<p>巡回バスも各集会所を通る様にして欲しい。大通りの方は利用できるが、遠い人は利用したくても出来ない。ダメなら、タクシー券を配布して欲しい。</p>	男性	30～39 歳
<p>市内巡回バスについて一考願います。バスではなく、小さな車でキメ細かく運行して頂きます様、人件費等は掛かるとは思いますが…、ますます高齢化が進む折、足がほしいです。</p>	男性	70 歳以上
<p>福祉バスの充実として毎日運行してもらい買物できるところの乗降ができる様、名古屋市公共交通が利用できる様に名古屋市と話し合いして下さい。</p>	女性	70 歳以上
<p>巡回バスはもっと利用者のニーズに合った運行巡回する時間ルート曜日、今現在日曜日も運行していますが全く意味が無いと思います。主に高齢者の方々が利用されると思いますが、バスを見ても乗車されている時を見た事が無い。それを大きな費用を投じて運営していくのであれば市民の声をもっともっと聞いて、意味の有る運営をして頂きたいと思います。それは市議員の方々が自分の地域の人々の声をもっともっと聞いて、そういう意見を議会で話し合ってもらいたいと思います。</p>	男性	60～69 歳
<p>通院するのに運転が禁止されている為、夫（家族）に運転して貰っていますが、毎度仕事を休まなくては行けないので「障がい者及び高齢者へ」通院用として、タクシーチケットの配布等があれば、とても助かります。</p>	女性	18～29 歳
<p>あま市を走るバスのルート・本数が増えたらいいなと思います。子どもなど車が無い人他から移住してきた人・老人などが、雨の日に使いやすくなるなど、使用するための心のハードルが下がり利用者増えるのでは？と思います。住宅地のルートだけでなく、各地のスーパーや病院などの施設へのルートも増えてほしい。また、須ヶ口駅や大治町内の市バス、名鉄バス停へ連れて行ってくれるとうれしい（市外の交通機関）シェアタクシー（チョイソコ）などをとり入れるのはどうか。</p>	男性	18～29 歳

◆防災・防犯

自由記述	性別	年齢
障がいがあり、災害時に1人で避難できるか不安。避難後も避難所での一定期間過ごすことになる不安。それならば車で避難できて車で過ごせる様な場所があると安心。	女性	40～49歳
どこの道もあまり街灯がないため暗い。夜になると女性1人で歩いたりするのは不安です。また、引ったくりや強盗といった犯罪にもつながるので街灯を少しでも多く設置してもらえると犯罪防止になり、安心できる街になります。	女性	30～39歳
あま市小橋方八原先地区の飲食店が閉店されたことにより、周辺の道路が夜間暗くなった。（街灯がほぼない為）防犯上、心配があるので街灯の設置を検討頂きたいです。また、大きめの用水も付近にある為、ふたをして頂けないでしょうか？動物や子供が落ちると危険だと思います。何卒、よろしくお願い致します。	女性	60～69歳

◆施設整備

自由記述	性別	年齢
防災の観点から一刻も早く美和中体育館を作ってほしい。三年前から使用不可になり、やっと解体したところとは遅すぎる。このペースでは何年先になるかわからないし、建設計画の予定等を示してほしい。中学校に体育館が3年間もないままなんて普通では考えられない。	女性	40～49歳
地域で積極的に利用されない。箱物施設が多すぎる。特にコミュニティーセンター、児童館、名古屋市の施設運営を参考にされたら如何でしょうか？	男性	60～69歳
高齢者や障がいのある方のコミュニケーションや生きがいコロナによってなくなりつつあるので、子どもたちとふれあったりして、高齢者も子ども達もたのしめる場を学校などの施設を使用してふやしていけたらよいのではないかと思います。	女性	40～49歳
地域での問題を解決（相談）する所が分からない。福祉施設が少ない！七宝町で3ヶ所はほしい。	男性	70歳以上
あま市民病院をもうすこし出入りしやすいようにしてほしい、子供の対応が悪すぎる。コロナのPCRもやってもらえず、あれだけ大きなたてもので何をしてるのか…。税金払ってやってるのに、全く地域の安心して行ける病院ではないすごく残念。市民のために住みやすいあま市であってほしい。	女性	40～49歳
図書館を作ってほしいです。	女性	40～49歳

自由記述	性別	年齢
乳幼児が安心して遊べる公園がない。七宝アートビレッジはベビーカーが押しづらかったり（舗装していない）日陰がなくて、長居できない。小さな公園は、小学生がいて遊ばせられない。アートビレッジのように、しばふでだだっ広い、+整備してある公園が欲しいです。他の年代の人と住み分けして遊べるような公園があれば市外の人も来て、集客できると思う。安城市の堀内公園や岡崎の南公園、戸田川緑地みたいな場所、作って下さい。高齢者も散歩できて健康増進にもつながると思います。	女性	30～39歳
甚目寺町内に充実した図書館がほしいです。老人、子供、成年などの憩いの場となるような。1日中過ごせるような。美和、七宝ではなく甚目寺町内でできれば駅周辺にできればいいなと思います。	男性	40～49歳
子供の人口よりペット人口が多くなっているぐらいなので、子供があそんでいない公園や公園の一部をドッグランにしてほしい。	女性	50～59歳
住んでいる西小学校区の東の方は公園が全くありません。子どもたちが、自由にあつまってあそべる場所がなく、交流も、うまれません。家にいることが多くなり、運動不足となります。健康な街を目指しているあま市としては、どうなのでしょう？お年よりも、子どももあつまれる、公園を整備していただけませんか？ラジオ体操をしたり、おまつりをしたりしたいです。子ども会もなくなってしまいました。地域の交流もどんどん減っています。町内会もわずらわしいと言ってやめてしまう人がいますが、災害時などの必要性や入るメリットをもっとアピールして加入をうながす努力が必要なのではないでしょうか。以前は甚目寺中でのおまつりや運動会もあって、楽しかったですが、今はイベントがほとんどなく正直、魅力を感じません。もちろんそのようなつながりをわずらわしいと思う人もいるかもしれませんが、参加したいけど、きっかけがないと思っている人もいます。地域の人たちがあつまれる公園や、イベントがあればもっと、そのような人たちが参加できるようになるのではと思います。お願いします。公園をつくって下さい。あま市役所（甚目寺町舎）周辺平成プロムナードの再整備お願いします。	女性	40～49歳
公園について、森ヶ丘公園に行き行って感じたことですがこんな立派な公園なのに淋しさを覚えました。他の愛知県の自治体の公園を研究して欲しいです。じゃらの公園、庭園でランキング検索したら良いと思います。予算のこともあるでしょうが、このアンケートをする位なら学ぶべきこと多いはず。自慢できる公園が欲しい。街が変わると考えます。	男性	60～69歳
社会福祉とは少し異なってしまいますが、自宅近くの公園（森ヶ丘公園）がずっと工事中なので早めに工事が終わってほしいと思っています。季節的にも過ごしやすい時季のため公園遊びをしたいのですが…。	女性	30～39歳
教室を開講したりサークル活動をするための公共スペースの貸し出し。	女性	40～49歳
子供が勉強できるかんきょうを整えてほしい。七宝町ですが、図書館がほしい。1日中利用できる様ないいごちのよい場所、図書館がほしい。	女性	70歳以上

自由記述	性別	年齢
社会福祉には関する事ではありませんが、あま市図書館の時間をもう少し長くしてほしいと子供の希望です。夏休み以外も2階で自習室を利用できるようにしてほしい。	女性	50～59歳

◆自治会・町内会

自由記述	性別	年齢
町内会に加入しているが、入っているメリットを感じない。自分の辺りはほとんど加入していないもしくは退会されてしまって、役が早くまわってくる。	男性	40～49歳
会費は寄付を広く市民に求めるのではなく、市の予算と企業の寄付及びふるさと納税で確保すべきであると思います。	男性	60～69歳
町内会に入るメリットが無いです。仕事をしながら役員をするのは時間制約上厳しいです。役員になりたくない人が多く、会員を辞め、協会会員になる人が出てきて、町内会に入り続ける人の負担が増えています。一方で行政からは町内会解散しないように圧力がかけられています。行政として、町内会存続を望むなら、町内会に入る人を増やす制度、役員の負担を減らす制度づくりが必要です。より良いまちづくりのために制度を整えてください。	女性	18～29歳
毎年自治会等のトップの選出は一般の町民ではなく行政からの専門の方の選出を希望。トップの担当がまわってくると仕事が大変で他の市、名古屋市に引越したい。	男性	60～69歳
町内会加入者が減少していて、加入者の方が少なくなっている。加入している方が損（防犯灯の電気代は加入者が払っている）している状況をなんとかしてほしい。全員が加入している町内会なら成立している事が（清掃とか役員とか）（全世帯数から）可半数をきっている町内会はもはや破綻！ボランティアとか地域活動とか考える以前に町内会のあり方を今一度考えるべき。それを行政がかじをきって。町内会の事は地域で考えてほしいというなら、もう市として廃止にしてほしい。町内会がなくなると防災や地域ボランティアがやりづらくなる事もわかるのでその代わりになるなにか住民全員が入れるものの整備を強く願います。今の町内会に不満はあるが、ある（そんざいする）以上町内会が抜けられない（必要だと思っているから）住民が一定数いることも知ってほしい。	女性	40～49歳
市がwebを進めるなら、現地自治会の年配者がweb化を理解させて欲しい。集まる時間がムダ、意味のない集まりで時間をとられるのがわずらわしい。ZOOMでもworkchatdでもやり方はいろいろある。年配者だからわからないといわれても、若者世代が自治会に参加しないひとつかもしれません。とにかく、地域のつながりは必要だと思いますが、ムダな時間が多すぎる様な気がします。	男性	40～49歳

自由記述	性別	年齢
<p>町内会のシステムが古すぎて、もっと改善できないのかなと思います。年2回家をまわって集金して、資料もすべて紙で、コロナで3年間は活動も特にないのには予算のくりこし金だけ多額のお金がたまっていて、町民には特に還元もなくて…という状況です。町内会は市から独立？したものだと思いますが、役員さんだけ負担ばかりで、活動がないから所属感もなく、我々若い世代にとっては町内会の存在自体、本当にいるのか？と疑問です。しかし高齢の方々が中心でがんばって下さっているので意見するのもどうかなという感じで…。町内会のシステムについて、市からてこ入れはできますか？実態を知っていただければ改善すべき点ばかりだと思います。ちなみに個人情報も許可なく流出されて、え？ってなりました。（文句はいえませんでした…）</p>	女性	30～39歳
<p>私は甚目寺に引越して35年ほどになります。引越した時は、すぐ組長さんが、来て町内会に入りました。それから何年かたってから組長も2回やりました。でも今新しい家が近所に建ちましたが、町内会に入る人はいません。顔も知らないです。今は町内会に入るのは自由なのでしょうか。災害などが、おきた場合困りますね。近所の人達も皆70才以上になり、若い人達が町内会に入らないから、私達が80才、90才になったら町内会はどうなるのでしょうかね。心配です。私達70才ぐらいは近所仲が良いのでずっと住みたいです。引越してきた若い人達が町内会に加入していただくと良いのですが…。</p>	女性	70歳以上
<p>家のまわりを見ても高齢化がすすみ支援が必要な方々が増えていく中、若い方が少なく、若い人は仕事に（日常の生活）に忙しく、どの世代も自分のことで精いっぱいの人ばかりです。町内会に入る人がどんどん減少し、だれかわからないけど近所に住んでいる人ばかり…コロナの影響もあり町内会での活動もどんどんなくなり、会費しか払ってなくて世話役だけが大変が現実です。町内会があるからみんなが入り、お互い支えあえればいい人間関係もできると思いますが、年々むずかしくなっています。</p>	女性	60～69歳

◆市への要望等

自由記述	性別	年齢
<p>コンビニで住民票などとれないし、やろうともしてない。行政のデジタル化が進んでないので、今後さびれていきそう。調整区域が多すぎるのでちゃんと活用して下さい。イオンモールなどよんでみては？</p>	男性	40～49 歳
<p>木田駅周辺や新庁舎はじめ、あま市はこれから都市近郊地域として、活性化していくビジョンがあると思われる。そのため、老人に対するケアの充実よりもこれからのあま市を担う、青年世代、働きざかり世代を中心とした支援を期待する。E x：子どもの医療費無償拡大などこれからの世代にとってあま市が住みやすいたなれば長い目で見て、あま市が活性化していくと思う。</p>	男性	18～29 歳
<p>高齢者や障害者一人世帯が多くなってきている事と思いますが、相談する所もなく市役所に行く事もできない人は、どうしようもないのでしょうか？あま市に来て福祉を感じた事は、ない！！もっと行動力をお願いしたい。個別に放門するとかできない物でしょうか？</p>	女性	60～69 歳
<p>福祉施策の意味の中に入るのか分かりませんが、思っていることを書きます。①どぶの蓋をつけてほしいです。家の前の道に蓋がないどぶが続いており、子供が落ちないか心配です。3年ほど前にあま市に引っ越してきたのですが、すごく驚いて危険だと思いました。たまにゴミも捨てられています。住んでいてあたり前の光景になってきてしまっているのですが、落ちて怪我をする前をお願いします。②2人目妊娠中にこちらに引っ越してきました。2人の子供を知らない土地で育てる中で感じたことなのですが、大きな誰でも行ける支援センターを作ってほしいです。美和、七宝、甚目寺に何か色々分かれているのがよく分からなかったです。同じ市なのに違うの？と思ってしまいました。小さいコミュニティも良い面はあったのですが、中心に大きな子育ての場所、ママが気軽にふらっと行ける場所、行ったらそこで自由に過ごせる場所あったらうれしいです。</p>	女性	30～39 歳
<p>手続きや申請などを簡易化してもらいたい。車がないと暮らしづらく移動手段、バスなどの運行ダイヤ（便数や停留場所）を住民のニーズに合わせ見直して欲しい。子育て世帯への支援を手厚くしてもらいたい。市独自の減税や支援金等。</p>	男性	30～39 歳
<p>市役所や福祉センターの窓口を毎週は難しいかもしれないので隔週や月末月初の土、日、祝日に対応してくれるようにして欲しい。もしくは夜間に（20～21時頃迄）対応できるようにして欲しい、仕事の関係で平日はなかなか難しいので、検討をお願いしたい。今後の高齢化や障がいのある人への対策を今以上に取り組んで欲しい。</p>	男性	50～59 歳

自由記述	性別	年齢
”お悔み課”？の様な窓口1本化新しく転居された、またはされる方の為の窓口で全ての書類記入、提出等が出来、他の課に行く必要がなくなる窓口とベテラン職員の配置。将来的に車を手放した時や歩けなくなった時に役所と駅と買物先を結ぶ市内バス。	女性	50～59歳
この先どんどん高齢化になる中、その世代に対しての、支援と出産から高校生までの世代の両方を充実した支援制度をとってほしい。高齢者には、ヒゲソリ、散髪、つめ切り、買い物、通院などの手助け、子育て世代には、出産、通園、通学、おむかえトワイライト保育などの充実。調整区域の開放、名古屋市へのベッドタウンとしての意識の向上、中村公園など地下鉄のSTまでのアクセス向上策、下水の普及を強力に進めてほしい。	男性	40～49歳
他の市町村に比べ、弱いところ、おこたっているところ多い。なので、名古屋市に近くせに住みたい人少ない。もっと、住民目線で考えるべし。	男性	40～49歳
高齢福祉課と社会福祉課の共有、連携、協力。社会福祉士の活躍、役目を期待します。	女性	50～59歳
①健康に暮らせれば介護や福祉の負担が減らせると思うので予防接種、ワクチン等の補助を充実させてはいかがでしょう。②web、SNSからの情報発信の充実とサービスの利用をスマホ・PCからできるようにしてほしい。③第2次あま市地域福祉計画、あま市社会福祉協議会、地域福祉活動計画(PDF)を読みましたが、とてもわかりづらいので、もっとわかりやすくしてほしい。	男性	50～59歳
交通の便が良くない為JRなど駅が増えたらいいと思う。子づくりに対する支援が少なくて子供を作ろうと思いがたい。カタログギフトの「あまのギフト」ととても嬉しい、いろいろなお店も知れていいと思った。いろいろな物が値上がりして生活が苦しい一時金や助生金で助けて欲しい。	男性	18～29歳
カタカナ言葉が多く、私には理解の出来る事が大変むずかしく困っています。例えばデイサービスを申し込みたいと思った場合にはその手続の申し込み先は社会福祉課か、又は直接施設でも良いのかと不安を感じます。	女性	70歳以上
家族含め全く恩恵を受けていないので、正直必要性は疑問です。納税者より票田の高齢者を大切にしている、自治体は終わっていますので、体制が変わらなければ、引っ越すつもりです。正直どこへ行ってもあまり変わらないとは思いますが、自治体として、住民税とサービスが見合っていないのは自覚して欲しい所です。	男性	30～39歳
資源ゴミ回収のひん度を増やしてほしい。月一は流石に少ない気がする。	男性	18～29歳
住みよい町づくりをお願いします。	女性	18～29歳

自由記述	性別	年齢
<p>介護の仕事をしているので本来ならばもっと興味深く見るべきアンケートとは思いましたが、あまり魅力の感じられる内容とは思えませんでした。今はすごく困っている人がいたとしたら、その人は心にささるかもしれませんが、普通の生活をしている人が関心を寄せるには、もう少し工夫が必要なのではないかと思います。</p>	女性	50～59歳
<p>家族にきいて回答しましたが、自分は親との同居で单身につき個人的にはわからない事が多く、アンケートの対象者を考えていただいた方がよかったと思う。</p>	男性	30～39歳
<p>くらしやすい環境作り。</p>	無回答	無回答
<p>全体的に無礼な回答となった事をお赦し下さい。高齢者が多い中、現役世代、若年者に負担がかかるのは当然かと思いますが、納税者を蔑ろにし、高負担を強いる社会に未来は有りません。今の職員の方々は他人事でしょうが家族や親戚の事を思い出して下さい。現段階でも明らかに労働意欲が削がれる程自治体に金を徴収されているのに、これ以上増額する事は断じて許されません。少子高齢化の一番の原因は「税」です。</p>	男性	30～39歳
<p>2021年5月頃から、救急車のサイレンを頻繁に聞くようになりました。以前は、一日一度聞くのもめずらしかったのに、今では、一日に5～6度は普通です。今年の8月は、朝から晩までひっきりなしに聞こえたと言っても過言ではありません。愛知県のホームページで県内各市町村の死亡数が、増加しているのも確認しました。名古屋市の場合この8月の死亡者数2519人。例年8月の死亡数は1800人台のところ去年8月は2023人、さらに今年は去年8月の24.5%増の2519人。8月は一年で最も死亡数が少ない月で、1月の死亡数を超えることはないのに、この数字です。これから寒くなる時期をひかえて、どうなっていくのでしょうか。あま市の人口推移のページはわかりにくいですが、救急車のサイレン音から察するに、全国平均と似ているはずです。地域社会の維持、地域福祉を考える上で、死亡と出生の把握、問題の確認は基本中の基本と存じます。「高齢化」だけが、その理由と考える人も多いですが、それだけでは数字の説明はつきません。役所の方々が、数字ひとつひとつに名前と人生があると認識して、ひとくくりに数字として見ないでいただきたい。まず、あま市の人口推移を死因を確認し、原因（病気？自殺？）追究し、問題解決のために勉強して下さい。</p>	女性	60～69歳

◆その他

自由記述	性別	年齢
高令者にはカタカナ語が分からない人が多いので、()書きでもよいので、日本語訳を入れた文章にして欲しい。	無回答	無回答
私も年よりですが、老人に気をつけていただくのはありがたいですが、他人より、やっぱりいざとなった時は、家族に1番たよりたい。息子が35才で今、家をさがしていますが、あま市には住みたくないと言います。近くに住んでくれたら、本当に心強いのに…なぜですか？子供を遊びに連れていく日かげのある公園や、子ども図書館など若い人達が喜んで住んでくれる様な、住みたくなる様な町になったらいいなあと思います。もっと若い人達の為にお金を使ってほしいです。孫の近くにいれば老人も元気が出るのだから。	女性	60～69歳
駅が遠い、近くに駅がないので不便すぎる運動する場所がない(特に夜は街灯がなく、危険なので出歩けない)なので、地域の人と交流する機会はない。	女性	18～29歳
現在未婚の男性がおります。本人は、その気持が有りますが、大部女性の対応が苦手なので40代後半にもなるのになかなか出会いがありません。本人は再婚の人・外国の人でも良いと言っています。市の方でも何とか、出合の場を催していただければと思います。人口減の今、少しでも思い記させていただきました。	男性	70歳以上
自家用車がないと生活できないと感じる。高齢になると、自家用車免許の返納も必要だとは思いますが、外食に行くにしろ、食べ物にも行けない。大きなショッピングセンターでもあれば、そこでまとめたの買い物ができるのではないかと思います。例えばイオンとか。	女性	50～59歳
ひとり親へのサポートが弱いと感じます。私の親世代においても「あま市はひとり親に対して何もしない」との声をききました。住む場所、食べる物、進学、生活サポート…名古屋や清州の方がサポートを受けられるため転出予定です。	女性	30～39歳
我が国は福祉への予算が少なく遅れています。あま市が最先端を行っていただけるともっと住みやすくなりそうです。ぜひかんばってください。	女性	50～59歳
できることなら、ゴミ0など清掃への参加は負担です。近所の人個人へのうわさを流したりという井戸端会ギ的なつながりがあるのでごくそのような場に行かざるを得ないことが嫌です。	女性	40～49歳
あま市の児童館や支援センターにおいてあるおもちゃは、けっこう古いです。なくなっている物があったり(使っている側の問題もあるかもしれませんが。)他の市の児童館、支援センターで新しい所だときれいで充実していて…どうしてそんなに差があるんだろうとふしぎに思います。	女性	30～39歳

自由記述	性別	年齢
直接自分にかかわりないことには、無関心できています。こまったことがあれば、まず市役所に相談しようとは思っていますが、自分なりに健康に気をつけて、参加できそうな行事には行く様にしようとはしています。ボランティアはしたことないです。	女性	70歳以上
自分自身で何かに直面しなければいろんな事を知るきっかけにならない。集合住宅はいろんな情報が入ってきづらい。	男性	50～59歳
民生委員をきめ細かく人数を増やしていかれては…（目が届く）（相談しやすい）民生委員のボランティア意識からプロ意識（報酬も増やす）拡大へ	男性	70歳以上
25年前はボランティア養成講座を開催し中学校等へ福祉体験の出張授業とかされていた様に思いますが、最近は福祉まつりもなく、合併前の活動の方が良かった様に思います。	女性	50～59歳
娘夫婦に任せて、邪魔にならないようにくらすことだけ考え年を取ったと思う今日この頃です。だんだん高齢者まではいかないですが、ボランティアで役に立つ人になればいいな。と思っています。わからないことばかりで、このアンケートだけでも、勉強になりました。ただ、毎日漠然と送るだけでなくがんばろうと思いました。色々な情報を得て、交流できればいいなと思いました。	女性	60～69歳
高齢者には手厚いが、若者～子どもに対してどうなのか、よくわかりません。	女性	50～59歳
保護猫、犬を活用して、高齢者の心のケアや楽しみにつなげる e t c、工夫してほしい。	女性	60～69歳

10 社会福祉協議会の活動について

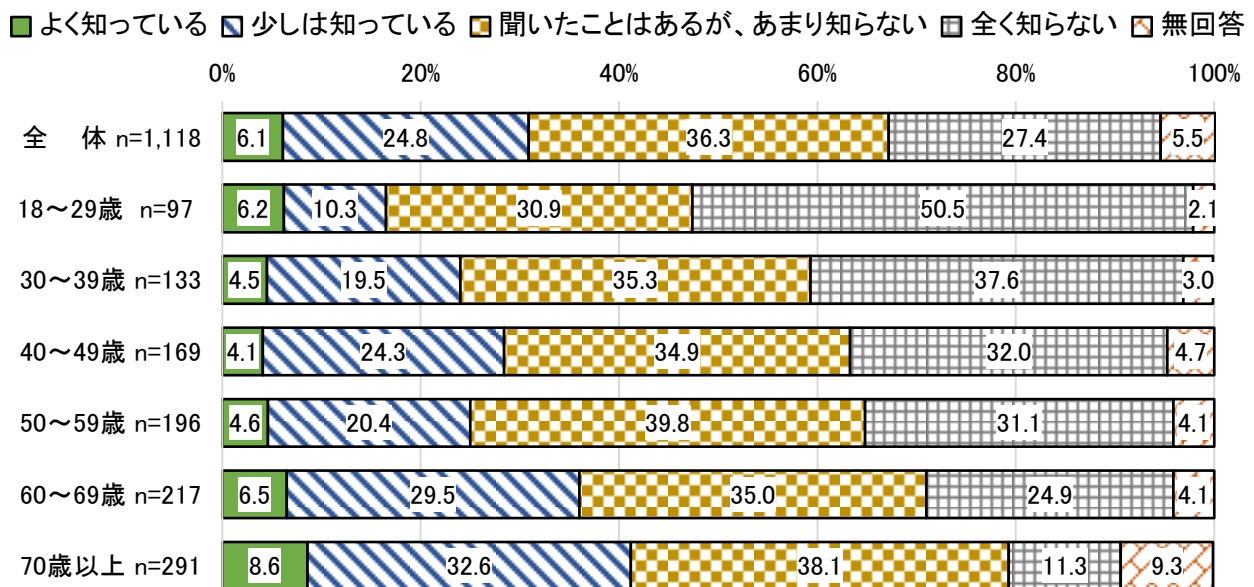
問 42 あなたは、あま市社会福祉協議会を知っていますか。(1つだけ○)

あま市社会福祉協議会を知っているかについて、「聞いたことはあるが、あまり知らない」が36.3%と最も高く、次いで「全く知らない」が27.4%、「少しは知っている」が24.8%、「よく知っている」が6.1%となっており、「聞いたことはあるが、あまり知らない」と「全く知らない」を合わせると約6割を占めています。

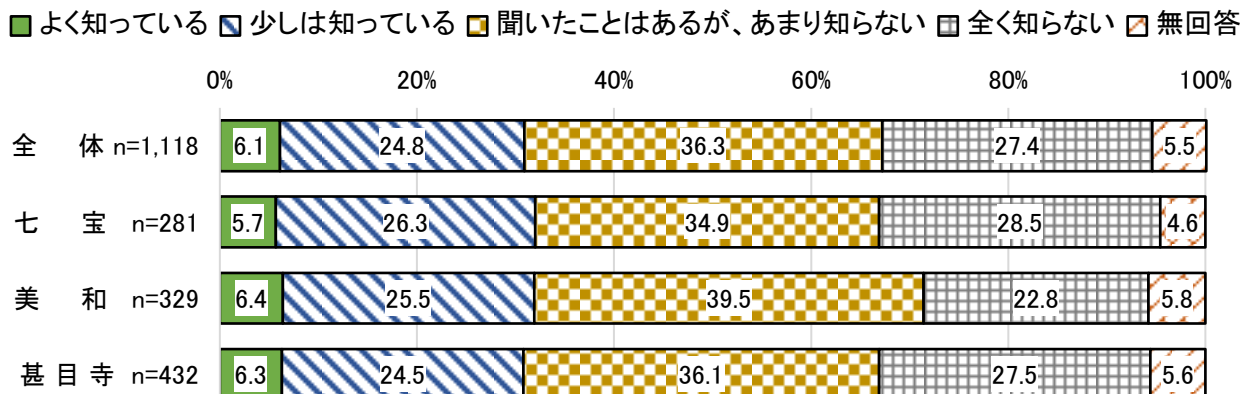
年齢別にみると、18～29歳では「全く知らない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「聞いたことはあるが、あまり知らない」が最も高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】



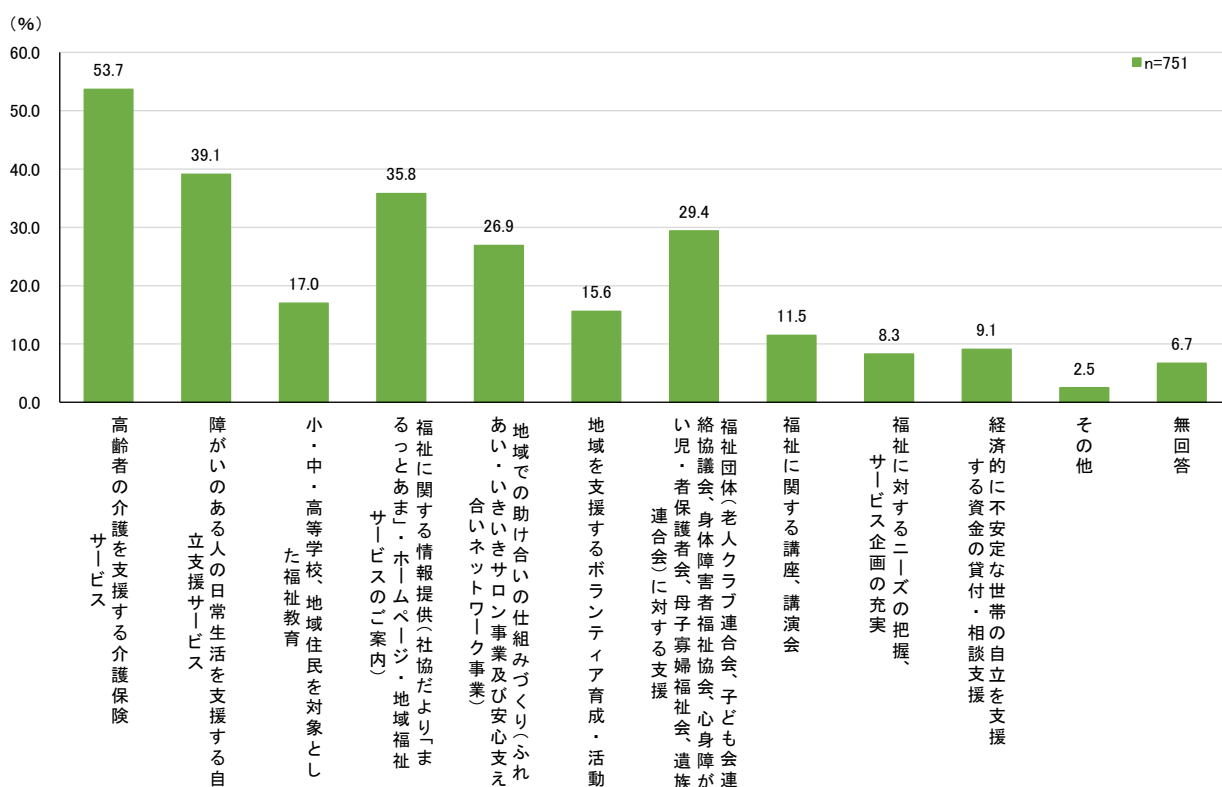
【問 42 で「1 よく知っている」「2 少しは知っている」「3 聞いたことはあるが、あまり知らない」に回答された方のみ】

問 42-1 社会福祉協議会は、社会福祉法に基づいた福祉団体ですが、あなたが知っている活動は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

知っている社会福祉協議会の活動について、「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が 53.7%と最も高く、次いで「障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス」が 39.1%、「福祉に関する情報提供（社協だより・ホームページ・地域福祉サービスのご案内）」が 35.8%、「福祉団体（老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、心身障がい児・者保護者会、母子寡婦福祉会、遺族連合会）に対する支援」が 29.4%となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢も「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が最も高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・赤い羽根共同募金の街頭募金活動
- ・車いすの貸出
- ・子供会以外は知らない。
- ・名前は聞いたことはあるが内容は全然わからない。
- ・活動そのものは知らない

【 年齢別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者の介護を支援する介護保険サービス	障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス	小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育	福祉に関する情報提供 （社協だより「まるつとあま」、ホームページ・地域福祉サービスのご案内）	地域での助け合いの仕組みづくり （ふれあい・いきいきサロン事業 及び安心支え合いネットワーク事業）	地域を支援するボランティア育成・活動	福祉団体（老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、遺族連合会）に対する支援	福祉に関する講座、講演会	福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実	経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援	その他	無回答
全 体	751	53.7	39.1	17.0	35.8	26.9	15.6	29.4	11.5	8.3	9.1	2.5	6.7
18～29歳	46	52.2	43.5	41.3	30.4	19.6	17.4	19.6	13.0	19.6	17.4	2.2	4.3
30～39歳	79	45.6	43.0	27.8	32.9	19.0	19.0	19.0	12.7	5.1	16.5	2.5	3.8
40～49歳	107	51.4	37.4	25.2	31.8	24.3	15.9	26.2	11.2	8.4	8.4	2.8	1.9
50～59歳	127	49.6	35.4	15.0	28.3	20.5	18.1	22.8	11.8	7.9	7.1	4.7	11.0
60～69歳	154	55.2	41.6	13.6	44.8	31.2	14.9	34.4	11.7	7.1	9.1	1.9	7.8
70歳以上	231	59.3	38.5	8.2	38.1	32.9	13.4	36.4	10.8	7.8	6.5	1.7	6.9

【 地区別 】

(%)

	調査数（人）	高齢者の介護を支援する介護保険サービス	障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス	小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育	福祉に関する情報提供 （社協だより「まるつとあま」、ホームページ・地域福祉サービスのご案内）	地域での助け合いの仕組みづくり （ふれあい・いきいきサロン事業 及び安心支え合いネットワーク事業）	地域を支援するボランティア育成・活動	福祉団体（老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、遺族連合会）に対する支援	福祉に関する講座、講演会	福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実	経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援	その他	無回答
全 体	751	53.7	39.1	17.0	35.8	26.9	15.6	29.4	11.5	8.3	9.1	2.5	6.7
七 宝	188	54.8	39.4	14.9	33.0	29.3	13.3	30.3	9.0	8.5	9.0	2.1	7.4
美 和	235	52.3	43.0	22.6	39.1	24.7	17.9	31.1	12.8	8.1	10.6	3.8	5.5
甚 目 寺	289	54.3	36.3	14.9	33.9	27.7	14.9	28.0	11.1	7.3	7.6	2.1	5.9

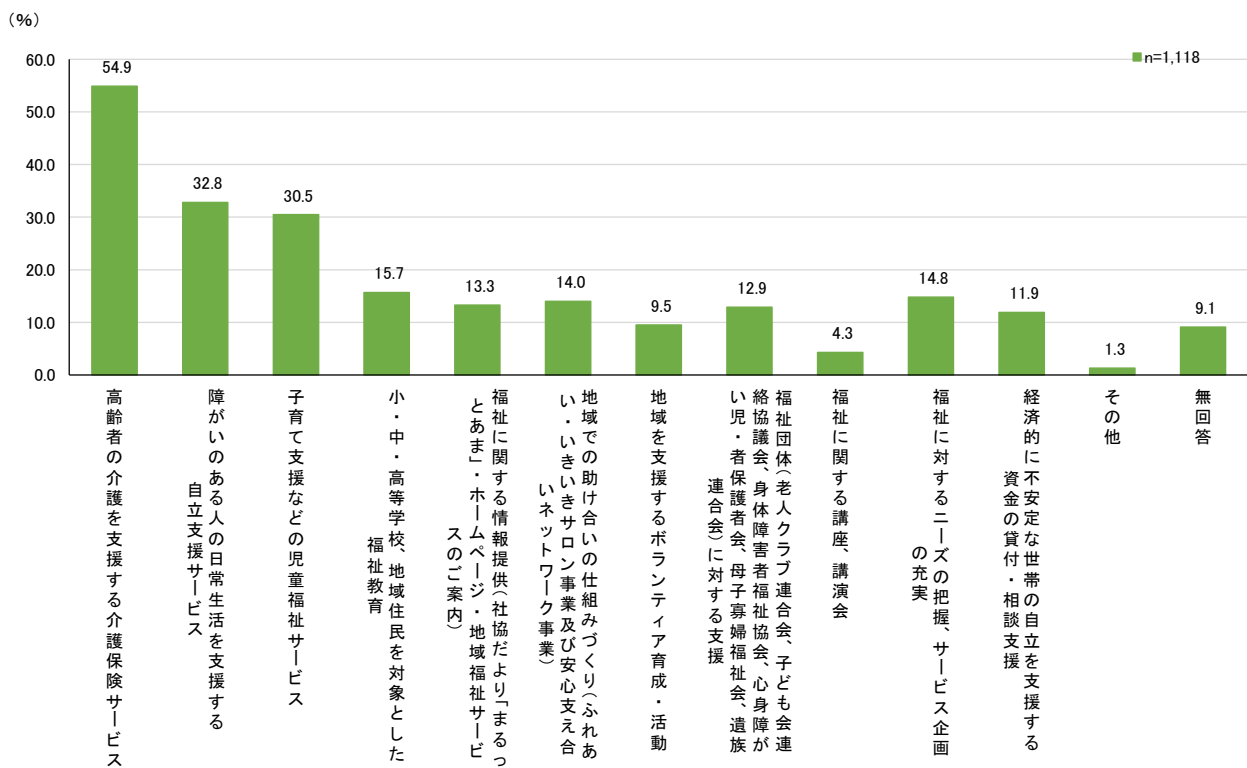
【すべての方におたずねします。】

問 43 あなたが考える社会福祉協議会に期待したい役割は何ですか。(〇は3つまで)

社会福祉協議会に期待したい役割について、「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が54.9%と最も高く、次いで「障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス」が32.8%、「子育て支援などの児童福祉サービス」が30.5%、「小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育（福祉実践教室）」が15.7%となっています。

年齢別にみると、18～39歳では「子育て支援などの児童福祉サービス」、40歳以上では「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が、それぞれ高くなっています。

地区別にみると、いずれの地区も「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が最も高くなっています。



【 その他の回答（抜粋） 】

- ・すべてのことに対して老人が興味を持つような状報。
- ・知らないので解答不可。協議会の説明を入れるべきでは？
- ・道路を広げる
- ・地域共生社会におけるリーダーシップを期待したい
- ・子づくりに対する支援

【 年齢別 】

(%)

	調査数(人)	高齢者の介護を支援する介護保険サービス	障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス	子育て支援などの児童福祉サービス	小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育	福祉に関する情報提供 (社協だより「まるつとあま」・ホームページ・地域福祉サービスのご案内)	地域での助け合いの仕組みづくり (ふれあい・いきいきサロン事業 及び安心支え合いネットワーク事業)	地域を支援するボランティア育成・活動	福祉団体(老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、心身障がい児・者保護者会、母子寡婦福祉会、遺族連合会)に対する支援	福祉に関する講座、講演会	福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実	経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援	その他	無回答
全 体	1,118	54.9	32.8	30.5	15.7	13.3	14.0	9.5	12.9	4.3	14.8	11.9	1.3	9.1
18～29歳	97	37.1	28.9	49.5	25.8	10.3	8.2	8.2	9.3	3.1	15.5	17.5	5.2	6.2
30～39歳	133	38.3	30.8	57.9	31.6	9.0	11.3	6.0	6.0	3.8	17.3	9.0	0.8	3.8
40～49歳	169	48.5	35.5	36.7	26.6	8.3	13.6	10.7	12.4	1.8	15.4	10.7	0.6	5.3
50～59歳	196	64.3	36.7	23.0	9.2	11.7	10.2	10.2	11.7	3.1	21.4	13.3	1.0	8.2
60～69歳	217	63.1	32.7	26.3	12.4	17.5	12.9	11.1	12.9	6.0	14.3	13.4	0.9	7.8
70歳以上	291	60.1	32.0	15.8	5.5	17.5	19.9	8.2	18.2	6.2	10.0	9.6	1.0	15.8

【 地区別 】

(%)

	調査数(人)	高齢者の介護を支援する介護保険サービス	障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス	子育て支援などの児童福祉サービス	小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育	福祉に関する情報提供 (社協だより「まるつとあま」・ホームページ・地域福祉サービスのご案内)	地域での助け合いの仕組みづくり (ふれあい・いきいきサロン事業 及び安心支え合いネットワーク事業)	地域を支援するボランティア育成・活動	福祉団体(老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、心身障がい児・者保護者会、母子寡婦福祉会、遺族連合会)に対する支援	福祉に関する講座、講演会	福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実	経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援	その他	無回答
全 体	1,118	54.9	32.8	30.5	15.7	13.3	14.0	9.5	12.9	4.3	14.8	11.9	1.3	9.1
七 宝	281	57.3	35.6	30.2	15.7	16.4	14.2	10.3	13.5	3.9	11.4	12.5	1.1	8.5
美 和	329	56.8	31.3	28.9	16.1	14.3	12.5	9.7	10.6	4.3	14.0	13.1	1.5	9.7
甚 目 寺	432	53.2	33.3	33.1	16.4	10.6	13.2	7.9	14.4	4.6	16.2	10.2	1.2	8.6

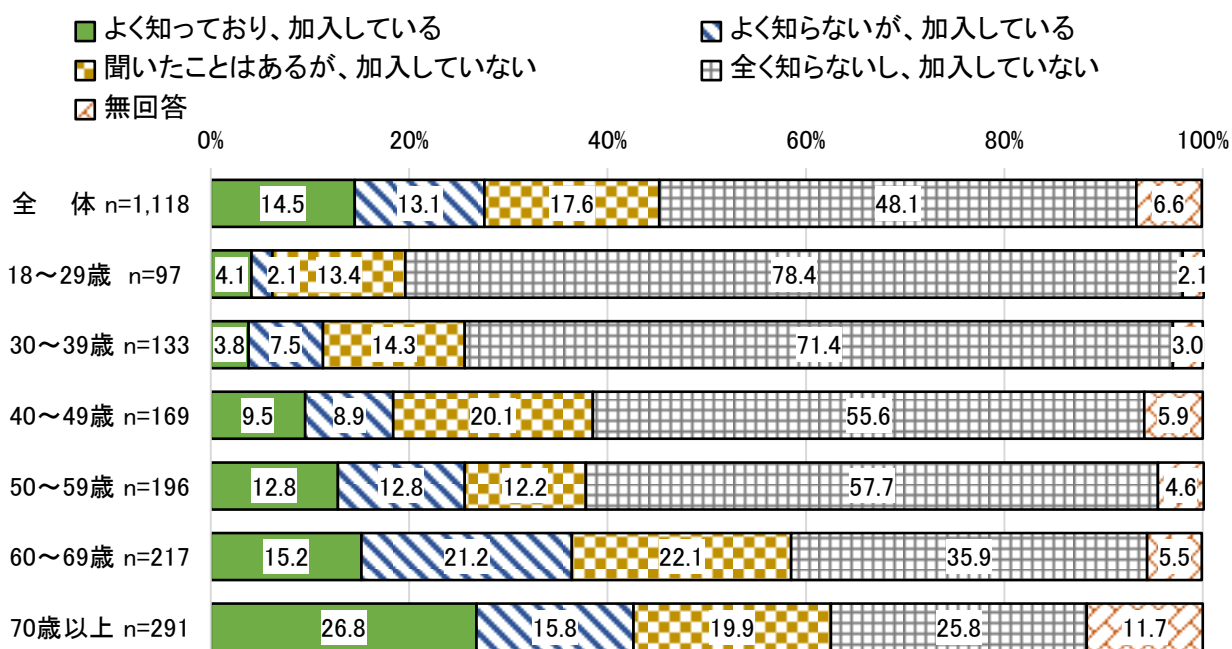
問 44 社会福祉協議会では、地域福祉事業の推進を資金的に支えてくださるサポーターとして会員募集（法人会員 1 口 3,000 円、普通会员 1 口 500 円）を行っていますがご存知ですか。（1つだけ○）

社会福祉協議会が会員募集を行っていることについては、「全く知らないし、加入していない」が 48.1%と最も高く、次いで「聞いたことはあるが、加入していない」が 17.6%、「よく知っており、加入している」が 14.5%、「よく知らないが、加入している」が 13.1%となっています。

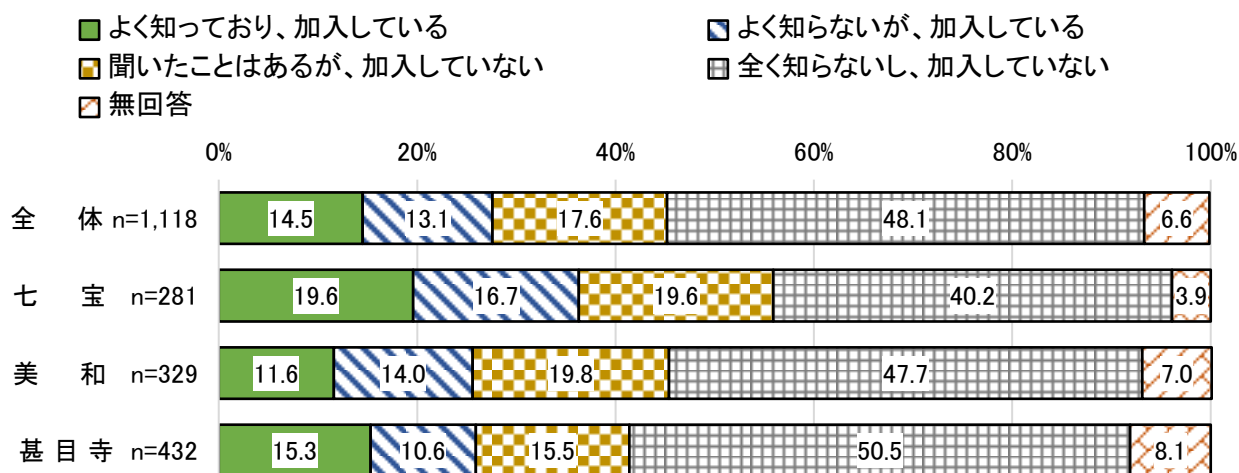
年齢別にみると、18～29 歳で「全く知らないし、加入していない」が他の年齢に比べて最も高くなっています。

地区別にみると、七宝地区で「よく知っており、加入している」と「よく知らないが、加入している」を合わせた『加入している』が他の地区に比べて高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】

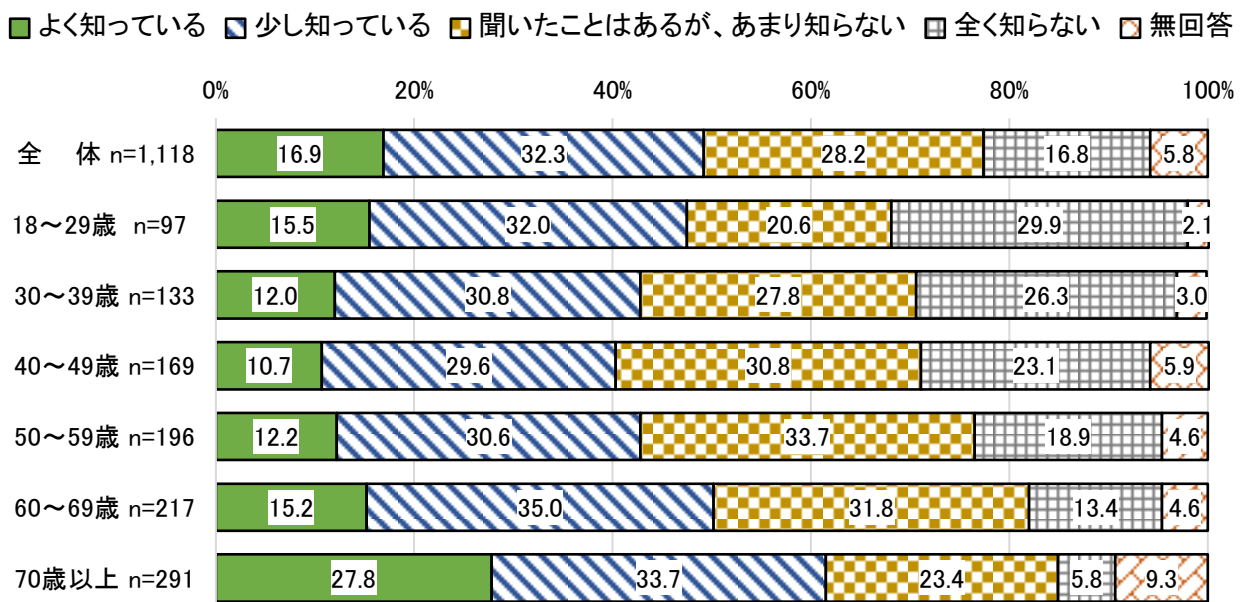


問 45 あなたは、赤い羽根共同募金が地域福祉の推進を図るための、社会福祉事業に役立てられていることを知っていますか。(1つだけ○)

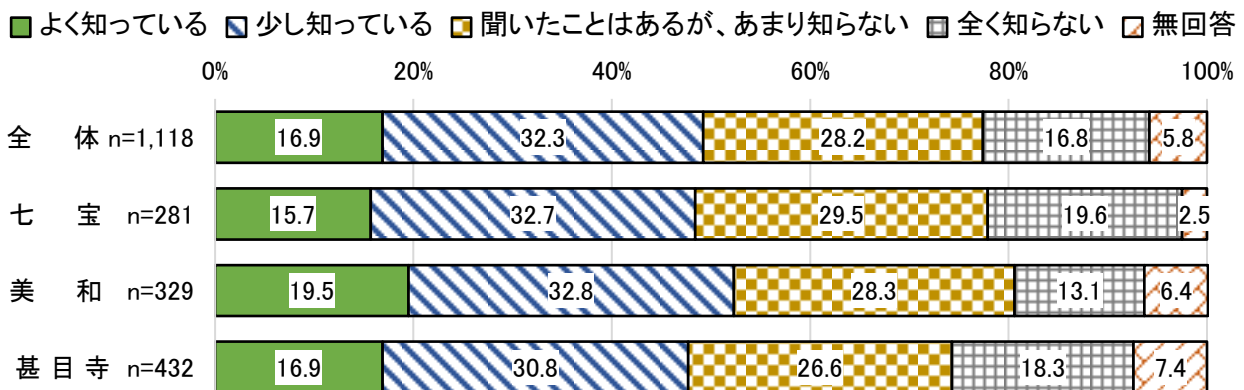
赤い羽根共同募金が地域福祉の推進を図るための、社会福祉事業に役立てられていることを知っているかについて、「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』が49.2%となっています。

年齢別にみると、70歳以上で『知っている』が他の年齢に比べて高くなっています。
 地区別にみると、美和地区で『知っている』が他の地区に比べて高くなっています。

【 年齢別 】



【 地区別 】



問 46 社会福祉協議会に対する、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

◆地域福祉全般

自由記述	性別	年齢
小中・高子ども達と高齢者とのコミュニケーションの場ともっともっとふやして行ってもらいたいです。	女性	40～49 歳
25年前はボランティア養成講座を開催し中学校等へ福祉体験の出張授業とかされていた様に思いますが、最近は福祉まつりもなく、合併前の活動の方が良かった様に思います。	女性	50～59 歳
今後は、ボランティアや協力などという無償の力ではなく、ビジネスとして割り切った思い切った変革が必要と思われまます。高齢化社会として世界に先がけて、あま市で新しいビジネスモデルと年寄りや障害をもった人々、子育て世代に住みよい町づくりをし、あま市に住みたいと思える社会福祉を求めています。	男性	50～59 歳
不登校、引きこもり、発達障害への相談、支援の充実。住みやすい町づくりをよろしくをお願いします。	女性	40～49 歳
デンマークやスウェーデンの様な福祉制度が充実した市（国）になればいいのと思う。すべての人がすべての人に対して分け隔てなく支え合うのが、普通の社会だとの考えになる様、根本的な考えの改革が出来れば色々安心して生活できるのでは？と思う。すべて理想ですが。他国で出来て日本でできないのは、なぜなのでしょう。	女性	50～59 歳

◆高齢福祉

自由記述	性別	年齢
これから高齢者の人口増加し、介護サービスの充実は必須だが、それに伴い、介護サービスの質の向上は必要であると考えます。	男性	30～39 歳
まだ、介護は必要としませんが、困った時にすぐ入居できるようになるといいです。いつも町の福祉のためにご尽力いただきありがとうございます。	女性	70 歳以上

◆障がい福祉

自由記述	性別	年齢
私は精神障害者です。34才で子どもが2人、夫がすべての家事を行っていて、私はごみ出しすらできません。家族の負担を考えると福祉サービスを利用したいと思いますがどこに、だれに相談すればよいか、分からないまま何年も過ごしています。助けてほしいです。	女性	30～39歳
障害者分野では、もう少しがんばって欲しいと思う所があります。大変だと思いますが、よろしくお願いします。	男性	30～39歳
相談になってしまいますが、夫に「病気（入院したり等）の人も疲れると思うが、看病する人（介護）もかなり疲れる」と言われた。ただ、病気になりたくて障がい者になった訳でも・通院している訳でもないの、何か障がい者にとって社会で肩身の狭くなることのない地域・社会になって欲しい。「てんかん」も気持ちの持ちようと言われるが、本当に気憶が無くなるので（精神障害）でなく（身体障害）にして欲しい。※受給者証の「精」を見て（うつ病と間違えられたり）言われた事があるので「精」を隠したい。堂々と出来ず、冷たい反応をされる事もしばしば。	女性	18～29歳

◆児童福祉・子育て支援

自由記述	性別	年齢
子育て支援のじゅうじつで未来のある町づくりをよろしくおねがいします。	女性	18～29歳
子育て世代が子育てしやすい社会を作ってほしいです。安心して子育てしたい。通学路の安全確保、見守りを充実させてほしいです。母も働かなくては家庭はなりたっていない。地域の安全も大事だなと思います。	女性	40～49歳

◆情報公開・周知・広報

自由記述	性別	年齢
社会福祉協議会の全体像が見えないのもっと充実したPR活動が欲しい。すみれの里を利用させていただいているが一部の利用にとどまり、一層活用したいと思う。デイサービスも聞いた話では利用者には家まで向えに来て下さるとは知らなかった。巡回バスの利便性&上げて活動をよりよくして欲しい。	男性	70歳以上
協議会の目的等よく理解できるようにもっとPRをお願いします。	男性	30～39歳

自由記述	性別	年齢
子どもが支援学級に通っているため、今後の進路に不安があります。高校に行けるのか？卒業後、地域に働く場があるのか。暮らしていくのに、ある程度の収入をえられるのか、気になります。また、親亡き後、グループホームなど、あまり情報がなく不安です。そのような情報提供と、整備を望みます。	女性	40～49 歳
全く知らないので是非、広めてもらいたい。	男性	60～69 歳

◆公共交通機関の整備

自由記述	性別	年齢
アンケート調査記入して、思った事ですが、自分も原付自動車の免許返納して毎日不便に感じています。バスの運行が少なく、ボランティアに行く事もできない。日常の移動、すみれの里、区役所、マイクロバスとかのり合いバスなど考えていただけませんか。	女性	70 歳以上
もっともっと福祉に対して、力を入れて下さい。例えば名古屋市の様に福祉タクシー件（障害者）や高齢者の敬老マナカ、福祉マナカの様な愛西市の割引タクシー券、あま市内のタクシー会社だけでなく名古屋市内のタクシー会社にも使える福祉券を考えるべきだと思う。もっともっと考えれば色々福祉に対する事が有ると思うのでそう言う点やって頂きたい。	男性	60～69 歳

◆施設整備

自由記述	性別	年齢
図書館に社会福祉協議会の活動状況が判るもの用意して欲しい。又古い蔵書がないせいか本が臭うので管理方法を見直してください。	男性	70 歳以上

◆社会福祉協議会への要望等

自由記述	性別	年齢
就労支援について、よりきめこまやかに相談にのって欲しい。就労で困っている人は不安でしかたないので、優しく誠実に対応して頂きたい。	男性	18～29 歳
今まで社会福祉協議会の活動が見えない。この機会できき七宝町としてほしい。	男性	70 歳以上
貴協議会の会費の集め方については、自治会に頼らず時代に合った方法で会費を集める方法を検討して欲しい。自治会の班長が各家庭を巡り会費を集めるやり方では負担をかけるだけです。やらされ感を感じる方もいるので、是非改善して下さい。	男性	60～69 歳

自由記述	性別	年齢
今は健康でいるので。できれば買物などのタクシー券せいであればと思う病院などのために。(80才以上とか)年令によって。確定申告本庁でなく地域での申告で願います。介護支援も良いと思うが自立支援指導など例として自助努力の心から喜びのできる指導たとえば寝ままの「きくち体操」自分から進んでできる様。	女性	70歳以上
社会福祉協議会とはどんな団体なのかなかなか分かりづらいと思います。資金の貸付など希望している方はたくさんいると思います。もっと気楽に利用できるといいし、社会福祉協議会の活動内容が周知され、利用する人が増えればいいと思います。	女性	50~59歳
社会福祉協議会が実際にどの様に、どの様な所に福祉活動をされているか、良く分かっていません。	男性	70歳以上
社会福祉協議会の事務の方は、やさしく親切でありがたいです。	女性	70歳以上
協議会の独自性をどこに見いだすか?頑張ってください。	男性	60~69歳
私の知る限りでは町内会に入っている方には、福祉協議会の会員募集しておりますが、全軒対象で訪問されると良いですね。	女性	60~69歳
会員募集の案内は毎年来るが、町内でとりまとめをしなくなったので、会費を納められなくなってしまった。	女性	50~59歳
いろいろな講座を受けました。ほとんどが、講師の方も優秀で楽しかったですが、中には、まれに講師に適さない方もいます。講座修了時には、受講者の意見も聞いてほしいです。	女性	70歳以上
社会福祉協議会を頼って行く人に対して受ける側の人達の人材育成もきちんとしてほしい。(相談のしやすさ、親身になっての対応等)	女性	60~69歳
社会福祉課と社会福祉協議会のちがいがわからない。毎年1口¥500の会費を払ってます。毎年組長さんより依頼あり、強制みたいでことわれない。赤い羽根の寄付はどこに何に使われているのか?子供の頃からポスターの宿題とかあったが、意味わからずえがき、今まで来ている。赤い羽根¥100でこの羽根はあとの活用がない?SDGSにならない。(可燃ゴミ、不燃ゴミどっちすてる?ごめんなさいだけど...)皆様はどうしてますか?赤い羽根。	女性	50~59歳
実際に利用したことがある人以外は、どのような団体なのか明確ではない。	女性	30~39歳
相談支援員のたよりなき、1年に1回作業所に来るだけの人(プランの署名だけ)に困った時、どう相談したらよいの?介護保険のケアマネみたいに月に1回の定期訪問を義務付けるべき。	男性	18~29歳
この協議会の人員構成を知りません。	男性	60~69歳

11 市民アンケート調査結果からみる あま市の地域福祉の課題と今後の方策

1 地域との関わりについて

◆自治会

自治会加入状況について、七宝地区、美和地区では9割程度が「加入している」と回答していますが、甚目寺地区では6割程度となっており、居住地区による差が見られます。自治会加入促進に向けた対策を引き続き考えていく必要があります。

◆近所付き合い、地域とのつながりの強さ

近所付き合いについて、若い世代ほど「顔をあわせれば挨拶する程度」の割合が高くなっています。18～39歳では6割以上、40～59歳では5割以上が「顔をあわせれば挨拶する程度」と回答しており、近所と挨拶以上の関係を作ることができていないことがうかがえます。

また、自分と地域の人たちとのつながりが強いと感じるかについて、18～69歳までの広い世代で8割以上が『弱いと思う』と回答しており、地域とのつながりが希薄化していることが考えられます。

◆地域活動

最近1年間での地域活動や行事の参加状況について、全体では6割程度が「参加していない」と回答しています。その理由としては「仕事や学業が忙しく時間がない」や「参加するきっかけがない」が多く回答されています。住民と地域とのつながりが希薄化している中で、行政や自治会から、地域活動や行事への参加を積極的に働きかけていくことが必要です。

また、「その他」の意見の中では「新型コロナウイルスにより地域活動や行事がなかった、中止された」という回答が比較的多く見られました。コロナ禍における活動制限下での地域活動や行事のあり方も考えていく必要があります。

◆地域に必要な活動

住んでいる地域に必要な活動は、「防災や災害救助に関する活動」が最も多く回答されています。近年では、全国的に大雨による被害や、地震による被害が多発しているため、あま市民にも災害や防災対策についての関心が高まっているものと考えられます。

また、18～39歳の若い世代では、「子どもに対し安全な登下校や遊び場を提供する活動」や「子育て中の親を支援する体制の整備」が多く回答されています。個別分野の関係者だけではなく、地域福祉の枠組みの中で子育て世代を「地域で支援していく」ことが重要だと考えられます。

◆新たな地域のつながりのための取組

新たな地域のつながりを築くために進めるべき取り組みについて、全体では「子どもの見守りや防犯活動の推進」と「年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが安心して過ごせる居場所づくり」がともに最も多く回答されていました。「年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが安心して過ごせる居場所づくり」について、高齢者や子どもなど、個別分野での居場所（サロンなど）は既に取り組みが進んでいるため、分野を超えた連携を図り、こうした既存の活動を拡充させていくことが手段のひとつとして考えられます。

◆情報入手手段

地域に関する様々な情報を得る方法として希望するものについて、「市の広報紙等」や「回覧板や地域の掲示板」といった既存の方法が多く回答されている中で、18～49歳の若い世代では「SNS（LINE、facebook、Twitter など）」が多く回答されていました。パソコンやスマートフォンの普及が進み、SNSの利用が一般的になっている中で、行政による情報提供や広報活動においてもSNSの活用が必要とされていると考えられます。

2 地域の支えあいについて

◆困ったときの相談先

困ったときの相談先については、「家族・親族」や「友人・知人」といった、比較的身近な人物が多く回答されています。一方、「市役所」や「社会福祉協議会」といった公的機関や個別の専門機関の回答がいずれも1割未満となっています。困ったときの相談先としては、まずは身近な人物に相談することが多いことが考えられますが、専門的な内容や、支援が必要な場合には公的機関や個別の専門機関につなぐことが必要になります。市民が内容によらないで、迷わず相談できるワンストップ窓口が必要になると考えられます。

◆優先的に取り組んでいきたい地域の課題や問題

地域住民が優先的に取り組んでいきたい地域の課題や問題について、「子どもの安全・安心の確保」が最も多く回答されており、次いで「高齢者の見守り体制や生活支援の確保」や「高齢者の社会参加や生きがいづくり」といった高齢者に関する回答が多くなっています。高齢化が進み、高齢者に対する支援が課題であると捉える市民が多い中で、あま市の未来を担う子どもたちの安全・安心の確保がさらに重要な課題だと捉えられていると考えられます。

昨今では子どもをめぐる事故や事件が多く報道されるようになっており、市民の関心も高いと考えられるため、子ども達が安全安心に育っていける環境づくりを進めることが必要です。

◆地域で必要な支援と行ってみたい支援

地域で必要な支援について、「安否確認の声掛け」が最も多く回答されており、今後行ってみたい支援についても「安否確認の声掛け」が最も多く回答されています。しかし、行ってみたい支援については無回答が4割以上となっていました。

少子高齢化や福祉課題の複雑化が進む中で、将来的な支援ニーズはより高まっていくことが考えられるため、地域住民による活動への参加をより促進していくことが必要になります。

◆地域の支え合いの関係を築くために必要だと思うつながり

地域の支え合いの関係を築くために必要だと思うつながりについて、「ご近所、自治会・町内会などのつながり」が最も多く回答されています。

自治会への加入状況や、近所付き合い・地域とのつながりの希薄化が懸念される中で、「ご近所、自治会・町内会などのつながり」といった身近なつながりの必要性を住民も重視していることから、普段から自治会・町内会からの働きかけなどつながりづくりのための取り組みを推進していくことが必要です。

◆個人情報の取り扱い

地域の支え合いのための個人情報の取り扱いについて、全体では「個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である」が最も多く回答されており、非常時における個人情報の取り扱いについて市民からも一定の理解があるものと考えられます。

一方、特に若い世代では「個人情報は共有してほしくない」、「個人情報は共有すべきではない」が多く回答されており、世代によって個人情報の認識に差異があることがうかがえます。

避難行動要支援者名簿など、福祉分野において個人情報を取り扱うことが多いため、自治会役員や民生委員・児童委員など、個人情報を取り扱うことがある立場の方に、取り扱いにあたっての注意事項等を伝える研修等を行うことも必要です。

3 ボランティア活動について

◆ボランティア活動への参加

ボランティア活動の参加経験がある人は全体の3割程度となっており、半数以上がこれまで未参加となっています。

「参加したことがない」理由としては、「参加するきっかけがないから」や「仕事や学業が忙しく時間がないから」が多くなっています。特に「参加するきっかけがないから」は60～69歳で多く回答されており、広報紙による周知や声かけ等を通じて参加促進を図ることが必要だと考えられます。

また、「参加したくない」理由としては、「自分の生活のことで精一杯だから」が最も多く回答されており、ボランティア活動をする余裕がない状態の方もいることが考えられます。

◆ボランティア活動に参加する上で必要なこと

ボランティア活動に参加する上で必要なことについて、全体では「時間的に負担の少ない活動」が最も多く回答されており、次いで「体力的に負担の少ない活動」、「人間関係上の負担の少ない活動」と各場面における負担が少ない活動が求められています。

4 災害時における活動について

◆災害時に情報等を得る方法

災害時に希望する情報収集方法について、「テレビ」や「ラジオ」といった既存のメディアが多く回答されていることに加え、「メール」や「SNS (LINE、facebook、Twitter など)」といったパソコンやスマートフォンを用いる方法も多く回答されています。

地域に関する様々な情報を得る方法として希望するものと同様に、18~49歳の若い世代では特に「SNS (LINE、facebook、Twitter など)」が多く回答されており、災害時においても行政による情報提供にSNSの活用が求められていると考えられます。

◆災害時に地域でしてほしい支援

災害時に地域でしてほしい支援について、「安全な場所への避難誘導」や「安否確認の声掛け」が多くなっています。「安全な場所への避難誘導」については、自身が住んでいる地域の避難所の場所や避難ルートを知っておく必要があるため、行政、あるいは自治会からも情報発信をするほか、防災に関するイベント等を通じて住民の意識を高めていくことが必要です。

◆「災害時に支えあう地域づくり」に必要なこと

「災害時に支えあう地域づくり」に必要なことについて、「地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携」が最も多く回答されており、次いで「自主防災組織づくり」、「避難行動支援者を把握できる地図の作成」となっています。自助、あるいは地域住民同士の互助だけではなく、施設や事業所との連携を含め、地域で一丸となって支え合っていくことが必要です。

5 再犯防止について

◆再犯防止を進めるために協力できること

再犯防止を進めるために協力できることについて、6割程度と多くの人が「わからない」と回答している中で、「罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする」や「再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する」の回答が1割程度と他と比べると比較的高くなっています。

地域福祉における再犯防止についての知識や理解を住民に広げていくことから始めていく必要があります。

6 成年後見制度について

◆成年後見制度

成年後見制度の認知度について、全体では「よく知っている」と「少し知っている」を合わせた『知っている』の割合が4割程度となっており、特に「よく知っている」が1割未満と十分に浸透していない状況です。

自分自身や親族が、認知症などにより判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思うかについて、高齢になるにつれて「利用しない（したくない）」の割合が高くなっており、特に70歳以上の高齢者では他の年齢に比べて最も高くなっています。成年後見制度の利用については、世代間で認識に差があることから、制度の周知を図る必要があると考えられます。

◆権利擁護センター

成年後見制度について相談できる機関について、6割以上が「知らない」と回答しています。また、「権利擁護センター」の回答は全体の6%程度となっており、今後はより認知度を上げていくことが有効と考えられます。

また、「権利擁護センター」に期待することとして、「相談窓口の充実」が最も多く回答されており、次いで「権利擁護センターや成年後見制度についての「広報あま」での紹介」、「成年後見制度の手続きの支援」となっています。権利擁護センターは令和3年4月1日に開設された新しい相談支援機関ですが、周知活動のほか、機能の充実についても引き続き取り組んでいく必要があります。

7 市の福祉施策等について

◆市として特に力を入れて取り組むべき福祉施策

市として特に力を入れて取り組むべき福祉施策について、「円滑な移動のための公共交通機関の整備」が最も多く回答されており、次いで「高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策」、「街のバリアフリー化」となっています。自由意見においても、道路の整備や公共交通機関の整備についての意見が多く見られ、地域で安心して快適に暮らせる環境づくりが求められていると考えられます。

◆地域福祉を進めるにあたって、地域の課題を解決する方法

地域福祉を進めるにあたって、地域の課題を解決する方法について、「行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである」が最も多く回答されています。地域に住むすべての人が主体となり、連携して取り組みを進めていくことが重要であると市民も認識していることがうかがえ、次期計画の中で地域におけるそれぞれの主体ごとの役割分担や相互連携の方策を明確に示し、あま市における地域共生社会の実現を目指していくことが必要です。

8 社会福祉協議会の活動について

◆あま市社会福祉協議会の認知度

社会福祉協議会の認知度について、「聞いたことはあるが、あまり知らない」と「全く知らない」を合わせると6割以上が『知らない』と回答しており、特に18～29歳の若い世代で8割程度が『知らない』と回答しています。地域活動の主体である社会福祉協議会の存在をより広く周知していくことが必要です。

◆社会福祉協議会に期待したい役割

社会福祉協議会に期待したい役割について、「高齢者の介護を支援する介護保険サービス」が最も多く回答されており、次いで「障がい者を有する人の日常生活を支援する自立支援サービス」、「子育て支援などの児童福祉サービス」となっています。主要な分野別福祉である高齢者福祉（介護保険）、障がい福祉、児童福祉のいずれにおいても、社会福祉協議会が地域において果たす役割に期待が持たれており、福祉のサービス提供事業者として一層事業や活動を充実させていくことが必要になります。

◆会員募集

社会福祉協議会の会員募集について、高齢になるにつれて『加入している』の割合が高くなっており、18～39歳の若い世代では8割程度が『加入していない』と回答しています。より若い世代へ社会福祉協議会による地域福祉事業の推進への理解促進を図っていくことが必要であると考えられます。

第2章 団体アンケート調査

1 調査の概要

調査目的

平成 31（2019）年 3 月に策定した「第 2 次あま市地域福祉計画及び第 2 次あま市社会福祉協議会地域福祉活動計画」の見直しを行うにあたり、地域における様々な課題の解決に向けて、市内の関係福祉団体等に地域福祉に関するご意見等をうかがい、今後の取り組みに反映していくため実施しました。

調査設計、回収結果

調査対象	市内の関係福祉団体
対象者数、配布数	30 団体
抽出方法	市による選定
調査時期	令和 4 年 10 月 6 日（木）～10 月 28 日（金）
調査方法	郵送による送付・回収
回収数	21 団体
有効	21 団体
無効	0 団体
有効回収率	70.0%

調 査 団 体			
1	あま市老人クラブ連合会	16	特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘
2	あま市遺族連合会	17	小規模多機能型居宅介護施設「ふくじゅそう」
3	あま市母子寡婦福祉会	18	美和おはなしグループ グー・チョコキ・パー
4	あま市身体障害者福祉協会	19	古道防犯チーム
5	あま市民生委員児童委員協議会	20	パールの会
6	あま市心身障害児（者）保護者会	21	読み聞かせサークル ぶつくっく。
7	NPO法人ママ・ぶらす	22	あま市赤十字奉仕団
8	NPO法人恵泉会	23	西尾張明るい社会づくりの会
9	NPO法人ゆったりホーム海部はすの里	24	美和高校地域活動部
10	NPO法人ライフサポートみわ	25	ミルキーねっと
11	NPO法人ORR社会貢献セミナー	26	手話サークル七宝
12	NPO法人あるいていこう	27	らんぷるうむ
13	NPO法人あま市防災ネット	28	大字安松区
14	NPO法人ほっとネット・みわ	29	大字木田区
15	NPO法人あま福祉会	30	大字上萱津区

2 アンケート結果

団体等名	NPO法人ゆったりホーム海部はすの里
記入者	施設長代行 藤田和久
問1 団体等の概要	・精神病の利用者のために生活支援、自立支援を行う。(内職、食事提供(昼のみ)、レクリエーション等)
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	・保護者会・PTA、NPO
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	・活動のマナー化、新しい会員が入らない
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・会員が40代～60代になり、親が80代の会員が多い。親の面倒をみている会員も多数いる。 ・会員にもヘルパーをお願いしている方もいる。その方の親もヘルパーをたのんでいる方もいる。病院に行くにもガイドヘルパーをたのむ方もいる。 ・利用者が昼食をとる場合は、ガイドヘルパーの昼食分を利用者が支払うのは納得できない。 ・スポーツ施設や温水プールを利用する時は利用料の負担を軽減していただきたい。
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、利用者1人1人と会って困っている事、悩んでいる事を聞いて欲しい。その上で対応を話し合いたい。
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なことから始めたい。 ・当施設の役割としては、利用者に自分は社会に役に立てるとの自信をもたせるため、どんな小さなことでも機会があればほめる事を大切にしている。できる事から始めていく事が大切と思い親がいる方は親孝行をすすめたり、ゴミ拾いや仲間どうしの交流通して一人ぼっちにならないようにしたい。
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・健康の保持・増進を図る健康づくり ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充(設立・運営の支援) ・タクシーを利用しないとどこへも行けない人がいる。その人たちのためにタクシーチケットの配布をお願いしたい。 ・精神障がい者でも、志の高い方もいるので、障がいのある方に会ってから支援の方法を考えて欲しい。

団体等名	大字上萱津区
記入者	区長 粉山兼芳
問1 団体等の概要	
・自治会（町内会）活動	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・ボランティア団体、民生委員・児童委員、老人クラブ、社会福祉協議会	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・活動のマンネリ化、新しい会員が入らない、市民のニーズに合った活動ができていない、支援を必要とする人の情報が得にくい	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
・災害時要支援者と町内会との関わり方について、市社会福祉課と市安全安心課のていねいな支援を期待する。	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） ・街のバリアフリー化 ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援） 	

団体等名	特別養護老人ホーム第Ⅱあま恵寿荘
記入者	施設長 加藤美由紀
問1 団体等の概要	
・介護福祉施設	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・ボランティア団体、保育園・幼稚園・認定こども園、小・中学校	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・市民に情報発信する場や機会が乏しい、他の団体と交流する機会が乏しい	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<p>・施設が、地域の中で閉ざされた場所ではなく、地域の中の拠点の一つとして、要介護3以上の高齢者だけではなく、老若男女様々な人が、自由に出入りし、入居している方も地域に暮らす一員として、当たり前前の交流が出来たり、地域の中で「暮らしている」という感覚が継続出来るようになれば、と思っている。</p> <p>・地域の人でも利用可能な喫茶を解放したり、地域のボランティアが活動したり、認知症カフェもスタートする予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により、高齢者施設であるがゆえ、この2年半以上、全てのことがストップしている。</p>	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<p>・地域の中で施設を理解していただくために、小学校や中学校、地域の方々との交流の機会を考えていただきたい。(大治町からは、いろいろな依頼や、職場体験などもある)</p> <p>・社協には、支え合ネットワークの地域浸透と、拡大に力を入れてもらいたい。10年後、20年後、超高齢化になり、高齢者が高齢者を支え、高齢になっても、地域の中での役割を持ち活動できるように、もう一つに介護サービスの競合ではなく、地域全体の介護力向上のためのリーダーシップをとる役割を。</p>	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<p>・地域全体がそういう考え方や、当たり前前の社会へ向かうのには、あま市が今のままでは、とてもとても長い道のりだろうか。まずは未来を担う子どもたち、幼児、小学生、中学生そして、その家族に、その考え方や、地域、地元を想う心、支え合い助け合う考え方、当たり前だが、それを当たり前なことを浸透させる、教育、体験など毎年、同じ事を繰り返すのではなく、時代やニーズに合わせた事業を。10年後、20年後に成果が出るのではないか。</p>	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） ・街のバリアフリー化 ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） 	

団体等名	あま市老人クラブ連合会
記入者	会長 谷川輝純
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の健康づくり活動、趣味活動 ・地域活動、社会活動 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、福祉施設 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動のマンネリ化、新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、支援を必要とする人の情報が得にくい 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・合併前の3地区での活動が多く市老連の一本化が難しい。 ・コロナ過で事業の中心や縮小が現実である。 ・行事の実施場所や参加者の交通手段。高齢化に伴い役員の成手がない。会員の若返り。 ・備品等の保管場所を作る。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会との繋がりが感じられていない。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・住民の皆様が最近受け身になっており、お役所、町内会まかせで助け合う心が気薄に感じる。近所付き合いや自治会の強化を図るべきでは。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・健康の保持・増進を図る健康づくり ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） 	

団体等名	あま市民生委員児童委員協議会
記入者	会長 井村なを子
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・法で決められた地域で訪問活動を通じて必要とする人には行政に繋いで制度、福祉サービスの情報を提供する。 ・公平公正が求められ守秘義務がある。 ・誰もが安心して子育てが出来、住み続けることの出来る地域社会の実現に取り組む。 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員、社会福祉協議会、保育園・幼稚園・認定こども園、小・中学校 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、支援を必要とする人の情報が得にくい、他の団体と交流する機会が乏しい 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・家族の介護のため子ども達が仕事を辞めなくてもいい社会。ヤングケアラーのように子どもが犠牲にならないように目を向けてほしい。介護が終わった時社会復帰が困難になり、その後の人生がまた犠牲になる。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な相談役、見守り活動や、各種サロン活動さらに災害時要援護者の支援活動など、社協と連携協働することを進める。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・各地域で自治会を立ち上げて自治会を中心に地区の様々な団体と交流をもって、それぞれの立場の違いから役割が見えてくるのではと思う。 ・民生委員は自分から助けを出せない人達に気づきつなぎ、見守り助けあう地域共生社会を連携、協働して実現をめざしている。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・街のバリアフリー化 ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備） 	

団体等名	NPO法人あま市防災ネット
記入者	理事長 河竹正幸
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に対して、防災啓発及び減災に関する事業を行い、市民防災意識の向上に係る問題の改善や解決を図り、地域の防災力の向上と安全安心の増進に寄与する（特定非営利活動法人あま市防災ネット定款より抜粋） 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、ボランティア団体、社会福祉協議会、保育園・幼稚園・認定こども園、小・中学校 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会員が入らない、道具の保管場所がほしい。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・我々は今年から「みずから守るプログラム」を始めた。愛知県建設局土木部河川課の協働事業で地域の防災に感心ある団体と一緒に水害ハザードマップ作成事業を行っている。 ・あま市としてもボランティア団体と地域住民と一緒にできる事業があればと思う。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・健康の保持・増進を図る健康づくり ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備） 	
問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者、高齢者等社会的弱者が災害時に避難できる福祉避難所が必要である。 	

団体等名	あま市心身障害児（者）保護者会
記入者	事務局 小鹿綾子
問1 団体等の概要	
・各種教室、各種交流会、広報紙（菜の花通信）発行・配布、クリスマス会、施設慰問、地域のイベントや行事への参加 等	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・民生委員・児童委員、福祉施設、社会福祉協議会、保護者会・PTA	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・活動のマンネリ化、新しい会員が入らない、市民に情報発信する場や機会が乏しい、支援を必要とする人の情報が得にくい、他の団体と交流する機会が乏しい	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・親の高齢化により、障がいのある子ども達の「親亡き後問題」 →現在はこの地域に体力（資金・人材等）のある社会福祉法人がないので近隣地域からの民間誘致を強く希望する（看取りまで出来る）。早期に実績があり、誠実に障がい者と一緒に（家族も含む）問題や課題に取り組んでくれる基幹相談支援センターの設置を強く希望する。 ・後見センター柔軟な運用。新しい会員が入会しない →運営の見直し、現状分析と新しい取り組みの確立。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の整備・運用・運営方法の確立。防災・減災に関わる全ての事。個人情報の取り扱いについて（個人情報保護法の正しい意味の解釈） →「どんな時も情報を開示しない」ではなく、必要に応じて個人情報を開示する事ができる。そして助ける事。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
・多様な人々が「その人らしく」生きていける事。障がいのある人達が軽作業や封入作業等、行政や社協の仕事を受諾できるようになる事。	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） ・街のバリアフリー化 ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） 	

問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。

- ・ 基幹相談支援センターの設置。
- ・ 福祉実践教室の内容の充実（「発達障がいへの理解」の追加）。
- ・ 海部東部障害者総合支援協議会からの提案の対応と協働。
- ・ 防災・減災に対して安全安心課との実のりある協力。

団体等名	読み聞かせサークル ぶっくっく。
記入者	代表 大北 薫
問1 団体等の概要	
・未就園児を持つ親子さんを対象に児童館などで絵本等の読み聞かせをしている。	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・ボランティア団体、社会福祉協議会	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
・以前と比べて、読み聞かせに参加される親子があまりグループで参加しなくなった。ママ友のつながりが薄くなった？	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
・行政のサービスをあまり充実させない事が重要なのでは？住民が役割を持つためには、お客様ではなく、自らが動く事が必要だと思う。	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・健康の保持・増進を図る健康づくり 	

団体等名	パールの会
記入者	代表 北野 まり子
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・美和ディーサービスの利用者の方々へのプレゼントを製作している。活動費は色々な所で販売して、その一部をプレゼントに利用している。 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・福祉課題：メンバーの高齢化とメンバーの方々の今後の歩み方が、問題。高齢化に基づき、施設の利用に変更されていく。これは、家族にとっては大事な事。家族にとって、一人きりになって事故が起こる事もある。緊急事態の対応が出来ない時はどうするか？このような問題が生じた場合の対応策は、どこの家でも問題。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・連携：メンバーの方が何時でも社協に出掛けられる、車を手配して欲しい。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域共生社会：寿会やサロンなどに行けるように、車を用意して欲しい。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・健康の保持・増進を図る健康づくり ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） ・街のバリアフリー化 ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援） 	

団体等名	小規模多機能型居宅介護施設「ふくじゅそう」
記入者	管理者 松永紀美
問1 団体等の概要	・小規模多機能型居宅介護施設
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	・ボランティア団体、民生委員・児童委員、老人クラブ、社会福祉協議会、NPO
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	・支援を必要とする人の情報が得にくい、他の団体と交流する機会が乏しい
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・あま市では、まだ隠れた要介護者が大変な状態で発見されることが多い。しかも男性の高齢者が多いと思う。男性に意識づけが必要だと思うし、デイがもう少し男性が楽しめる様な工夫が必要だと思う。 ・これからの高齢者は、①元気で美しい老人と②不健康で貧困の老人に分かれると思う。②の老人は国がお金を面を手伝い地域が柔軟に対応できるシステムができると良いと思う。 ・8050問題やダブルケアの様にHELPを気軽に出せるような社会であれば、地域の中で普通に生活ができると思う。
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員会で包括や高齢福祉課と交流ができていますので、問題があれば話をする事ができていると思う。カフェにも協力していただき、とても助かっている。できれば行事にも参加をおねがいしたいと思う。
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間のある元気な高齢者にいろんな役をつけていただき、情報収集をして活動、保育園、小学校関係、施設、病院の連けいをやっていただく。(小学生ボランティアを少しの時間、施設で活動するなど)
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・生きがいづくり(生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援) ・既存組織のネットワーク化(連携・協力体制の確立、相談窓口の整備)
問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェなどにもいろんな方が楽しめるように施設にもう少しお金を出してほしい。施設のもち出しが多い。地域の方も寄って楽しんでもらえるように開催したい。たとえば専門家による公園や体操、ダンス、落語など。 ・心の安全も必要。1人くらしの高齢者が動けない状態で発見される前に何とかしてあげてほしい。地域の人の協力が大きな助けになると思う→包括は、研修などをしてほしい。

団体等名	大字安松地区
記入者	区長 佐藤 勉
問1 団体等の概要	
・資源ゴミの整理、防災訓練等	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・自治会、民生委員・児童委員、老人クラブ、社会福祉協議会	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
・一人住まいの人の老後の見守りはどうしたら良いか。	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
・具体的な活動内容が見えない。	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
・住民自体に共生社会という、考えが根付いていない様な気がする。	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援）、 ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備） 	

団体等名	大字木田区
記入者	区長 杉藤 正法
問1 団体等の概要	
・自治会（町内会）活動	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・自治会、ボランティア団体、老人クラブ、社会福祉協議会	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・市民に情報リーダー（後継者）が育たない、支援を必要とする人の情報が得にくい、他の団体と交流する機会が乏しい	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援） ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） 	

団体等名	NPO法人ほっとネット・みわ
記入者	理事長 立松 武子
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・あま市市民活動センター運営業務（委託事業）、七宝産業会館指定管理業務（委託事業）、中間支援事業（団体、行政、事業者などの相談およびコーディネート）、創業支援事業（委託事業…あま市の特定創業支援認定事業者として）、子育て講座、食育講座（小麦っこクラブ、味噌づくり講座）、文化事業（文化会館との協働事業として、0歳からのオーケストラコンサート、クリスマスジャズコンサートなどを実施）、子ども狂言プロジェクト（2018まで4年間実施）、コミュニティカフェ「あまテラスカフェ」の運営（2021年12月末に終了） 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、ボランティア団体、老人クラブ、社会福祉協議会、小・中学校、NPO、その他 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、市民のニーズに合った活動ができていない、支援を必要とする人の情報が得にくい、活動資金が足りない、行政、事業者などとの協働が難しい 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が急激に進む中、今現在、地域活動や市民活動の担い手として活躍している世代は急激に減少すると考えられる。もっと広い世代が自分ごととして地域づくりに関われるような施策仕組みが必要だと実感する。 ・特にあま市には地域コミュニティが現在14しかない。全国的には地域コミュニティ推進を積極的に進め、地域コミュニティを柱として学校支援や、地域包括支援システムを進めている。しかし、あま市では地域コミュニティについては補助金を出すのみで、所轄及び支援はしていない。 ・また、コミュニティスクールや生活支援体制整備事業などは、部署が異なるために、効率性を欠いたり、バラバラな動きになってしまっている。このままでは、あま市の地域力は低下するばかり。 ・市民活動センターに登録しているコミュニティの代表の方の相談の多くは、若手の参加が少ない、継承がない、事業がマンネリ化しているなど、改善の余地のない悩みを抱えて疲れてしまい、士気が下がっているように思う。市民活動センターでは、地域力の向上を測るため、これまでも「コミュニティ交流会」を開催し地域コミュニティ同志の交流や、問題解決について情報交換などを行ってきた。 ・全国で「小規模多機能自治会」を推進している川北秀人氏（I I H O E：人と組織と地球のための国際研究所）を呼び、講演会を2度行っている。あま市でも、行政、住民、自治会などそれぞれの立場で、他の自治体から学んだり、情報収集したり、勉強会を行うなど、市をあげて地域力の向上に取り組み、近い将来に迫る地域の担い手不足や、大きな災害に一刻も早く備えてもらいたいと切に願っている。小規模多機能自治：小さな地域でもできること（機能）を増やす取り組みを通じて、地域力（地域の自助、共助、持続可能性）を高めること。 	

問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。

- ・市民活動センターと社協のボランティアセンターは比較的良好な関係だと思っている。それは、ボランティア運営委員会の委員長を理事長立松が務め、ボランティアセンターとの情報共有ができるようになったこと、数年前から市民活動祭とボランティアフェスティバルを「あまのわ」として共同運営で開催してきたことなどが、その要因。
- ・生活支援体制整備事業についても、各地域での協議体における地域リーダーを紹介するなども行なってきた。しかし、社会福祉協議会も行政同様、担当者の異動が多く、また民間団体にも関わらず行政的な側面が強いために、柔軟な対応に欠けるように感じる。
- ・市民活動とボランティア分野は似て非なるところがあるが、登録団体については市民活動センターと被っているところも多いため、もっと連携を深めて地域課題解決について議論し、具体的な事業に取り組んでいきたいと考えている。そのためにも、市民活動センターの主管課である企画政策課とも直接連携を図っていただきたい。
- ・かねてから提案している「ボランティア連携」についても、具体的な話し合いができないまま、すでに3年余が経過している。部署を超えて連携ができないようでは、協働のまちづくりは「絵に描いた餅」。それぞれの部署の担当者の「決めて行動する」が非常に弱いと実感している。

問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。

- ・「地域共生社会」は、注釈にあるように「地域コミュニティ」というフィールドがなければ、地域住民が活躍できる環境を整えることもできない。「地域コミュニティ」は、行政から自治を任される「自治会」とは異なり、地域をベースに自主的な活動を行う「市民活動団体」。
- ・前述の通り、あま市には、現在活動している地域コミュニティが14しかない。しかも行政が所轄していないため、勝手に立ち上がるのを待っているしかない。もちろん、1～2の地域でコミュニティを立ち上げようとする試みはあるが、なかなか難しいようにも見受けられる。やはり、地域コミュニティの立ち上げには、第3者的な立場の人間がコーディネーターや相談にのらないと、なかなか進まないと思っている。
- ・地域に住むさまざまな世代や多様な市民が抱える課題を解決するには、行政のように分野ごとに切り取った施策ではなく、包括的かつ横断的な視点で、さまざまな主体が連携・協働していくことが必要だと実感している。また、地域ごとに異なる特性やニーズをとらえながら、かつ近い将来の地域の姿を具体的にとらえながら、伴走支援を行っていく必要があると実感している。
- ・まちづくりは、地域づくりと人づくりが重要。まず、地域の人々がまちの将来や課題について自分ごととしてとらえ、小さなこととでも自ら何らかの役割を担っていこうとする意識の向上のための取り組み（教育）も、早急に必要だと切に思う。

問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。

- ・円滑な移動のための公共交通機関の整備
- ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）
- ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援）
- ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）
- ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）

問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。

- ・ボランティア連携の促進
- ・ボランティア活動を通じての地域住民の生きがいづくりと人材育成、
- ・大学生のボランティアや地域活動への参加
- ・市民病院と地域との連携
- ・高齢者の移動の利便性向上のために、デマンドタクシーおよびデマンドインフラの確立または、小型バス利用のコミュニティバスの運行
- ・小規模多機能な地域コミュニティの推進（行事ではなく事業を行い、地域内で自立した運営を行い、全ての世代が活躍できる地域づくりの推進）

団体等名	NPO法人恵泉会
記入者	理事長 服部 真光
問1 団体等の概要	
・地域活動支援センター「ホッとスペース いずみ」の運営（障がい者へ手作業を用意、障がい者への居場所提供）	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・福祉施設、社会福祉協議会	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
・私どもの事業所は、障がいをもった方々の日中活動の場だが、利用者のご家族たちは「親なき後」の生活をとても心配している。いずれ来る日のために、グループホームの利用の準備をお勧めし、私たちもグループホームとよい連携をしながら取りくもうとしている。	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
・「こんなことを相談して…」と遠慮せず、何でも相談して、ご指導アドバイスをしていただける関係をもたせていただきたいと思う。	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢化して担い手のいない農家さんから畑を貸していただき、農福連携のとりくみをしている。（株）名古屋西青果の協力をいただいて地元のスーパーの産直コーナーに野菜を出させてもらったり、地域の農家さんからアドバイスをいただいたりして助けていただいている。福祉と農業という観点から地域共生社会にとりくみたいと思っている。 ・介護の必要のないお元気な高齢の方が、私どものおこなっている障がい者福祉事業所に通いたいと言われることがよくある。介護や障がい福祉サービスという枠ではなく、ごく普通に、毎日のように通えて、仲間がいて食事もできる、ただのレクリエーションではなく、仕事のような作業ができる、といった場があったら…というニーズがあるように感じた。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・街のバリアフリー化 	

団体等名	あま市母子寡婦福祉会
記入者	会長
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活・学習支援事業への参加、各種イベント・行事の実施・参加、各種支援物資の準備・引き渡し、「ニコニコたこ配便」の実施、「みんなの食堂」手伝い 等 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体、社会福祉協議会、小・中学校、NPO 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい会員が入らない、活動の場所（拠点）の確保が難しい、活動資金が足りない 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・健康の保持・増進を図る健康づくり ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・街のバリアフリー化 	

団体等名	手話サークル七宝
記入者	会長 佐藤 美由樹
問1 団体等の概要	・研修会の実施、あま市健康福祉まつりへの参加、クリスマス交流会実施 等
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	・ボランティア団体、社会福祉協議会、小・中学校、その他
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、市民に情報発信する場や機会が乏しい、支援を必要とする人の情報が得にくい、他の団体と交流する機会が乏しい
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	・会員であるろう者及び健聴者の高齢化。活動の中止になる若い世代の加入が少ない、予備学習の場やPRする場がないもしくは少ない。ここ数年は特にコロナの影響が大きい。
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	・講座の実施方法やその後の継続、レベルアップの充実等につなげてほしい。サークル会員募集など広報や社協だよりなどに載せて呼びかけてほしい。
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	・障がいへの理解。特にろう者は外見からは分かりにくい障がいのため誤解されやすい。聞こえない事による情報障害孤立しがちである事。コロナ禍で活動PRの場がなく厳しいので理解を広めるための情報提供の場所づくり希望。（例）親子手話教室を開くなど。
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・街のバリアフリー化 ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）
問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。	・障がい当事者の意見を取り入れた福祉サービスの充実。

団体等名	あま市身体障害者福祉協会
記入者	会長 吉田 憲司
問1 団体等の概要	
・この会は身体障がい者の更生援護活動の充実及び会員相互の親睦。障がい者福祉の増進を計ることを目的する。	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・社会福祉協議会	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、他の団体と交流する機会が乏しい	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
・公共交通機関、道路、建物などにおいて利用者に移動面で困難をもたらす。物理的バリアの改善バリアフリー。災害時の避難所のバリアフリー化、合理的配慮、福祉避難所設置。	

団体等名	らんぷるうむ
記入者	代表 藤原 加世
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・津島保健所で開催されていた「不登校・ひきこもり家族の集い」への参加メンバーが中心となって2011年2月に自主グループとして発足した親の会 不登校やひきこもりの子どもを持つ親の居場所 ・2018年11月より、あま市・大治子ども・若者支援地域協議会に参加 ・2022年8月、あま市市民活動団体登録 ・2022年10月あま市社会福祉協議会ボランティア団体登録 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・その他（津島保健所） 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要とする人の情報が得にくい 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・らんぷるうむ発足当時より参加の方の中には、子どもは中学で不登校だったが、その後に高校に進むも、中退したり、また不登校になったりして社会との繋がりを持ちにくいまま20代後半になってきて、このまま今の生活を続けていく先には「8050問題」が待ち構えていると不安を持っている方がいる。中学校までは義務教育なので学校と繋がれるが、高校卒業後や中退後ひきこもると、ほとんどどこも繋がれなくなってしまう。 ・親が動けば、まだ情報を得られるが動けない、動けていない人が多数いるのではないだろうか。それぞれの家庭環境などもあり、原因はさまざまだが、家族だけで抱えてしまうとプラスになることはない。家族の支援は必須。 ・ひきこもりの人の中には不登校経験者が多いとの現実がある。不登校の低年齢化、増加しつつある中、市として、不登校対策と義務教育後の情報の連携がとても重要であることとして、早急に対策を考えてもらいたい。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会は「あま市、大治子ども、若者協議会」発足時より、参加している。団体の情報認知度が低かったが、市民活動団体に登録したことによって繋がることできた。 ・不登校、ひきこもり問題には教育、福祉の連携のほか、家族の支援も必要である。義務教育後の支援に学校教育課との連携を社会福祉協議会に関わってほしい。当事者、親の居場所づくりを関係団体と連携して取り組んでほしい。 ・「らんぷるうむ」は市民活動団体、社会福祉協議会ボランティア団体として登録したばかりではあるが10年以上地道に活動してきた。今後は、積極的にあま市、社会福祉協議会と関わりを持ち「8050問題」を含め地域の福祉課題の解決に向けて協力していきたいと強く思っている。 ※書面でのアンケートではなく、対面で各団体と協議してそれぞれの意見を聞きたい。 	

問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。

- ・不登校、ひきこもりがあっても活躍の場で一人ひとりできることをやることで人とつながり、生きがいを持てば、社会の一員として自覚を持てるようになるのではないだろうか。「心のバリアフリー」が大事。

問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。

- ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策
- ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援）
- ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）
- ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）
- ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）

問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。

- ・今回はじめて調査に参加しており、今までの計画などの情報がないので知りたい。

団体等名	ミルクキーねっと
記入者	代表 牛田 涼子
問1 団体等の概要	
・料理教室実施、各種子育て交流会実施、母親（保護者）向けの教室実施 等	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・ボランティア団体、社会福祉協議会、その他	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・新しい会員が入らない、市民に情報リーダー（後継者）が育たない、活動の場所（拠点）の確保が難しい、活動資金が足りない	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が心配されているが、あま市は現在世帯数としては増えているのだろうか（9月1日現在では、44世帯とおどろき） ・10年後、20年後を考えるとバリアフリーなど環境整備していくことが大切だし、近所では空き家対策なども気になる。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・現在、生涯学習講座を委託され、企画運営している。対象が、乳幼児とその家族だが、安心安全に使える部屋がない。公民館和室は障子や襖を破ってしまうおそれがあるため使いにくい。唯一 甚目寺公民館2F郷土資料室がカーペット敷きだが、舞台装置が常に置いてあり、邪魔で危険。公民館福祉センターなど沢山ある会議室のひとつをカーペット敷きの部屋にしてほしい。 ・一般の人も使える子どもに優しい部屋をお願いしたい。 	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・広報やSNS等、情報発信できていると思う ・立場や部署により講習もあるかと思うが、横の繋がりが希薄な様に感じている。同じ様に活動をしている団体（行政も）とコラボできるとお互いに利点になると思う。 	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） ・ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援） ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） 	

団体等名	NPO法人ママ・ぷらす
記入者	理事長 川原 史子
問1 団体等の概要	
・子育て支援（英会話教室、親子教室、保護者向けのリフレッシュ活動）、まちづくり 等	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
・ボランティア団体、社会福祉協議会、保育園・幼稚園・認定こども園、小・中学校、NPO	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
・支援を必要とする人の情報が得にくい	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ期間の影響が長びくことを懸念している。 ・この2～3年の間に妊娠、出産した母親が親同士の交流（ママ友づくりの機会）が少ないまま育児を終え、職場復帰している。育児についてのちょっとした悩みを共有できる相手がない状況で、今後の子育てをしていくことになるので、問題が深刻化しやすいと思われる。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
・日頃より私共活動にご理解ご協力を賜り感謝している。	
問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。	
・まずは若い世代に地域へ関心をもってもらうことが先決かと思う。	
問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 ・円滑な移動のための公共交通機関の整備 ・既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備） 	
問8 地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決にボランティアの活躍を期待するのは今後ますます難しくなるのではないだろうか。 ・経済的に厳しい世帯が増え、また高齢になってからも働く人が増えていく中で、地域活動の担い手を確保する為には、その魅力を発信していく必要があると思う。 	

団体等名	美和おはなしグループ グー・チョコキ・パー
記入者	代表 清水 留衣子
問1 団体等の概要	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月第2土曜日に美和図書館にて、手遊び、読みきかせ ・お正月あそび（50人単位） ・図書館まつり（100人単位） ・子どもによる子どもの為の読みきかせ（年2回） ・子どもたちのかみしばいリレー ・駄菓子屋さん ・夏の文化の杜を使つての虫取りイベント ・その他依頼があった時、すみれの里や児童館へ出向く ・児童館への出張読み聞かせ。 	
問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会、保育園・幼稚園・認定こども園、小・中学校、その他 	
問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。	
<ul style="list-style-type: none"> ・活動のマンネリ化、新しい会員が入らない 	
問4 今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。自由にご記入ください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成4年の結成以来、30年が経過。世相の移り変わりの故か、子どもが幼稚園、保育園に通うようになると、若いお母様方は余剰時間をボランティアに！と言うより働きに出てしまわれ、新しい若いメンバーが増えない。 ・どうしても、比較的時間のある60代前後の世代がメンバー募集に足を運んで下さるのが実情。 ・現にこのグループの平均年齢も60代で、一番若いメンバーが40代1人。先行きが読めない。 ・ボランティアにはある程度義務も生じるので、ただ楽しい！だけでもすまない点があつて、新しいメンバーの理解を得るにも気づかいをする。 ・グー・チョコキ・パーは図書館との協力体制あつてのイベント成功につながるので、来年度以降、図書館の管理指定業者が変わるので、そこも一抹の不安材料。 	
問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。	
<ul style="list-style-type: none"> ・練習の為の部屋予約や公演（すみれの里）の折りには、マイク設定など、本当に良くしていただき、感謝している。 ・社協だよりに、各グループの活動の様子を温かいコメントとともに写真を多用して掲載して下さる事も、活動の励みになっている。今後も積極的にグループ活動のP. R. をお願いしたい！ 	

問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。

- ・グー・チョコキ・パーは子ども文化の発展と豊穡を願いながら様々な年代を活動に巻き込んで継続してきた。子ども達だけのお話会（読み手も進行も子ども達）パパとグランパのおはなし（お父さんとおじいちゃんが読み手）通常のメンバーによるお話会（ここに中学生や高校生のボランティアが折々に入る）異年令、異年代との交流こそが人流の基本（それが「地域共生社会」の実現につながっていくので！）と思うので規模は小さい活動だが途切れる事なく実施している。
- ・コロナで実行できてないが、かつては「ひまわり作業所」にも月一回、お話の会を開催していた。高齢者施設で子ども達がお話会を実施する、とういう計画もなかなか実現できずに居るのが残念。

問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。

- ・健康の保持・増進を図る健康づくり
- ・ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）
- ・街のバリアフリー化
- ・地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）
- ・地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用）

3 対面ヒアリング結果

概要

団体アンケート調査にご回答いただいた市内の関係福祉団体等のうち、大字上萱津区、NPO法人あま市防災ネット、医療法人フジタ（ふくじゅそう）、NPO法人恵泉会、らんぷるうむ、ミルキーねっとの6団体について対面によるヒアリングを実施し、あま市の地域福祉に対する認識や課題等をお伺いしました。

実施日程

	日時		対象団体名	場所
1	令和4年	13:30~	大字上萱津区	上萱津コミュニティ防災センター
2	12月19日(月)	15:30~	ふくじゅそう	ふくじゅそう
3	令和4年 12月20日(火)	09:30~	NPO法人 あま市防災ネット	甚目寺庁舎 3階 第4会議室
4		13:30~	NPO法人 恵泉会	ホッとスペースいずみ
5		15:30~	ミルキーねっと	本庁舎 2階 大ホール(東)
6		16:30~	らんぷるうむ	

ヒアリング内容

団体等名	大字上萱津区
●協力しているボランティア団体や地域での活動について	
<ul style="list-style-type: none"> ・女性の会、老人クラブ（長生会）、子ども会の3団体がメイン。 ・民生委員・児童委員については、自主防災会の中の民生委員から、顧問のような形で助言や指導を受けている。 ・女性の会や子ども会の役員に自主防災会の役員として入ってもらっている。 ・地域のイベントについては、コミュニティ協議会との共催で実施している。上萱津区では防災センターがあるため、区でありながらコミュニティ事業もやっているような形。 ・あま市内の自治会が47程度あるのに対し、コミュニティ協議会は13~14しかない。 	
●活動を行う上での困りごとについて	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集・共有が課題。 <ul style="list-style-type: none"> →囑託員会（町内会長会）で意見を拾っている。 ・情報発信手段として、年2回町内だよりを発行し、配っている。 ・住民から意見をもらう所までは達しておらず、現段階では情報を伝えるにとどまっている。 <p>※なぜ自治会に入っていない人にも自治会活動を通じた利益を受けることができるのか、というクレームが来たこともあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員について、戸建てとアパート入居者では加入率が違う。また、区費の額も違う。 <ul style="list-style-type: none"> →戸建ては加入率30%くらい、アパート入居者は加入率55~60%くらい ・アパート入居者の会員について、区費が共益費等でオーナーが支払うことが多いため、「区に入っている」という意識はないのではと感じている。 ・区に入るメリットがないため、脱退する人もいる。 <ul style="list-style-type: none"> →2022年3月に、組長が出せなくなったことで組ごと区から抜けたという事例が2ヶ所であった。この流れが連鎖してしまう可能性があり、今が過渡期なのではと考えている。 ・旧甚目寺のエリアでは、転入者が多く、人の出入りが多いため組織の維持が難しい。 ・会員を増やすために、加入者にも未加入者にも等しく情報を流すようにしている。 	
●市や社会福祉協議会等との連携について	
<ul style="list-style-type: none"> ・区長の受け持ち業務について、全員が同意してくれているわけではない。また、全ての情報を区が受けている（持っている）わけではない。 <ul style="list-style-type: none"> →それぞれの区によって事情がある？・・・自主防災はどうやってやるのか分からない、名簿がどこにあるのか分からない 等 →行政から各区に指導を入れるべきではないか？ ・防災について、安全安心課と民生委員・児童委員の横のつながりがない。 ・上萱津区では、令和5年度より自主防災会長と区長を分ける予定をしており、民生委員と情報の取り扱いを協議する予定となっている。 <ul style="list-style-type: none"> →自主防災会長は地元の組長ともタッグしていくことが必要。 →社会福祉課から区への指導が必要ではないか？（民生委員への研修 等） ・SDGsの時と同様に、民生委員の機関誌に研修会の案内を掲載してはどうか。 	

<p>→避難行動要支援者名簿の「使い方」のレクチャーの実施、各地区で勉強会の実施を通じて、組長まで落としこんでおかないと、何かあったときに困ってしまうのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターが持っている情報について、例えば死亡者や高齢者台帳の情報を民生委員にも共有できるようにしてもらえないか。 ・NPO法人あま市防災ネットとのかかわりについて、令和3年度に防災ネットに依頼して防災研修を行った。また、同年に赤十字奉仕団と救急講習を実施し、自主防災会の役員として参加した。 ・災害時は区や自主防災会に入っている人も入っていない人も等しく助け合い、対応することが必要になる。 <p>→そうすると、区や自主防災会に入らなくても良いのでは、という考えの人も出てくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿の中には、区に加入していない人も入っているかもしれない。 <p>→そうすると、組長からアプローチがかけられない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは時代的に新規会員の取得、組織の現状維持も難しくなってくると考えている。
<p>●市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の整備をお願いしたい。(岩倉市などでやっていたデマンド交通の整備等) ・社協のいきいきサロンを区も活用したいが、区はそこまでフットワークが軽い。
<p>●市や社協に期待することについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの時などに、コロナ禍でもできるイベントを実施したい。(夏祭り等) <p>→区は毎年役員が変わってしまうが、イベント等は継続的にやっていると良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナで3年ほどイベントは実施できていないが、コミュニティ協議会としては「やめる」という考えはない。
<p>●さいごに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上萱津区は入ってくる人は少ないが、出ていく人は多い。自治会加入に関して、金銭的なハードルを下げたい。 ・避難行動要支援者名簿の使い方の指導を実施してほしい。 <p>→民生委員への研修→区長へのレクチャー→組長へのレクチャーの流れができるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者名簿の加除の情報を随時行ってほしい。

団体等名	小規模多機能型居宅介護施設「ふくじゅそう」
●協力している団体や地域での活動について	
<ul style="list-style-type: none"> ・主に、個人でボランティア活動をしている方、提携病院の薬局のグループの方、飛び込みで来られる方、地域医療サポーターの会の方などに、連携・協力をしていただいている。 →コロナになってから連携ができなくなっている。 ・大きいイベントを実施し、皆で楽しみたい。 →特に、男性の方の参加を促進させたい。 →地域ごとにやっても良いが、もっと大きな範囲でビッグイベント的に開催されるとより楽しめるのではないだろうか。 	
●交流活動について	
<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代との交流や、介護現場見学・介護教育など、様々な取組をしたい。 ・施設としては、積極的に地域との交流を図っている。 →デイサービスの中で情報収集をし、レクリエーションに取り入れる 等 ・支援が必要な人や、いわゆる「隠れた要介護者」は、いつも困った状況・どうしようもない状況になってから連絡が来ることが多い。 →もっと手前の段階で把握できていれば、ひどい状況にならずに済むのではないか。 ・支援が必要な人は主に1人暮らしの男性が多い。また、貧困の方もいる。 ・地域包括支援センターからの協力要請に応じていただいているが、地域の人も様々な情報を把握できると良い。 ・ふくじゅそうの場合、伊福のコミュニティ協議会にある「お助け隊」と連携を取っており、「お助け隊」でフォローしきれない場合にふくじゅそうに連絡が来るような形になっている。 	
●隠れた要介護者の発見について	
<ul style="list-style-type: none"> ・個人との関係づくりの中で、病院も巻き込めると良い。 →高齢者は医師のアドバイスには耳を傾けることが多いので、医師による地域の集まりへの参加・協力は大きな影響があると思う。 ・近隣地域との交流について、ポプラ主催の認知症カフェである「ふれあいカフェ」には高齢福祉課の職員も参加者あるいは運営手伝いとして来てくれることがある。また、伊福のカフェにも参加し、カフェ同士の連携も図っている。 <p>※費用面について、市からも補助金が出ているが、もう少し財政支援があれば実施回数の増加や内容の充実につなげることができるので、考えていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カフェの利用者に声掛けをしてもらう・ボランティアとして参加していただくことで、つながりができる。そして、そのつながりの中で情報の共有や伝達が行われる。実際にそこから分かった事例もある。 ・支援について、当事者が支援を拒んでしまう可能性がある。 →地域の方が心配し、地域の方から連絡が来ることもある。 	

●顔の見える関係づくりについて

- ・権利擁護について一般的にはあまり知られていないのではないか。
- ・社協とのかかわりについて、地域包括支援センターとはかかわりがあるが、社協と直接的に連携やかかわりがあるかは分からない。
- ・社協がやっている生活支援体制整備事業を知らず、社協にも盛り上げて欲しいことと、地域の元気な高齢者にもっと声をかけてほしい。
- ・権利擁護支援センターについて、名称が固いのではないか。もっと広く親しみやすい名前の方が良いのではないか。広報の仕方にも工夫が必要であると思う。
- ・認知症カフェについて、家族による声かけや宣伝がある中で、家族支援もやっていきたい。また、小さいころから認知症などについて知っておくことが大事なのでないか。（社協の認知症講座などを通じて、理解促進を図る 等）

団体等名	NPO法人 あま市防災ネット
●協力している団体等について	
<ul style="list-style-type: none"> ・学校関係との連携について、学校からの依頼を通じて小中学校を対象に防災教室を実施している。内容については、学年ごとにカリキュラムを決めている。 ・子育て支援課からの依頼で、私立保育園6か所で保護者向けに防災に関するレクチャーを行った。コロナで延期しており、残り3か所で実施予定。 ・自治会とは避難訓練でかかわりがある。 ・ボランティア団体とのかかわりについて、国際交流ということで外国人向けに防災に関する講座を実施している。(外国人に避難時の食事が合うかどうか。おにぎりや仕切りの作り方のレクチャー。トイレの作り方・やり方のレクチャー 等) ・有償は厳しいが、日本語が分かる外国人の方にボランティアとして通訳を頼みたい。 →各国語版の防災マニュアルと伝えてもらう 等 ・地域のサロンに呼ばれ、紙スリッパの作り方・使い方や、非常持ち出し用の必要物、トイレのやり方等をレクチャーした。 ・障がい者団体など、基本的に依頼があればあらゆるところに行くようにしている。 	
●活動について	
<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県建設局土木部河川課の「みずから守るプログラム」に参加し、ハザードマップの作製や大雨時の避難訓練を実施している。 ・作ったハザードマップは、地元の人に実際に見てもらわないと正しいかどうか分からない。(実際に作ったハザードマップを地元の人に確認してもらったら、その場所は水に浸かってしまうと指摘されて作り直すことになった) ・障がい者についての情報は、守秘義務があって入手できず、分からない。 ・家具固定支援について、年間で90件募集している。(65歳以上、障がい者、母子家庭が対象) →上記対象者以外にも広げたいが、安全安心課としては支援が必要な家庭を対象としている。 	
●避難所について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハザードマップ作成のために町を見回る中で、福祉避難所の必要性を確認している。 →高齢者や障がい者は、市が指定している41か所の避難所では過ごすのが難しいのではないかな。 →しかし、避難所の運営については分からない。医者や看護師がいると良いと考える。 ・防災マニュアルには、学校の教室を貸してもらうための話し合いをする旨が記載されているが、各学校の校長先生はその事について認知していない。(コロナの方を先に対応することになっている) →協定が必要なのかな？市の発信がよくないのかな？ →避難所について、学校との話し合いが進んでいないのではないかな？ ・災害時の対応については、市や社協が陣頭に立ってほしい。 →防災ネットでは責任が持てず、市や社協から依頼されてから動くことになるため。 	

●団体の困りごとについて

- ・現在、会員は24名。
 - 新規会員が不足している。
 - 活動は平日に行っているが平日は仕事をしている人が多いため、一緒に活動できる人が限られる。
- ・会員は誰でもOKだが、誰も会員に入らない。また、「無償ボランティア」に拒否感を持つ人もいる。

※防災は命にかかわる仕事になるため、講習会等での時間の区切りは厳密にやるようにしている。
(定刻が来たら終える 等)

- ・学校とのかかわりについて、学校側の財政の問題がある。
 - 仕組みとして、「仕事」の講座を実施する場合、防災にはお金が出せない。
 - 小学校について、今までは全学年を対象に防災教室を実施していたが、令和4年度から学年が絞られるようになった。(お金の関係なのか?)

※子どもにとって災害は心身ともに負担が大きい。

→そのため、「楽しみながら」防災を教えることを心がけている。

Ex. ロープの使い方をマジックとして教える、あま市の地図を古地図も用いながら歴史とあわせて紐解いていく 等

- ・現在、団体で使用する道具は分散して保管している。(ほとんどが会長の家)
 - そのため、保管場所が必要。倉庫があれば良いが・・・

※防災教室のための資料や、スコップ、炊き出しの道具などがあり、置き場所がない。

→安全安心課にも伝えているが、なかなかいい返事がない。

団体等名	NPO法人恵泉会
●協力している団体等について	
<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー※が入っているグループホームの方々との交流・連携・かかわりがある。 →メンバーの親から相談があった場合、グループホームを紹介している。また、グループホームに情報提供を行うほか、グループホームから情報提供を受けている。 ・もともとあま市に福祉作業所を持っていたが、稲沢市に移した。しかし、「作業」が厳しい方がいる中で、まずは家を出てホッとできる居場所が必要であるということで、ホッとスペースいずみを作った。現在は作業所から作業を持ってきたり、スペースから作業所に行ったり等、作業所間連携・グループ内連携をしている。 ・社協以外との連携について、訪問事業所など障がい者関連の施設とかかわりがある。 <p>※メンバー：恵泉会が運営している「ホッとスペース いずみ」、「福祉作業所いずみ」に所属し、作業をしている障がい者の方</p>	
●活動について	
<ul style="list-style-type: none"> ・農福連携について、管轄は稲沢市の福祉作業所。 →以前は漬物づくりやお菓子づくりをしていたが、制度が変わったことでお菓子づくりしかできなくなってしまい、それだけでは賃金がわずかになってしまう。 →そのため、福祉に特化した農業を始めることにした。(地元の農家の方と知り合い、農作放棄地を借りて事業を始めた) ・農業を始めるにあたり、売り先の確保が必要になる。(地元のスーパーに卸す 等) →元区長とのつながりから広がり、名古屋西青果株式会社とのつながることができた。名古屋西青果側も、福祉施設と協力したい意向があった。 ・農福連携を進めるためには、農業に取り組めるNPO法人、農作物を売りに行ける市場、農協など専門的な知識がある人、行政の連携が必要。 →これらをネットワークとして作っていくことが必要である。(今は個人のつながりでやっているため) ・福祉施設での作業は単価が安いから依頼されがちである。 →そうではなく、「主体的に」やっていくように活動している。 <p>※就労継続支援B型作業所は、あまり仕事をもらえない。 →そのため、自主事業を立ち上げないと仕事が安定しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉作業について、障がい者の能力を引き出すことはできるが、能力を活かす仕事を継続的・安定的に供給することが難しい。 →その中で、農業の分野は担い手が少ない一方、手伝いだけでは厳しい。 →そのため、自主的に農業をする、という形をとっている。 ・その一方で、後継者問題がある。(スタッフを育てるには?) →三重県では、農福連携のためのジョブトレーナー研修が行われている。 ・メンバーによる、作業面、管理面でスキル習得が必要。 ・「農業」と「福祉」のどちらがイニシアティブをとるのかを考えることも重要。 →メンバーのために農業をやっているのに、経営のためにメンバーへプレッシャーをかけるようなことはしてはならない。 	

●高齢者について

- ・アンケート調査にも書いたように、制度の枠を超えた居場所や機会があると良い。
→障がい者ではない高齢者の方から、いずみを使いたいという声もあるのだが、制度や管轄が違うため応えることができない。
- ・高齢者の方は、「自分で何かを生み出す作業をしたい」という気持ちを持っている。
→シルバー人材センターまではいかなくとも、活躍の場が欲しい。
→活躍の場があることで、高齢者の健康にもつながる。
- ・制度の「すきま」にあるニーズをどう満たしていくかが課題。

●地域と障がい者のかかわりについて

- ・障がい者の集いの場ということで、地域には気を使っている。(地域から偏見がある、心配されている)
→近隣に挨拶に行くと同時に、自分達の活動を紹介している。
→そうすることで、地域の人たちが作業所を見に来てくれる、野菜を買ってもらう。
- ・自分達がやっていることを「見える化」することが大事。自分達がやっていることが伝わっているかどうか、地域の理解を得られるかにつながる。
- ・稲沢市役所で、お昼休みの時に出店していた。(今はコロナのため辞退している)
→「稲沢市内の福祉作業所」が活動していることを紹介する。
→市役所という公的な場所でやることで、団体に対する信頼を得ることができ、つながりづくりにもなる。
- ・稲沢市のような取組があま市にもあると良い。
→今はスーパーマーケットに卸しているが、それだと野菜に対する感想がもらえない。
→市役所内で出店することで、例えば市の職員が購入しに来てくれたら、その職員と顔見知りになれるのではないかと。

●心理的ハードルについて

- ・心理的なハードルとは、「相談しやすいかどうか」
→つながりができることで、かかわるためのハードルが下がるのではないかと。

●東京の会社の事例

- ・ある企業で、行政の優先調達に注目し、データ入力作業を福祉作業所に振り分けた。(福祉と結び付けたい、という考え)
- ※個々の事業所が頑張っても、メンバーとやっていくことが精いっぱいであり、新しいものを生み出す力がない。
- ・同じ仕事でも、地域で振り分けていくことで、スキルが上がっていき、作業所を育てていくことができる。
→行政が外注する仕事を福祉作業所に振り分ける枠組みを作る。
→地元の雇用を地元で担う・・・地産地消にもつながる。
→行政と福祉施設でつながりができる。
 - ・地域には思わぬ人材が潜んでおり、きちんと育てていけば、マンパワーは高いと考える。

●顔の見える関係について

- ・お互いにどういう所なのか、どういう人なのか、どういう人柄なのかを理解しあうことが重要。
→そこを通じて、ネットワーク・人脈づくりが大切。

●犯罪をしてしまった障がい者への支援について

- ・犯罪をしてしまった障がい者への支援について、背後にケアをする人が必要
→E x. 日中：作業所の見守り、夜間：グループホームでの見守り。

団体等名	ミルキーねっと
●協力している団体等について	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア団体との連携：にこり park（子育て支援の団体）、あま・わくわく子育てネット、美和おはなしグループ グー・チョコキ・パー 等 →市（生涯学習課）からの委託で年間 10 回講師をしている。 ・社協とのかかわりはあまり深くない。 ・メンバーの中に栄養士がおり、アレルギーに配慮している。また、あま市アレルギーの会ともかかわりがある。 	
●活動を行う上で困ってることについて	
<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員の募集方法：Instagram の開設、ボランティア募集のチラシ・ポスター、「もこもこの会」にうかがい、保護者にアンケート実施+ボランティア募集 →E x. 講座が終わる 10 分間でコミュニケーション+アンケート実施 →よほど困ったことがあれば、行政や保健師と連携を図ることもある。 ・リーダーが育たない。 →メンバーは皆、仕事を持っており、その中で活動をしている。 →若いメンバーはひと段落したら仕事に復帰する。また、世代によっては親の介護も出てくるため、活動が十分にできない場合がある。 ・活動場所：市内の 3 つの公民館、児童館、総合福祉センター →会費は取っておらず、収入がないため、活動は自費になる。（市からの委託費は事業に関わる分のみなので、施設代等は含まれていない） ・公民館は活動場所としてつかいにくく、児童館やすみれの里を使いたい。 	
●課題について	
<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が進んでいることについて、仕方ないとはいえ心配している。 ・活動場所について、空き家を活動場所として使用できると良い。 	
●市や社協等との連携について	
<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習課には課題が伝えきれていない。 ・教育長にも話をしたことがあるが、受け止められていないと感じている。 ・社会福祉課とのかかわりは今のところない。また、障がいのある子を持つ保護者とのかかわりもない。 ・障がい児の親は、障がいについてよく勉強しているが、一般家庭の親は障がいについて分かっていないと思う。一般家庭に障がいについての認識を聞きたい。 	

●市として力を入れていくべき施策について

- ・特に、「地域交流事業の促進」の内容が重要であると考える。
→子どもたちにとっては、小学校区単位の範囲の方が動きやすい。
- ・個人情報の扱いが課題。
→電話番号を簡単に教えてもらえない。
→交流を重ねて信頼を深めていくことが必要。
- ・市への連絡について
→学校教育課には連絡しやすいが、子育て支援課、社会福祉課への連絡はほぼしない。
- ・社協は自助が弱いのではないかと感じている。

●その他行政への要望について

- ・子ども食堂・・・愛西市の事例
→個人情報を保護しつつ連携しており、情報が必要な人に行き渡るように行政として動いている。
→あま市も愛西市をモデルケースとして実施してほしい。
- ・行政の「縦割り」を何とかしてほしい・・・どこに相談して良いか分からない。
- ・活動拠点がほしい。

団体等名	らんぷるうむ
●協力している団体等について	
<ul style="list-style-type: none"> ・連携している団体等：津島保健所、あま・大治子ども・若者地域協議会、あま教育福祉支援ネットワーク ・生涯学習課から相談窓口業務を受託している。 ⇨その他の市の各課とはあまりかわりがない。 ・行政とよりかわりを持ちたい。 →らんぷるうむからの意見が吸い上げられていない、活かされていないのではないか。 	
●団体について	
<ul style="list-style-type: none"> ・情報の入手方法：チラシの配布、ブログ等・・・連絡を入れてくれる方もいる。 ・現在、登録メンバーは5名。講座ののべ参加者は70名。(海部地域、一宮市、弥富市等) 	
●課題について	
<ul style="list-style-type: none"> ・義務教育後のつながりづくりが課題であると考える。 →市役所内で、学校教育課や学校から不登校児の情報は共有されていないのか？ →相談員も含め、庁内の横の連携が必要ではないか。 <p>※不登校と引きこもりはつながる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母親を支援すると、子どもも変わる。 →らんぷるうむとしての親への支援：来ていただいて、思いを吐き出してもらう。電話相談や直接対面もしている。 	
●市や社協とのについて	
<ul style="list-style-type: none"> ・市では生活困窮者自立支援窓口を設置し、引きこもり支援や相談をしているが、その事を知らなかった。 ・社協には誰でも気軽に集えるようなコミュニティ、カフェといった、居場所づくりを期待したい。 →愛西市では、社協で居場所を用意している。 ・社協とも連携して新しいことをやりたい。 →代表は日常生活自立支援員として社協に籍を置いているものの、社協とはなかなか繋がっていない。 	
●心のバリアフリーについて	
<ul style="list-style-type: none"> ・心のバリアフリー：特別視しない、偏見を持たない、個性として認めること。 	

●市として力を入れていくべき施策について

- ・既存組織のネットワーク化が重要であると考える。
→様々な所で同じようなことをしているのに、連携できていないのではないか？
- ・福祉の総合相談支援窓口を作してほしい。
- ・重層的支援体制整備も進めてほしい。
- ・民生委員になったメンバーの事例
→民生委員の業務として、高齢者世帯の訪問があるが、引きこもりの子（65歳未満と同居している高齢者）がいると訪問対象から外れてしまう。
※行政としては、どの高齢者世帯に引きこもりの子がいるのかの情報が広にくい
→学校教育課が持っている情報を共有するなど、連携が必要ではないか。

4 団体アンケート調査結果からみる あま市の地域福祉の課題と今後の方策

1 他団体・他機関との交流・連携について

他団体・他機関との交流・連携について、「社会福祉協議会」が最も多く回答されており、次いで「ボランティア団体」、「小・中学校」となっています。

この結果からも、福祉に携わっている各団体や事業者にとって、社会福祉協議会が最も主要な交流・連携先となっていることがうかがえます。そのため、社会福祉協議会の動きに期待する意見もあり、社会福祉協議会が実施している各種事業の積極的な周知・利用促進や、社会福祉協議会からの働きかけを通じ、交流・連携や協力関係を一層深めていくことが求められます。

2 活動を行う上での困りごとについて

活動を行う上での困りごとについて、「新しい会員が入らない」が最も多く回答されており、次いで「支援を必要とする人の情報が得にくい」、「リーダー（後継者）が育たない」となっています。

新規会員が入らないことについて、自治会・町内会においては転出・転入の頻度の他、会費等の金銭面の問題や、自治会・町内会に入ることのメリットが感じられていないといった問題があります。また、各種団体についても、活動日が平日であることにより、仕事等の関係で一緒に活動してくれる人が集められない、といった問題もあります。今後は、新規会員の取得だけでなく、組織の維持そのものも難しくなるのではと懸念されています。

情報の扱いについては、多くの団体が課題として捉えています。情報収集については、活動の中で収集・共有したり、つながりを作ることで入手をしていくことといった方法をとっている団体もありますが、個人情報が含まれる場合は入手が難しく、支援につなげることが困難な場合があります。また、行政や社会福祉協議会等が持っている情報を共有してほしいという意見もあり、情報の取扱いに十分注意しつつ、情報の共有・連携体制を強化していくことが重要であると考えられます。

3 今後起こりうる課題について

今後起こりうる課題について、全体としては新型コロナウイルス感染症の影響があげられます。新型コロナウイルス感染症によって、多くの団体で事業や取組が縮小・中止しており、十分に活動ができていない状況がうかがえます。また、新型コロナウイルス感染症によって、例えば子育て中の母親の孤立化など、様々な場面で交流の機会、つながりの機会が減少していることが懸念されています。感染予防対策の徹底や、イベント等の開催基準の提示など、行政の立場で各団体の本格的な活動再開を後押しし、つながりづくりの支援をしていくことが必要です。

また、高齢化も大きな課題として捉えられています。団体に所属しているメンバーの高齢化により、役員のなり手がいない、所属メンバーが介護者として親の面倒を見るため活動に参加できない、といった問題が生じており、高齢化の進行は今後の団体の活動に影響を及ぼしていることがうかがえます。団体の魅力発信や取組の紹介など、各団体に興味を持つ、参加するきっかけづくりをしていくことが重要であると考えられます。

4 市や社会福祉協議会との連携の課題、望むことについて

市や社会福祉協議会との連携の課題、望むことについては、市と社会福祉協議会、市と団体、社会福祉協議会と団体といった各所の連携の一層の強化があげられます。

市との連携については、例えば防災関係の分野について担当課や関連課同士の連携を通じた支援をしていくなど、市内連携の強化が期待されています。

また、行政、社会福祉協議会によるリーダーシップも求められています。特に災害時の対応については、各団体では判断できない部分が大きいため、行政、社会福祉協議会が陣頭に立って対応していくことが期待されています。

5 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策について

市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策について、「高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策」が最も多く回答されており、次いで「円滑な移動のための公共交通機関の整備」、「街のバリアフリー化」、「地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）」となっています。

住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくことは、市民と同様に団体も重要であると考えられており、地域福祉をはじめとする福祉施策を一層強化・推進していくことが必要です。

また、「既存組織のネットワーク化」を重要視する意見もあります。相談窓口などについては行政や社会福祉協議会だけではなく、各種団体でも実施されているため、それぞれが連携を図ることで、支援が必要な人の情報共有等を通じて、より迅速に支援につなげられることが期待されます。

1 市民向けアンケート調査票

あま市 地域福祉に関するアンケート調査

・・・ アンケート調査ご協力をお願い ・・・

皆様には、日頃からあま市の福祉の推進にご理解とご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

現在、あま市では、『ともに想い ともに創る ずっと大好きなまち“あま”』を将来像に掲げ、地域の力を結集する共創のまちづくり「共創」、持続可能な魅力・活力あるまちづくり「持続可能」、次代につなぐまちづくり「次代へ」を大切にしたいまちづくりを進めております。

この度、あま市では、平成31（2019）年3月に策定した「第2次あま市地域福祉計画及び第2次あま市社会福祉協議会地域福祉活動計画」の見直しを行うこととなりました。地域における様々な課題の解決に向けて、市民と行政がともに、地域福祉を推進していく上での指針となるこの計画を、現在の多様化・複合化するニーズに応じていけるようにするため、地域に対する意識や今後の地域福祉のあり方について、市民の皆様にご意見をお聞きし、計画策定する際の参考とさせていただきたいと考えております。

なお、調査の対象者は、あま市にお住いの18歳以上の方3,000名を無作為に抽出させていただきました。また、この調査は無記名でお願いするものであり、調査の結果は、目的以外に使用することは一切ありません。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートのご回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年10月

あま市長 村上 浩司

アンケートのご記入にあたってのお願い

- ご回答は、あて名のご本人にお願いしますが、ご家族の方や一緒にお住まいの方とご相談いただいてもかまいません。
- ご回答は、あてはまる番号を○で囲むか、回答欄に回答を記入してください。
「その他」を選択する場合は、（ ）内になるべく具体的な内容をお書きください。
- ご記入いただいた本調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて10月28日（金）までにポストへ投函してください。
- ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは下記の担当までお願いいたします。

【お問い合わせ先】あま市役所 社会福祉課 社会福祉係 電話（052）444-3135

1 あなた自身についておたずねします。

問1 性別をお答えください。(○は1つだけ)

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

問2 年齢をお答えください。(○は1つだけ)

1 18～29歳	3 40～49歳	5 60～69歳
2 30～39歳	4 50～59歳	6 70歳以上

問3 主な職業についてお答えください。(○は1つだけ)

1 農林水産業	6 学生
2 自営業(商工業・サービス業)	7 家事専業
3 会社員・団体職員	8 無職
4 公務員・教員	9 その他()
5 パート・アルバイト	

問4 家族構成をお答えください。(○は1つだけ)

1 単身世帯(ひとり暮らし)	4 親と子と孫(三世代世帯)
2 夫婦のみ世帯	5 その他()
3 親と子(二世代世帯)	

問5 あま市での居住年数をお答えください。(○は1つだけ)

1 1年未満	4 5年以上10年未満
2 1年以上3年未満	5 10年以上20年未満
3 3年以上5年未満	6 20年以上

問6 お住まいの小学校区についてお答えください。(○は1つだけ)

1 七宝小学校区	9 甚目寺小学校区
2 宝小学校区	10 甚目寺南小学校区
3 伊福小学校区	11 甚目寺東小学校区
4 秋竹小学校区	12 甚目寺西小学校区
5 美和小学校区	13 わからない()
6 正則小学校区	※小学校区が分からない場合は、以下のように ご記入ください。
7 篠田小学校区	(例)住所:あま市甚目寺二伴田76番地
8 美和東小学校区	→「あま市甚目寺二伴田」と記入

問7 あなたは、「福祉」に関心をお持ちですか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------|-------------|
| 1 とても関心がある | 3 あまり関心がない |
| 2 やや関心がある | 4 まったく関心がない |

2 地域との関わりについておたずねします。

問8 あなた(もしくは、あなたの家族)は自治会・町内会に加入していますか。(○は1つだけ)

- | |
|-----------|
| 1 加入している |
| 2 加入していない |

問9 普段、近所の人とどの程度の付き合いをされていますか。(○は1つだけ)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 特に用事がなくても行き来し、世話をしたりする家族同様の付き合い |
| 2 良く行き来はするが、家庭の中までは立ち入らない |
| 3 顔をあわせれば立ち話をする程度 |
| 4 顔をあわせれば挨拶する程度 |
| 5 ほとんど付き合いがない |

問10 あなたは、自分と地域の人たちとのつながりが強いと感じますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 強いと思う | 3 どちらかといえば弱いと思う |
| 2 どちらかといえば強いと思う | 4 弱いと思う |

問11 今後も現在の地域で暮らしていきたいと思いませんか。(○は1つだけ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 3 市内の他の地域へ移りたい |
| 2 当分の間住み続けたい | 4 他の市町村へ移りたい |

【問11で「3 市内の他の地域へ移りたい」「4 他の市町村へ移りたい」に回答された方のみ】

問11-1 移りたいと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------|
| 1 学校や公共施設から遠い |
| 2 買い物など日常生活が不便である |
| 3 治安や公害など生活環境が良くない |
| 4 医療機関や福祉サービスが充実していない |
| 5 文化や教育の面で環境が良くない |
| 6 近所付き合いがわずらわしい |
| 7 地域になじめない |
| 8 その他 () |

問12 あなたは、最近1年間に地域活動や行事（お祭り、清掃活動、防災活動等）に参加しましたか。（〇は1つだけ）

- | | |
|--------|-----------|
| 1 参加した | 2 参加していない |
|--------|-----------|

【問12で「2 参加していない」と回答された方のみ】

問12-1 地域活動や行事へ参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1 仕事や学業が忙しく時間がない | 7 一緒に活動する仲間がない |
| 2 子育てや家事が忙しい | 8 健康上の理由で参加できない |
| 3 自分の趣味などに時間を使いたい | 9 興味がない |
| 4 参加するきっかけがない | 10 参加したいと思わない |
| 5 参加する方法が分からない | 11 その他（ ） |
| 6 参加したい活動がない | |

問13 あなたは、今後、地域活動や行事（お祭り、清掃活動、防災活動等）に参加したいと思いませんか。（〇は1つだけ）

- | | |
|---------|--------------|
| 1 参加したい | 2 参加するつもりはない |
|---------|--------------|

問14 住んでいる地域に必要な活動は何ですか。（あてはまるものすべてに〇）

- | |
|--|
| 1 高齢者の援助（家事、外出や買い物の付き添い） |
| 2 ごみ出しなどの簡単な作業援助 |
| 3 障がいのある人の援助（家事、外出や買い物の付き添い） |
| 4 高齢者や障がいのある方の世帯を見守る活動 |
| 5 障がいの有無にかかわらず子ども同士が交流できる機会をつくる活動 |
| 6 子どもに対し、安全な登下校や遊び場を提供する活動 |
| 7 子育て中の親を支援する体制の整備 |
| 8 子ども同士、親同士のふれあい活動 |
| 9 中高年の健康維持の啓発を目的とした活動 |
| 10 近所付き合いや世代間交流がすすむイベントの開催 |
| 11 防犯に関する活動 |
| 12 防災や災害救助に関する活動 |
| 13 誰もが気軽に立ち寄ることができる居場所づくり（集いの場） |
| 14 空き教室や空き店舗を使って交流の場をつくる活動 |
| 15 その他（ ） |
| 16 特に必要ない |

問 15 地域のつながりを築くために進めるべき取り組みは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1	あいさつ運動の推進	7	趣味やサークル活動などの促進
2	自治会・町内会への加入促進	8	災害時の支援体制づくりを通じた交流活動
3	世代をこえた交流活動の推進	9	年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが安心して過ごせる居場所づくり
4	食事会やイベント等を開催し、交流を深める	10	広域（小学校区単位）でのつながりの強化
5	祭り、遊びなどの伝承	11	その他（ ）
6	子どもの見守りや防犯活動の推進		

問 16 地域に関する様々な情報を得る方法として希望するものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1	学校等で配られるチラシ等	8	市の広報紙等
2	防災訓練・避難訓練の場	9	市公式ウェブサイトなど、インターネットによる情報提供
3	防災に関する展示会やシンポジウム	10	SNS（LINE、facebook、Twitter など）
4	回覧板や地域の掲示板	11	自治会・町内会の会合など
5	公民館や図書館などで行う講座やセミナー	12	テレビやラジオ
6	専門家による講演会	13	新聞や雑誌
7	国や自治体で配布するパンフレット	14	その他（ ）

3 地域の支えあいについておたずねします。

問 17 自身や家族に関して、現在の悩みや困りごとはどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1	健康のこと	7	介護のこと
2	子育て・保育・教育のこと	8	家族関係（DV、夫婦不仲、親子関係、嫁姑関係など）
3	学業・進路のこと	9	隣近所との関係のこと
4	仕事・就職のこと	10	住まいのこと
5	お金のこと	11	悩みや困りごとは特にない
6	老後のこと	12	その他（ ）

問 18 困った時、誰に、またはどこに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 家族・親族 | 11 相談支援専門員(障がい者相談員) |
| 2 友人・知人 | 12 障害相談支援事業所 |
| 3 隣近所の人 | 13 介護・福祉施設 |
| 4 市役所 | 14 保健所 |
| 5 社会福祉協議会 | 15 保健センター |
| 6 地区や自治会・町内会などの役員 | 16 医療機関 |
| 7 民生委員・児童委員 | 17 警察 |
| 8 保育園・幼稚園・認定こども園・学校 | 18 その他() |
| 9 地域包括支援センター | 19 相談していない |
| 10 ケアマネジャー | 20 どこに相談すれば良いかわからない |

問 19 あなたも含め、地域住民が優先的に取り組んでいきたい地域の課題や問題として、どのようなことがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---------------------------|
| 1 乳幼児期の子育て家庭への支援 |
| 2 子どもの安全・安心の確保 |
| 3 ひとり親家庭の子育て支援 |
| 4 共働き家庭の子どもの放課後の居場所づくり |
| 5 青少年の健全育成 |
| 6 いじめや子どもの非行への対応 |
| 7 ひきこもり等への対応 |
| 8 高齢者の社会参加や生きがいづくり |
| 9 高齢者の見守り体制や生活支援の確保 |
| 10 老老介護世帯の把握とその支援 |
| 11 障がいのある方の社会参加や生きがいづくり |
| 12 障がいのある方の見守り体制や生活支援の確保 |
| 13 健康づくりについて人々の意識向上や知識の普及 |
| 14 地域の支え合いの意識への対応 |
| 15 子どもや高齢者、障がいのある方への虐待防止 |
| 16 ヤングケアラー※への支援 |
| 17 その他() |
| 18 わからない |

※ヤングケアラーとは、家族にケアを必要とする人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護などを行っている 18 歳未満の子ども。

問 20 あなたは、地域で困りごとがあった場合、地域で支援することが必要だと思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-------------|-----------|---------|
| 1 支援が必要だと思う | 2 支援は必要ない | 3 わからない |
|-------------|-----------|---------|

問 21 あなたは、地域でどのような支援が必要になるとお思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|---------------------|
| 1 買い物など家事の手助け | 7 子育ての相談 |
| 2 ごみ出し | 8 短時間の子どもの預かり |
| 3 通院の付き添い | 9 保育園・幼稚園・認定こども園の送迎 |
| 4 安否確認の声掛け | 10 その他 () |
| 5 話し相手 | 11 特にない |
| 6 悩みごと、心配ごとの相談 | |

問 21-1 今後あなたが行ってみたい地域での支援活動(地域の支えあい)はありますか。
あてはまるものを問 21 の選択肢「1~10」から5つまで選び、その選択肢番号
をご記入ください。

■今後あなたが行ってみたい地域活動(問 21 の選択肢「1~10」から選択)

①	<input type="text"/>	②	<input type="text"/>	③	<input type="text"/>	④	<input type="text"/>	⑤	<input type="text"/>
---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------	---	----------------------

問 22 地域の支え合いの関係を築くために、あなたが必要だと思うつながりは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 ご近所、自治会・町内会などのつながり |
| 2 ボランティア活動を通じたつながり |
| 3 趣味のサークルなどを通じたつながり |
| 4 子育て、介護など同じ悩みをもつ当事者やその支援グループのつながり |
| 5 子どもの通園や通学時の見守りなど交通安全・防犯活動等を通じたつながり |
| 6 防犯・防災活動を通じたつながり |
| 7 その他 () |

問 23 あなたは、生活上の問題で手助けが必要なとき、近所の人たちに助けを求める
ことができますか。(○は1つだけ)

- | |
|----------------------|
| 1 遠慮なく求めることができる |
| 2 申し訳なく思うが、求めることはできる |
| 3 申し訳なく思い、求めることができない |
| 4 人に頼りたくないなので、求めない |
| 5 誰に求めていいかわからない |

問 24 地域の支え合いのための個人情報の取り扱いについて、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|----------------------------|--|
| 1 個人情報の共有は地域の支え合いのために必要である | |
| 2 個人情報の共有は緊急時や災害時には必要である | |
| 3 個人情報は共有してほしくない | |
| 4 個人情報は共有すべきではない | |
| 5 その他 () | |

4 ボランティア活動についておたずねします。

問 25 ボランティア活動へ参加していますか。(○は1つだけ)

- | | |
|----------------|-------------|
| 1 現在、参加している | 3 参加したことがない |
| 2 過去に参加したことがある | 4 参加したくない |

【問 25 で「1 現在、参加している」「2 過去に参加したことがある」と回答された方のみ】

問 25-1 どのようなボランティア活動へ参加しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|--|
| 1 高齢者福祉活動（安否確認、介護施設の訪問、外出支援など） | |
| 2 障がい者支援活動（安否確認、介護施設の訪問、外出支援など） | |
| 3 子育て支援活動（相談、一時預かり、本の読み聞かせなど） | |
| 4 防火・防災活動 | |
| 5 清掃活動・リサイクル活動 | |
| 6 青少年の健全育成活動（スポーツ活動やキャンプなど） | |
| 7 世代間交流活動（子どもと高齢者との交流など） | |
| 8 その他 () | |

【問 25 で「3 参加したことがない」と回答された方のみ】

問 25-2 参加したことがない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|-----------------------|
| 1 仕事や学業が忙しく時間がないから | 6 参加したい活動がないから |
| 2 子育てや家事が忙しいから | 7 一緒に活動する仲間がないから |
| 3 自分の趣味などに時間を使いたいから | 8 健康上の理由 |
| 4 参加するきっかけがないから | 9 自治会・町内会などに加入していないから |
| 5 参加する方法がわからないから | 10 その他 () |

【問 25 で「4 参加したくない」と回答された方のみ】

問 25-3 参加したくない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 興味や関心がないから | 6 自分の生活のことで精一杯だから |
| 2 機会がないから | 7 一緒に活動する仲間がないから |
| 3 時間がないから | 8 知っている人がいないから |
| 4 気恥ずかしいから | 9 地域との関わりを持ちたくないから |
| 5 参加方法や活動内容がわからないから | 10 その他 () |

問 26 あなたがボランティア活動へ参加する上で必要なことは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1 活動に関する広報・情報提供の充実 | 9 少額でも報酬が支払われる活動 |
| 2 活動に関する相談窓口の充実 | 10 活動に応じたポイント制などの導入 |
| 3 ボランティア講習会や研修の定期的な実施 | 11 活動資金や物品の補助 |
| 4 表彰など社会的な評価 | 12 事故があったときの保障体制 |
| 5 友人や家族と参加できる活動 | 13 活動場所の確保 |
| 6 時間的に負担の少ない活動 | 14 何かのきっかけ |
| 7 体力的に負担の少ない活動 | 15 特にない |
| 8 人間関係上の負担の少ない活動 | 16 その他 () |

5 災害時における活動等についておたずねします。

問 27 あなたは、お住まいの小中学校区における災害時の避難場所（指定避難所）を知っていますか。

(○は1つだけ)

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問 28 災害に備えて行っている自助活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | |
|---|
| 1 テレビやラジオで防災情報を確認している |
| 2 広報あまや市公式ウェブサイト、市防災情報メールなどで防災情報を確認している |
| 3 防災用品や備蓄品(水、食料品、懐中電灯など)を準備している |
| 4 災害時や緊急時の家族との連絡方法や集合場所などを決めている |
| 5 災害時や緊急時に持ち出すものを準備している |
| 6 災害時に備えてタンスの固定や食器棚のものが飛び出さないような工夫をしている |
| 7 防災訓練や地域活動に参加するようにしている |
| 8 家族や友人、地域の人と、地域のことや災害について情報交換するようにしている |
| 9 避難行動要支援者(自ら避難することが困難な者)の情報提供の同意をしている |
| 10 特に何もしていない |
| 11 その他 () |

問 29 災害時に情報等を得る方法として希望するものは何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1 テレビ | 6 直接の声かけ |
| 2 ラジオ | 7 手話(通訳者の派遣) |
| 3 電話 | 8 SNS(LINE、facebook、Twitterなど) |
| 4 メール | 9 その他 () |
| 5 FAX | |

問 30 災害時、地域でしてほしい支援は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------|-----------|
| 1 安否確認の声掛け | 5 相談・話し相手 |
| 2 安全な場所への避難誘導 | 6 特にない |
| 3 応急手当 | 7 その他 () |
| 4 一時的な保護 | |

問 31 あなたは、「避難行動要支援者名簿制度※」を知っていますか。(○は1つだけ)

- | |
|---------------------------|
| 1 名前や制度の内容も知っている |
| 2 名前や制度は聞いたことはあるが、内容は知らない |
| 3 名前も制度も知らない |

※避難行動要支援者名簿制度とは、災害時に一人で避難することができないおそれのある高齢者や障がいのある方などの安否確認や避難支援を適切かつ円滑に行うことを目的とするもので、一定の条件に該当する方が登録されます。

問 32 「災害時に住民が支え合う地域づくり」に必要なと思うことは何ですか。
(○は2つまで)

- | |
|---------------------------|
| 1 自主防災組織づくり |
| 2 避難行動要支援者を把握できる地図の作成 |
| 3 地域での定期的な避難訓練や勉強会の実施 |
| 4 地域サービスなどを提供する施設や事業者との連携 |
| 5 その他 () |

6 再犯防止についておたずねします。

問 33 あなたは、過去に罪を犯した人の立ち直り支援について、どのように思いますか。
(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------|
| 1 必要である | 4 必要ではない |
| 2 どちらかといえば必要である | 5 わからない |
| 3 どちらかといえば必要ではない | |

問 34 再犯防止を進めるために、あなたはどのような協力ができると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 再犯防止に関するボランティア活動に参加する |
| 2 再犯防止に関する啓発キャンペーンやイベント等に参加する |
| 3 SNS等を活用して再犯防止に関する広報・啓発の情報を発信する |
| 4 罪を犯した人の相談に乗り、助言やサポートをする |
| 5 協力雇用主(犯罪歴を承知で雇用し協力する事業主)として雇用する |
| 6 更生保護施設にお金や品物などを寄付する |
| 7 その他 () |
| 8 わからない |

7 成年後見制度についておたずねします。

※成年後見制度とは、認知症や知的障がい、精神障がいにより、判断能力が十分でない状態となり、契約などの法律行為における意思決定が難しい方について、家庭裁判所に申し立て、本人に適切な成年後見人等を選任し、成年後見人等が財産を管理するほか、介護などのサービスや施設入所などの契約を結ぶなどの支援をする制度です。

問 35 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------|--------------------|
| 1 よく知っている | 3 聞いたことはあるが内容は知らない |
| 2 少し知っている | 4 全く知らない |

問 36 あなた自身や親族が、認知症などにより判断が十分にできなくなった場合、「成年後見制度」を利用したいと思いませんか。(○は1つだけ)

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 利用したい | 3 利用しない(したくない) |
| 2 利用したいが手続きを知らない | 4 わからない |

問 37 成年後見制度について相談できる機関を知っていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 権利擁護センター | 6 名古屋家庭裁判所 |
| 2 地域包括支援センター | 7 専門職(弁護士、司法書士、社会福祉士) |
| 3 市役所の高齢福祉担当課 | 8 その他() |
| 4 障がい者相談支援事業所 | 9 知らない |
| 5 市役所の障がい福祉担当課 | |

問 38 あま市では、令和3年4月1日に成年後見制度について専門的に相談できる「権利擁護センター」を開設しています。「権利擁護センター」に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|--|
| 1 相談窓口の充実 | |
| 2 セミナー(説明会)の開催 | |
| 3 権利擁護センターや成年後見制度についての「広報あま」での紹介 | |
| 4 権利擁護センターや成年後見制度についてのパンフレットの作成・配布 | |
| 5 権利擁護センターや成年後見制度について市や社会福祉協議会のウェブサイトでの紹介 | |
| 6 成年後見制度の手続きの支援 | |
| 7 成年後見人等に対する支援 | |
| 8 成年後見支援の担い手の育成・確保 | |
| 9 その他() | |
| 10 特になし | |

8 市の福祉施策等についておたずねします。

問 39 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。
(○は5つまで)

- | |
|--|
| 1 高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策 |
| 2 円滑な移動のための公共交通機関の整備 |
| 3 健康の保持・増進を図る健康づくり |
| 4 生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援） |
| 5 ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実） |
| 6 街のバリアフリー化 |
| 7 ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援） |
| 8 地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援） |
| 9 地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用） |
| 10 既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備） |
| 11 その他（ ） |

問 40 地域福祉を進めるにあたって、地域の課題を解決する方法についてあなたのお考えに最も近いものはどれですか。(○は1つだけ)

- | |
|---|
| 1 行政が取り組むべきである |
| 2 地域の住民が取り組むべきである |
| 3 行政と住民が協力し合い、役割を分担して取り組むべきである |
| 4 行政や住民だけでなく、地域で活動する人や事業所、関係機関等と協力して取り組むべきである |
| 5 わからない |
| 6 その他（ ） |

問 41 市の地域福祉施策について、日頃感じていることや困っていること、ご意見やご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

次のページに続きます 

9 社会福祉協議会の活動についておたずねします。

問 42 あなたは、あま市社会福祉協議会を知っていますか。(1つだけ○)

- 1 よく知っている
- 2 少しは知っている
- 3 聞いたことはあるが、あまり知らない
- 4 全く知らない

【問 42で「1 よく知っている」「2 少しは知っている」「3 聞いたことはあるが、あまり知らない」に回答された方のみ】

問 42-1 社会福祉協議会は、社会福祉法に基づいた福祉団体ですが、あなたが知っている活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 高齢者の介護を支援する介護保険サービス
- 2 障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス
- 3 小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育
- 4 福祉に関する情報提供
(社協だより「まるっとあま」・ホームページ・地域福祉サービスのご案内)
- 5 地域での助け合いの仕組みづくり
(ふれあい・いきいきサロン事業及び安心支え合いネットワーク事業)
- 6 地域を支援するボランティア育成・活動
- 7 福祉団体(老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、心身障がい児・者保護者会、母子寡婦福祉会、遺族連合会)に対する支援
- 8 福祉に関する講座、講演会
- 9 福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実
- 10 経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援
- 11 その他 ()

【すべての方におたずねします。】

問 43 あなたが考える社会福祉協議会に期待したい役割は何ですか。(○は3つまで)

- 1 高齢者の介護を支援する介護保険サービス
- 2 障がいのある人の日常生活を支援する自立支援サービス
- 3 子育て支援などの児童福祉サービス
- 4 小・中・高等学校、地域住民を対象とした福祉教育
- 5 福祉に関する情報提供
(社協だより「まるっとあま」・ホームページ・地域福祉サービスのご案内)
- 6 地域での助け合いの仕組みづくり
(ふれあい・いきいきサロン事業及び安心支え合いネットワーク事業)
- 7 地域を支援するボランティア育成・活動
- 8 福祉団体(老人クラブ連合会、子ども会連絡協議会、身体障害者福祉協会、心身障がい児・者保護者会、母子寡婦福祉会、遺族連合会)に対する支援
- 9 福祉に関する講座、講演会
- 10 福祉に対するニーズの把握、サービス企画の充実
- 11 経済的に不安定な世帯の自立を支援する資金の貸付・相談支援
- 12 その他 ()

問 44 社会福祉協議会では、地域福祉事業の推進を資金的に支えてくださるサポーターとして会員募集(法人会員1口3,000円、普通会员1口500円)を行っていますがご存知ですか。(1つだけ○)

- 1 よく知っており、加入している
- 2 よく知らないが、加入している
- 3 聞いたことはあるが、加入していない
- 4 全く知らないし、加入していない

問 45 あなたは、赤い羽根共同募金が地域福祉の推進を図るための、社会福祉事業に役立てられていることを知っていますか。(1つだけ○)

- 1 よく知っている
- 2 少しは知っている
- 3 聞いたことはあるが、あまり知らない
- 4 全く知らない

2 団体向けアンケート調査票

あま市 地域福祉に関するアンケート調査

『あま市地域福祉計画※』策定にあたり、ご意見をお聞かせください。

※地域福祉計画とは住民等の参加を得て、地域の様々な生活上の課題の解決に向けて、地域福祉を推進するための仕組みをつくる計画です。

日頃からあま市の福祉行政にご理解とご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では、平成31（2019）年3月に策定した「第2次あま市地域福祉計画及び第2次あま市社会福祉協議会地域福祉活動計画」の見直しを行うこととなりました。この度、計画の改定に伴い、市内の関係福祉団体等の皆様に地域福祉に関するご意見等をお聞かせいただき、今後の取り組みに反映していきたいと考えております。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、アンケートのご回答にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年10月

あま市長 村上 浩司

【アンケートのご記入にあたってのお願い】

ご記入いただいた本調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて10月28日（金）までにポストへ投函してください。

【お問い合わせ先】

あま市役所 社会福祉課 社会福祉係 電話（052）444-3135

1. 現在の貴団体等について

問1 貴団体等の概要を教えてください。

◆貴団体等名： _____

◆記入者の役職、お名前： _____

◆団体等の概要（主な活動内容等）

※概要の分かるものがありましたら、併せて資料を添付願います。

問2 貴団体では、活動を行う上で他の団体や機関等と交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 自治会	6 社会福祉協議会	11 NPO
2 ボランティア団体	7 保護者会・PTA	12 その他
3 民生委員・児童委員	8 商店街	13 特に関係はない
4 老人クラブ	9 保育園・幼稚園・認定こども園	
5 福祉施設	10 小・中学校	

問3 貴団体及び会員等が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1 活動のマンネリ化	7 他の団体と交流する機会が乏しい
2 新しい会員が入らない	8 活動の場所(拠点)の確保が難しい
3 リーダー(後継者)が育たない	9 活動資金が足りない
4 市民に情報発信する場や機会が乏しい	10 その他()
5 市民のニーズに合った活動ができていない	11 特に困ったことはない
6 支援を必要とする人の情報が得にくい	

2. 福祉課題について

問4 地域のつながりが徐々に薄れてきていることによる地域力の低下や、「ダブルケア」、「8050問題」などに代表される複合的な課題が全国的な課題となっており、貴団体の活動を通じても様々な地域における福祉課題をご経験されていることと思います。それらの具体的な事例はもちろんのこと、今後起こりうる課題として貴団体が心配されていることや、その課題解決のために必要なことなど、どのような内容でも構いません。下欄に自由にご記入ください。

3. 連携について

問5 現在、あま市や社会福祉協議会と貴団体との連携について何か課題がありましたらご記入ください。また、その課題解決のために、今後、市や社会福祉協議会にどのような事を望まれるかをお聞かせください。

4. 地域共生社会について

問6 誰もが役割を持てる「地域共生社会※」の実現が重要となります。団体等の立場から「地域共生社会」の実現についてお考えをお聞かせください。

※地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる社会

5. 福祉施策について

問7 市として特に力を入れて取り組むべきと思われる福祉施策は何ですか。

(〇は5つまで)

- 1 高齢者や障がいのある方等が安心して暮らせる在宅福祉施策
- 2 円滑な移動のための公共交通機関の整備
- 3 健康の保持・増進を図る健康づくり
- 4 生きがいづくり（生涯学習の推進、サークル活動の支援、起業・就職の支援）
- 5 ボランティア意識の啓発（学校教育の充実、社会教育の充実）
- 6 街のバリアフリー化
- 7 ボランティア団体やNPO等への支援体制の拡充（設立・運営の支援）
- 8 地域交流事業の促進（地域情報の発信、世代間交流の活性化、地域交流イベントの支援）
- 9 地域内の人的ネットワークや施設の活用（人的資源、公共施設・民間施設の活用）
- 10 既存組織のネットワーク化（連携・協力体制の確立、相談窓口の整備）
- 11 その他（）

問8 最後に、地域福祉計画についてご提案等がありましたらお願いします。

ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れ、10月28日（金）までに投函してください。

あま市地域福祉に関する
アンケート等調査報告書

令和5年 月

発行 : あま市福祉部社会福祉課
企画・編集 : あま市福祉部社会福祉課
